

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

**平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 日本大学 2 大学名 日本大学
- 3 研究組織名 医学部総合医学研究所・細胞治療研究グループ
- 4 プロジェクト所在地 東京都板橋区大谷口上町 30-1
- 5 研究プロジェクト名 脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の臨床応用に向けた橋渡し研究

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
松本 太郎	医学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 24 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
松本 太郎	医学部・教授	治療用細胞としての特性解析	研究の総括、血管新生能分子機構の解明
加野 浩一郎	生物資源科学部・教授	治療用細胞としての特性解析	脱分化による多能性獲得機構の解明
越永 従道	医学部・教授	治療用細胞としての特性解析	ヒト検体の採取・提供
池田 太郎	医学部・研究医員	治療用細胞としての特性解析	組織特異的分化指向性の解明
槇島 誠	医学部・教授	治療用細胞としての特性解析	脱分化による多能性獲得機構の解明
野呂 知加子	生産工学部・教授	治療用細胞としての特性解析	移植組織内における細胞特性の解明
副島 一孝	医学部・准教授	臨床応用に適合した調製法の確立	吸引脂肪を用いた調製法の開発
上野 高浩	医学部・兼任講師	移植安全性の検討	遺伝的安定性の検討、造腫瘍性試験の実施
風間 智彦	医学部・助手	移植安全性の検討	遺伝的安定性の検討、造腫瘍性試験の実施
徳橋 泰明	医学部・教	DFAT を用いた新規細胞治	難治性骨折に対する細

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

	授	療の開発	胞治療の開発
福田 昇	総合科学 研究所・教授	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	慢性腎炎に対する細胞 治療の開発
仲沢 弘明	医学部・教 授	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	重度熱傷に対する細胞 治療の開発
高橋 悟	医学部・教 授	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	腹圧性尿失禁に対する 細胞治療の開発
大日方 大亮	医学部・助 教	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	腹圧性尿失禁に対する 細胞治療の開発
高橋 昌里	医学部・客 員教授	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	造血幹細胞生着促進、 GVHD 予防を目的とした 細胞治療の開発
平山 篤志	医学部・研 究所教授	DFAT 細胞治療の前臨床試 験	虚血性心疾患に対する 細胞治療の確立
山口 健哉	医学部・准 教授	DFAT 細胞治療の前臨床試 験	至適移植条件の確立
石毛 美夏	医学部・専 任講師	DFAT 細胞治療の前臨床試 験	造血幹細胞生着促進、 GVHD 予防を目的とした 細胞治療の開発
谷ヶ崎 博	医学部・准 教授	DFAT 細胞治療の前臨床試 験	造血幹細胞生着促進、 GVHD 予防を目的とした 細胞治療の開発
月村 直樹	歯学部・准 教授	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	歯周病に対する細胞治 療の開発
秋田 大輔	歯学部・助 教	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	歯周病に対する細胞治 療の開発
(共同研究機関等) 竹内 昌治	東京大学 生産技術 研究所・教 授	治療用細胞としての特性解 析	高次組織誘導法の開発
興津 輝	東京大学 生産技術 研究所・特 任教授	治療用細胞としての特性解 析	高次組織誘導法の開発
松峯 元	東京女子 医科大学・ 講師	DFAT を用いた新規細胞治 療の開発	末梢神経再生法の検討

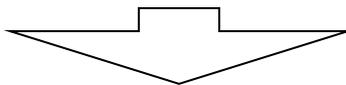
<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
DFAT を用いた新規細 胞治療の開発	歯学部・准教授	本田 雅規	歯周病に対する細胞治 療の開発

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



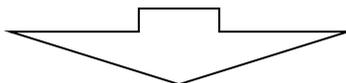
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
歯学部・准教授	歯学部・准教授	月村 直樹	歯周病に対する細胞治療の開発
歯学部・助教	歯学部・助教	秋田 大輔	歯周病に対する細胞治療の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
DFATを用いた新規細胞治療の開発	大学院総合科学研究科・教授	福田 昇	慢性腎炎に対する細胞治療の開発

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



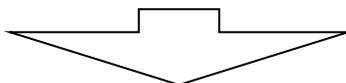
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大学院総合科学研究科・教授	総合科学研究所・教授	福田 昇	慢性腎炎に対する細胞治療の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
治療用細胞としての特性解析	東京大学生産技術研究所・准教授	竹内 昌治	高次組織誘導法の開発

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



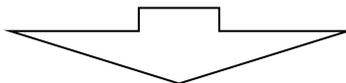
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京大学生産技術研究所・准教授	東京大学生産技術研究所・教授	竹内 昌治	高次組織誘導法の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
治療用細胞としての特性解析	医学部・助教	池田 太郎	組織特異的分化指向性の解明

(変更の時期:平成 27 年 12 月 1 日)



法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

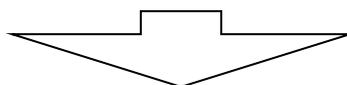
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学部・助教	医学部・研究医員	池田 太郎	組織特異的分化指向性の解明

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
移植安全性の検討	医学部・准教授	上野 高浩	遺伝的安定性の検討, 造腫瘍性試験の実施

(変更の時期:平成 28 年 3 月 1 日)



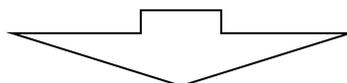
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学部・准教授	医学部・兼任講師	上野 高浩	遺伝的安定性の検討, 造腫瘍性試験の実施

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
治療用細胞としての特性解析	東京大学生産技術研究所・特任准教授	興津 輝	高次組織誘導法の開発

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



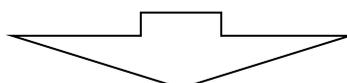
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京大学生産技術研究所・特任准教授	東京大学生産技術研究所・特任教授	興津 輝	高次組織誘導法の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
DFATを用いた新規細胞治療の開発	東京女子医科大学・助教	松峯 元	末梢神経再生法の検討

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



新

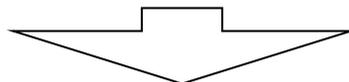
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京女子医科大学・助教	東京女子医科大学・講師	松峯 元	末梢神経再生法の検討

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
DFAT細胞治療の前臨床試験	医学部・助教	石毛 美夏	造血幹細胞生着促進、GVHD 予防を目的とした細胞治療の開発

(変更の時期:平成 28 年 5 月 1 日)



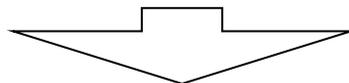
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学部・助教	医学部・専任講師	石毛 美夏	造血幹細胞生着促進、GVHD 予防を目的とした細胞治療の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
DFATを用いた新規細胞治療の開発	医学部・教授	高橋 昌里	造血幹細胞生着促進、GVHD 予防を目的とした細胞治療の開発

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



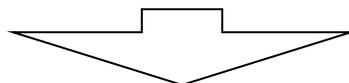
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学部・教授	医学部・客員教授	高橋 昌里	造血幹細胞生着促進、GVHD 予防を目的とした細胞治療の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
DFAT細胞治療の前臨床試験	医学部・教授	平山 篤志	虚血性心疾患に対する細胞治療の確立

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学部・教授	医学部・研究所教授	平山 篤志	虚血性心疾患に対する細胞治療の確率

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

11 研究の概要

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

細胞治療を広く普及させるためには、苦痛を伴わず採取でき簡便に大量調製が可能な移植用細胞の開発が望まれる。我々の研究グループは、脂肪組織から単離した成熟脂肪細胞を天井培養という方法で培養することによって得られる細胞群(脱分化脂肪細胞: Dedifferentiated fat cells, DFAT)が、間葉系幹細胞(Mesenchymal stem cell, MSC)に類似した多能性を獲得することを明らかにした。DFATは少量の脂肪組織から均質なMSC様細胞を大量調製できるため、実用性の高い治療用細胞ソースとして期待できる。本事業では既存の治療用細胞との比較などを通じて DFAT の治療用細胞としての適性を明らかにし、臨床応用に適合した DFAT 調製法や品質管理法を確立する。そして下肢虚血モデル動物などを用いて DFAT 細胞治療の有効性と安全性を検証する。これらのデータを基に DFAT を用いた血管再生細胞治療の臨床研究の実施を目指す。具体的には、「治療用細胞としての特性解析」、「臨床応用に適合した細胞調製法の確立と移植安全性の検証」、「DFAT 細胞治療の開発と前臨床試験」の各テーマに沿って臨床応用に向けた橋渡し研究を展開する。本事業によって得られる研究成果は、医療経済的にも優れた普遍的な細胞治療の確立に寄与することが予想される。

(2) 研究組織

1. 研究代表者の役割

研究代表者は、本プロジェクトで実施する研究の総括及び成果発表、研究グループ間の情報共有、役割分担、知財戦略等の統括を担った。

2. 各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

臨床研究に向けた橋渡し研究では、研究代表者が医学部の複数の診療科における役割分担や研究課題を取りまとめ、ヒト脂肪組織の採取から臨床試験まで系統的に実施できる研究体制を形成した。日本大学医学部では、臨床系教室 11 分野(小児科、循環器内科、腎臓内分泌内科、総合内科、総合外科、小児外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科、泌尿器科、耳鼻咽喉頭頸部外科)および基礎系教室として生化学分野が研究に参加し、有機的な研究組織を構築した。また医学部以外の学部と共同で行う学際的研究では、4 名のコアメンバーである加野、野呂、福田、本田(平成 27 年 4 月より月村に変更)が、それぞれ生物資源科学部、生産工学部、大学院総合科学研究所、歯学部における研究グループの統括を行った。研究代表者および分担者は全員、一般財団法人公正研究推進協会(APRIN) が提供する e ラーニングプログラム(CITI Japan)を受講することにより、研究倫理に関する教育を受けた。

3. 研究プロジェクトに参加する研究者の人数

本プロジェクトでは、9 名の基礎研究者と、12 名の臨床医学を専門とする研究者及び 3 名の学外研究者(合計 24 名)が主な研究者として参加した。さらに大学院生、PD、RA、研究員、研究協力員、臨時職員を含めると合計 76 名の研究者が参加した。

4. 大学院生・PD 及び RA の人数・活用状況

計 28 名の大学院生、3 名のポスト・ドクター(PD)、2 名のリサーチ・アシスタント(RA)が本プロジェクトに参加した。

5. 研究チーム間の連携状況

研究代表者の松本と 4 名のコアメンバーとはすでに多くの共同研究を行っており、学部横断的な研究体制が構築されている。研究代表者と 4 名のコアメンバーは医学部で行われるミー

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

ティングにて進捗状況の確認や相互評価を定期的に行った。

6. 研究支援体制

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)より知財コーディネーター(2名)が本事業を担当し、知財戦略支援を行った。また日本大学医学部では総合医学研究所、医学研究支援部門、研究事務課が一体となり本事業を側面より支援した。また臨床研究の立案・実施に関しては、日本大学医学部附属板橋病院臨床研究センターの支援を受けた。

7. 共同研究機関との連携状況

大学研究機関として、東京大学・生産技術研究所、東京女子医科大学・形成外科、名古屋大学・小児科、北海道大学・地球環境科学研究所、福岡歯科大学・再生医学研究センターと共同研究を実施した。またバイオ関連企業として、株式会社細胞科学研究所、協和発酵キリン株式会社、日水製薬株式会社、協和発酵キリン株式会社、サンプラテック株式会社、株式会社ジェイテックコーポレーションと共同研究を実施した。

(3) 研究施設・設備等

日本大学医学部総合医学研究所の研究拠点として、医学部創立 70 周年記念館(リサーチセンター) 5,722 m²を中心に、本研究プロジェクトの実験やデータ解析施設として使用した。本研究施設は 200 名以上の研究者と大学院生が利用している。また本研究プロジェクトの動物実験施設として医学研究支援部門ラボラトリーアニマル系実験動物施設および医学研究支援部門生物化学系感染症ゲノムセンターを利用した。研究設備に関しては、本事業において FACS Aria セルソーター(稼働時間 634 時間)、超低温槽(稼働時間 38,832 時間)、ロータリーマイクローム(稼働時間 160 時間)、CO₂ インキュベーター(稼働時間 9,888 時間)、マイクロプレートリーダー(稼働時間 146 時間)、倒立型顕微鏡(稼働時間 800 時間)、CO₂ 制御チャンバー(稼働時間 1,200 時間)、全自動セルカウンター(稼働時間 40 時間)、サーマルサイ클ラー(稼働時間 1,440 時間)、パラフィン包埋装置(稼働時間 345 時間)、ケミルミイメージングシステム(稼働時間 250 時間)などを整備し、本研究プロジェクトに役立てた。

(4) 研究成果の概要

< 現在までの進捗状況及び達成度 >

① 治療用細胞としての特性解析(達成度 90%)

・皮下脂肪組織に由来する DFAT の遺伝子発現プロファイルは、脂肪組織由来幹細胞(ASC) と高い相同性を示し、脂肪分化指向性が高いことを明らかにした(図書*4, 学会発表*59, 68, 75)。また脂肪組織の局在部位の相違により、その組織に由来する DFAT の分化指向性が異なることを明らかにした(学会発表*21, 101, 103, 145, 159, 167)。

・脱分化による多能性獲得に関わる転写因子の候補を同定した(学会発表*127, 128, 149, 150, 151, 152, 展示会等*4, 6, 8)。

・DFAT を血管内皮細胞と共培養することにより血管構成細胞であるペリサイトへ分化させる分化誘導系を確立した。また TGFβ とその細胞内シグナル Smad2/3 経路が DFAT のペリサイト分化の主要経路であることを明らかにした(学会発表*29, 50, 54, 78, 80, 92, 103, 139, インターネット*11)。

・アクチン細胞骨格動態変化により脂肪分化が誘導される分子機序を明らかにした(学会発表*162)。

・マイクロ流体デバイスを用いて作成した DFAT コアシェル型細胞ファイバーから収縮能を有する機能的平滑筋細胞の誘導に成功した(論文*20)。

・ヒト類脂肪体には皮下脂肪に比べ小型の脂肪細胞が多く存在し、この脂肪細胞から調製した DFAT は高い骨分化能を示すことを明らかにした(論文*14, 学会発表*102, 109, 129, 164,

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

インターネット*8, 9)。

・ビタミン D 受容体の活性化が、成熟脂肪細胞の脱分化に対し抑制的な作用を示すことを明らかにした(学会発表*70, 73, 107, 115, 140, 156, 161)。

・ブタ心外膜脂肪から調製した DFAT が高い心筋分化能を有することを明らかにした(論文*8, 学会発表*111, 120, 146, インターネット*5)。

・ヒト DFAT の細胞純度や品質を評価するのに適した細胞表面マーカーを同定した(インターネット*4)。

・ヒト DFAT から iPS 細胞を作成に成功した(学会発表*88, 96, 124, 148)。

・DFAT の生着率向上や終末分化細胞への効率的分化を目的とした細胞キャリアの検討を行った(学会発表*3, 9, 10, 14, 27, 28, 47, 64, 67, 99, 131)。

・DFAT から機能性神経細胞への分化誘導に成功した(学会発表*44, 69, 83, 特許*5)。

・ヒト DFAT の遺伝子発現プロファイルに及ぼす継代培養の影響をクラスター解析及び X-means 解析を用いて検討した。その結果、初代培養～第 5 継代までは DFAT が安定な状態にあるが、7～10 継代では安定性が低下することを明らかにした。

・ヒト膝蓋下脂肪体から単離した成熟脂肪細胞から DFAT の調製に成功した。また膝窩下脂肪体由来 DFAT から硝子軟骨様細胞凝集体の誘導に成功した(学会発表*21)。

・ヒト DFAT の免疫制御能や造血細胞維持能を他細胞と比較し、優れた治療効果を示すことを明らかにした(学会発表*71, 108, 123, 125, 136, 142, 165, 166, 図書 6, 7)。

・ヒト DFAT が ASC と同等の T 細胞増殖抑制作用、調節性 T 細胞誘導促進作用、Th17 細胞誘導抑制作用を有することを明らかにした(学会発表*32, 36, 53, 65)。

・ヒト DFAT 由来エクソソーム中に含まれるマイクロ RNA の網羅的解析を行い、ヒト ASC 由来エクソソームと比べて特徴的に発現するマイクロ RNA を同定した。

・ヒト DFAT 由来エクソソームが椎間板髄核細胞の増殖促進作用を示すことを明らかにした。

・ヒト DFAT 由来エクソソームが、T 細胞増殖抑制、調節性 T 細胞誘導促進、Th17 細胞誘導抑制作用を有することを明らかにした(学会発表*32, 36, 53, 56, 65)。

・タモキシフェン誘導下に脂肪細胞の運命追跡ができる遺伝子改変レポーターマウス(Adipo-Cre-ERT2/tdTomato-ROSA26 マウス)に皮膚全層欠損を作成し、創傷治癒過程における脂肪細胞の運命追跡を行った。その結果、皮膚欠損後の組織修復過程で脂肪細胞に由来する線維芽細胞様の形態を示す細胞が出現し、その一部は肉芽組織内で前駆脂肪細胞やペリサイトの形質を獲得していることを明らかにした(学会発表*5, 40)。

・上記レポーターマウスの乳腺脂肪体に乳癌細胞を移植し、癌の進展過程における脂肪細胞の挙動を検討した。その結果、腫瘍組織中に脂肪細胞に由来する線維芽細胞様細胞が出現し、その一部は間葉系幹細胞やペリサイトの形質を獲得していることを明らかにした。一方、癌関連線維芽細胞(CAF)の起源にはなっていないことを示した(学会発表*8)。

・高血圧自然発症ラット(SHR)において、補体 C3 の発現を介して平滑筋細胞の脱分化が起こることを明らかにした(学会発表*13, 23, 24, 25, 37, 87)。

・DFAT を「反重力培養装置」で培養すると細胞増殖能や、コラーゲンの産生能が促進することを明らかにした(学会発表*15, 45)。

・DFAT と神経芽腫細胞の共培養実験により、DFAT が神経芽腫細胞の神経細胞への分化を促進することを明らかにした(学会発表*4, 16, 55)。

・遺伝子導入により DFAT から肝細胞を分化誘導させる方法を明らかにした(受賞*1)。

② 臨床応用に適合した細胞調製法の確立と移植安全性の検証(達成度 95%)

・臨床グレードの DFAT を調製するために必要なアイソレーターを稼働させ、閉鎖系システムで DFAT を作成できることを確認した(学会発表*97, 101, 103, 新聞報道*4, 7, 10)。

・脂肪細胞を容易に効率良く脱分化させるフラスコを設計・開発した(特許*4, 6, 展示会等

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

*1)。

- ・ヒト DFAT を効率良く増殖させる GMP 準拠培地を開発した(論文*13)。
- ・ヒト類脂肪体から DFAT を効率良く調製する至適酵素濃度を決定した(論文*4, 学会発表*122, 135, 特許*1)。
- ・軟寒天コロニー形成試験や免疫不全(NOG)マウス皮下移植による造腫瘍性試験を委託実施し、DFAT に造腫瘍性がないことを確認した(学会発表*59, 63)。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の施設調査を受け、厚生労働省より特定細胞加工物(DFAT)の製造許可を受けた。
- ・ヒト吸引脂肪組織(約 5 mL)から臨床グレードの DFAT を調製し、細胞製造および品質管理に関するプロトコルを作成した(学会発表*12, 18, 22, 26, 41, 59, 63, 95, 110, 119, 143)
- ・ウサギ下肢虚血モデルに対して自家 DFAT の筋肉内注射を行い、移植部位および主要臓器に腫瘍形成や異常分化が認められないことを確認した(学会発表 12, 18, 22, 26, 41, 59, 116, 130, 新聞報道*10, 展示会等*4, 5)。
- ・ブタ下肢虚血モデルに対して自家 DFAT の筋肉内注射を行い、移植部位および主要臓器に腫瘍形成や異常分化が認められないことを確認した。
- ・2 種類の免疫不全ブタ(タクロリムス投与ブタ、IL-2rg ノックアウトブタ)に対し、ヒト DFAT の筋肉内注射を行い、移植部位および主要臓器に腫瘍形成が認められないことを確認した(学会発表*7, 17)。
- ・健常ボランティアから脂肪吸引を行い、自施設の細胞加工施設(CPF)内にて臨床グレードの DFAT を調製する臨床研究を実施した。

③ DFAT 細胞治療の開発と前臨床試験(達成度 85%)

- ・ヒト DFAT が末梢血単核球や ASC などの細胞に比較して高い血管新生能を示すことを明らかにした(論文*17, 学会発表*18, 22, 29, 39, 50, 74, 103, 153, 154, 特許*3, 新聞報道*5, 6, 7, 9, 10, 展示会等*6, 8)。
- ・ウサギ下肢虚血モデルに対する自家 DFAT 移植実験を行い、有効性や移植安全性を確認した(学会発表 12, 18, 22, 26, 41, 59, 74, 90, 116, 130, 新聞報道*5, 6, 7, 9, 10, 展示会等*4, 5)。
- ・ウサギ下肢虚血モデルに対する DFAT の自家移植は、細胞の凍結・解凍を行っても高い血管新生効果が期待できることを明らかにした。
- ・重症下肢虚血患者を対象とした自家 DFAT 細胞移植による血管再生細胞治療の臨床研究プロトコルを作成した。
- ・マウス脊髄損傷モデルに DFAT 移植すると長期間にわたり運動機能が回復することを示した(論文*24, 学会発表*134, 展示会等*4, 5)。
- ・バルーン腔拡張術と両側卵巣摘出を併用したラット持続性腹圧性尿失禁モデルに DFAT を移植すると、排尿機能が改善することを明らかにした(図書*9, 展示会等*4, 5, 6, 8)
- ・ラット顔面神経切離モデルに DFAT 入りシリコンチューブを用いて架橋すると神経再生が促進することを明らかにした(論文*3, 23, 学会発表*19, 31, 61, 展示会等*4, 5, 6)。
- ・マウス炎症性腸疾患モデルに対する DFAT 細胞移植の治療効果を明らかにした(学会発表*56, 93, 図書*3, 4)。
- ・ラット皮膚全層欠損モデルに対する人工真皮移植の際に bFGF と DFAT 移植を併用すると、真皮再生が促進することを示した(論文*22, 図書*8, 学会発表*46, 51, 58, 60, 66, 72, 78, 105, 114, 117, 126, 137, 157, 特許*2)。
- ・ラット難治性骨折モデルや椎間板変性モデルに対する骨・軟骨再生効果を明らかにした(論文*5, 9, 学会発表*48, 82, 85, 89, 98, 104, 112, 118, 134, 144, 158, 168)。
- ・ラット免疫性腎炎モデルに DFAT を静脈内投与すると尿蛋白や腎機能が改善することを明

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

らかにした。またその作用機序が腎臓における抗炎症サイトカイン TSG6 の分泌によることを明らかにした(論文*21, 図書*2, 5, 学会発表*1, 30, 38, 62, 77, 86, 100, 106, 121, 147, 155)。

・ラット全層植皮モデルに bFGF 投与と DFAT 移植を併用すると、bFGF 単独投与に比べ移植皮膚内の血管数が増加することを示した(論文*19, 図書*10, 学会発表 35, 52, 72, 105, 126)。

・ラット皮弁モデルの皮弁基部に DFAT を移植すると皮弁内の血管数が有意に増加し皮弁生着が促進することを明らかにした(論文*15, 図書*10, 学会発表 11, 49, 52, 60, 91, 132, 163)。

・歯周組織欠損ラットに DFAT を含む乳酸グリコール酸共重合体(PLGA)ブロックの移植を行うと、歯槽骨、セメント質、歯根膜の再生を促進することを明らかにした(論文*10, 12, 図書*1, 学会発表*76, 113, 141, 受賞*3)。

・ラット下顎骨欠損モデルに DFAT と RCP(リコンビナントペプチド)複合体を移植すると、骨様硬組織と血管の再生が促進することを明らかにした(論文*1, 学会発表 42)

・ラット尿管逆流症(VUR)モデルに対する DFAT の治療効果を示した(論文*11, 図書*9)。

・ラット低酸素性虚血性脳症モデルに対して DFAT 静脈内投与すると海馬のアポトーシス細胞の減少や運動機能の改善が認められることを明らかにした(論文*6, 学会発表*84)。

・マウス急性移植片対宿主病(GVHD)モデルに DFAT を静脈内投与すると、GVHD に伴う体重減少が抑制され、GVHD の臨床スコアを有意に改善することを明らかにした(論文*7, インターネット 3)。

・ラット尾椎椎間板傷害モデルに対して、DFAT を椎間板内注射することにより、椎間板間隙の狭小化の有意な抑制と、DFAT が軟骨様細胞(髄核細胞)に直接分化することを明らかにした(論文*9, 学会発表*20, 34, 57, 81, 94, 138, 160, インターネット*1)。

・ブタ皮膚全層欠損モデルに対して、DFAT を含浸させた人工真皮の移植を行うと、その後の自家培養表皮移植時に真皮・上皮接合部の基底膜構築が促進されることを明らかにした(論文*1, 学会発表*2, 33, 35)。

・椎間板傷害や受動喫煙によるラット椎間板変性モデルに対し、DFAT を静脈内全身投与することにより椎間板変性が抑制されることを明らかにした(学会発表*20, 48, 82, 89, 104, 112, 展示会等*8)。

・コラーゲン充填シリコンチューブ架橋によるラット反回神経再生モデルの作出に成功した(学会発表*43)。

・ラット軟骨欠損モデルに DFAT から分化誘導した軟骨様細胞凝集体を移植すると、軟骨修復の肉眼的スコア、組織学的スコアが改善することを明らかにした。移植された DFAT 由来細胞凝集体は、移植 2 週間後までは確認できたが 12 週間後には検出が困難になった(論文*3, 展示会等*5, 6, 8)。

・ミニブタ根分岐部欠損モデルに対して病変部に自家 DFAT 移植を行うと、歯周ポケットが改善することを明らかにした。

・ラット新生児壊死性腸炎モデルに DFAT を腹腔内投与すると、生存率や肉眼的・組織構造学的重症度が改善することを明らかにした(特許出願*7, 学会発表*6)。

<優れた成果が上がった点>

1. DFAT が、末梢血単核球や線維芽細胞といった他の細胞源と比較しても、ドナー年齢や継代数に影響されず安定した血管新生作用を示すことを明らかにした。また下肢虚血モデルを用いた移植実験により DFAT は高い血流改善作用を示し、安全に移植できることを確認した(論文*16, 17, 図書*4, 7, 学会発表*18, 22, 39, 41, 59, 90, 101, 103, 116, 153, 154, 新聞報道*10, 展示会等*1, 4, 5, 6, 8)。これらの研究成果により、平成 30 年度より

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)再生医療実用化研究事業に採択され、重症下肢虚血に対する自家 DFAT 移植による再生医療の治験実施に向けた支援を受けることになった。
2. 企業との連携により、従来法より効率的に DFAT を調製できる調製培地や、天井培養を簡便・容易にする培養フラスコの開発に成功した。開発した培養フラスコは特許出願および意匠出願を行った(特許出願*4, 6, 学会発表*22, 41, インターネット*2, 7, 展示会等*1, 4)。
 3. ヒト吸引脂肪組織を用いた検討により、臨床グレードの DFAT をアイソレータを用いた閉鎖系システムで調製する製造法および品質管理法を確立した(学会発表*12, 18, 22, 26, 41, 59, 63, インターネット*2, 10, 12, 新聞報道*4, 展示会等*1, 4, 5)。
 4. 重症下肢虚血に対する DFAT を用いた細胞治療の臨床研究開始に向け、日本大学医学部リサーチセンター細胞加工施設(CPF)に対する PMDA の施設調査を受け、厚生労働省より特定細胞加工物(DFAT)の製造許可を受けた。また適合基準・除外基準、移植細胞数、評価法などを定め、臨床研究のプロトコル作成を行った(インターネット*6, 12)。
 5. 脂肪特異的レポーターマウスを用いた実験により、創傷治癒過程やがんの進展過程において、生体内でも脂肪細胞の脱分化が起こることを明らかにした(学会発表*5, 8, 40)。
 6. 重度熱傷などの皮膚再生を目的とした細胞治療に DFAT が有望であることを種々の検討により明らかにした(論文*22, 図書*8, 学会発表*2, 35, 46, 49, 51, 52, 60, 66, 72, 78, 105, 114, 117, 126, 137, 157, 特許*2, 新聞報道*8, 展示会等*4, 5, 6, 8, 受賞*2)。
 7. 難治性歯周病に対する DFAT 細胞治療の有効性・安全性を明らかにすることができた。また頬脂肪体由来する DFAT が細胞源として有望であることを明らかにした(論文*1, 4, 10, 12, 図書*1, 学会発表*42, 76, 113, 122, 137, 141, 受賞*3, 特許*1, インターネット*8, 9)。
 8. 変形性脊椎症などの骨軟骨疾患に対する DFAT 細胞移植の治療効果や作用メカニズムを明らかにした(論文*5, 9, 18, 学会発表*20, 48, 57, 81, 82, 89, 94, 98, 104, 112, 134, 138, 144, 158, 159, 160, 167, 168, インターネット*1, 展示会等*4, 5, 6, 7, 8)。

<課題となった点>

天井培養による脂肪細胞の多分化能獲得メカニズム解明を目指した検討をいろいろな実験系を用いて実施したが、本プロジェクト終了時までには鍵となる分子メカニズムの同定には至らなかった。しかし、検討の過程において、脂肪細胞が細胞増殖能を獲得するフェーズと多分化能を獲得するフェーズでそれぞれ異なったシグナル経路が活性化することや、天井培養開始直後に脂肪細胞から数種類の液性因子が異なったタイミングで分泌され、これらのオートクライン作用が DNA 複製開始のトリガーとなることが強く推測されるなど、一定の進捗はあったと思われる。今後 DFAT を用いた細胞治療の産業化を目指す上で、脂肪細胞の多分化能獲得メカニズムの解明や DFAT の多能性を担保するバイオマーカーの同定は、知財強化に直結する重要な研究成果となるため、今後も精力的に研究を継続していく予定である。

血管再生治療用細胞として DFAT の研究開発を進める上で、同じ脂肪組織から調製できる ASC との性能比較を行い、DFAT の優位性を示すことが重要であると考えた。そこで本プロジェクトでは、ヒト DFAT の調製と同時に、同一ドナー由来する ASC を調製し、性能比較を行った。その結果、in vitro の実験系では、DFAT は ASC に比べ、血管新生因子の分泌能や血管内皮細胞の管腔形成能が高いという結果が得られたが、下肢虚血モデルマウスを用いた in vivo 移植実験では、治療効果の優位性を示すことができなかつた。今後、虚血部の血流や血管密度の比較のみならず、側副血行路の発達への影響などより詳細な治療効果の評価を行い、ASC との違いを明確にする予定である。ASC は糖尿病などの基礎疾患があるとその

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

性能が低下することが知られおり、糖尿病モデル動物を用いた実験系で、DFAT と ASC の性能比較試験を行うことにより、DFAT の優位性を示すことができる可能性があると考えられる。また重症下肢虚血を対象とした新たな治療法として、HGF プラスミドを用いた遺伝子治療や自家末梢血 CD34 陽性細胞を用いた細胞治療が実用化段階となっている。このような先行している治療法と DFAT 細胞治療との医療経済学的視点も含めた総合的な性能比較が必要となると思われる。

<自己評価の実施結果と対応状況>

本プロジェクトでは、「DFAT による細胞治療開発」という共通テーマの元、医学部を中心に学部横断的な総合医学研究拠点を形成することを目標とした。その結果、医学部、歯学部、生物資源科学部、生産工学部、総合科学研究所から 76 名に上る研究者が精力的に研究を実施し、多くの研究成果が得られたことから、その目標はほぼ達成されたと思われる。またプロジェクト開始時より大学院生を中心とした若手研究者の育成を念頭においた研究計画を立て、それを実践した結果、30 名を超える若手研究者の参画が得られ、教育面においても大きな成果を上げることができた。研究機器に関しては、セルソーター、ロータリーマイクローム、CO₂ インキュベーター、マイクロプレートリーダー、サーマルサイクラー、倒立型顕微鏡、CO₂ 制御チャンバー、全自動セルカウンターなど多くの研究機器を整備することができ、これらはプロジェクト期間中多くの研究者に使用され、本プロジェクトの研究成果に直接つながった。一部の機器(パラフィン包埋装置、ケミルミイメージングシステム)は、本プロジェクトの最終年度に既存の機器が経年劣化により使用できなくなったため、急遽整備することになったが、この整備により多くの研究を滞りなく遂行することができた。研究費の分配に関しては、各研究単位に分担者と定期的にミーティングを行い、必要経費を算出するとともに、発注時にすべて研究代表者が確認する体制を構築することにより、効率的で研究成果に直結する分配を行うことができた。以上の実施内容より、本プロジェクトは日本大学の研究基盤の形成・発展に大きく寄与し、費用対効果の観点から見ても、十分な成果がえられたと思われる。

研究テーマ別の進捗度としては、「治療用細胞としての特性解析」では、DFAT の多分化能獲得メカニズムの解明など一部遅れが生じたが、他の研究はおおむね順調に進捗した。一方、DFAT 三次元培養による高次組織構築の研究など予定より早く完了した項目もあった。これらの状況から達成度 90%と自己評価した。「臨床応用に適合した細胞調製法の確立と移植安全性の検証」では、日本大学医学部リサーチセンターCPF に設置されているアイソレータを用いて GMP 準拠した閉鎖系 DFAT 調製システムを構築し、調製した DFAT の品質管理法を確立するに至った。また調製過程における遺伝的安定性の検証や、移植安全性試験、造腫瘍性試験を実施し、DFAT の治療用細胞としての安全性・妥当性を明確にすることができた。担がんマウスに対する移植実験など一部未実施項目は残ったが、当初達成目標としていた項目はほぼ達成されたと判断し、達成度 95%と自己評価した。「DFAT 細胞治療の開発と前臨床試験」では、血管再生、皮膚再生、歯槽骨再生に関する研究はほぼ順調に進捗した。DFAT を用いた血管再生細胞治療の臨床研究については、臨床研究プロトコルの作成を行ったが、特定認定再生医療等委員会への申請には至らなかった。これらの状況から達成度 85%と自己評価した。

本事業に直接関連する 5 年間の研究成果として、雑誌論文(24 件)、図書(9 件)、学会発表(168 回)、公開シンポジウム(5 回)がなされた。また本事業に係わる特許出願(7 件)や新聞・テレビ報道(10 件)などもなされた。まだ論文化に至っていない研究成果が複数あるため、今後、順次論文化していく予定である。

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

2名の有識者(評価者 1: 東京都健康長寿医療センター研究所・研究部長 森聖二郎先生、評価者 2: 東京大学医科学研究所附属病院セルプロセッシング・輸血部・准教授 長村登紀子先生)に依頼し、3年目終了時および5年目終了時に外部評価を受けた。そのコメントと評価スコアを以下に示す。評価スコアは、「研究内容」、「進捗状況」、「成果報告状況」、「産業財産権」、「社会貢献」についてそれぞれ5: 非常に優れている、4: 優れている、3: 普通、2: やや劣っている、1: 劣っている、の5段階評価とし、その合計点を算出した。

【評価者1】中間評価: DFAT を用いた細胞治療の臨床応用というテーマを共有する個々の研究者が、基礎から臨床にわたるそれぞれの特異分野を生かしながら、チーム全体として相補的に関わりながら研究を進めており高く評価できる。細胞特性解析、細胞調製法確立、前臨床試験という3本柱の達成度は現時点で計画通りの水準を維持しており、近い将来、ヒトへの臨床応用が十分期待できる(評価スコア 21点/25点満点)。**最終評価:** 本プロジェクトでは、DFAT を用いた血管再生細胞治療の実地臨床導入を主たる目的に設定し、その準備段階としてDFATの「治療用細胞としての特性解析(自己評価での達成度90%)」、「臨床応用に適合した細胞調製法の確立と移植安全性の検証(自己評価での達成度95%)」、「DFAT細胞治療の開発と前臨床試験(自己評価での達成度85%)」という3つのテーマに沿って研究が進められた。各テーマの達成度は高く、さらに本プロジェクトは日本大学の研究基盤の形成・発展にも大きく寄与しており、費用対効果の観点から見ても十分な成果がえられたと判断できる。今後、本プロジェクトでえられた知見をもとに、重症下肢虚血に対するDFATを用いた細胞治療の臨床研究の早期開始が期待される(評価スコア 24点/25点満点)。

【評価者2】中間評価: ①研究内容は、動物モデルを作成して有効性を検証し、それを臨床応用へ進めており、基礎から臨床応用までの工程がしっかりできている。進捗も、ほぼ計画通りに行われている点は、高く評価される。②同種細胞としての利用の場合には、将来的にはPMDAと薬事戦略相談の上、再生医療等製品として製剤化を目指す必要があると思われる。臨床研究にてヒトでのPOCを確立された後に、導出企業を決めて、進まれることが期待される。なお、健常ドナーの安全性の担保、どのくらいのドナープールが必要なのかの試算も必要となると考える(評価スコア 23点/25点満点)。**最終評価:** ①オール日本大学と関連外部研究機関および企業との共同研究という大きな体制を率いて研究を牽引されたことは、高く評価される。特に臨床系および基盤的な研究科が参画することで、DFATの特性解析、細胞調製法の確立と移植安全性の検証(非臨床安全性)および細胞治療と前臨床有効性の検証が多方面で進められたこと、特許戦略も十分であり、将来への適応拡大に期待される。②その一方で、AMED再生医療実用化研究事業「重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療の実用化」に採択されたとのことなので、今後はこの臨床研究達成に集中することも必要と考える。なお、非臨床安全性(薬理)試験は、PMDAとの薬事戦略相談後に決定されたヒトへ投与する最終産物を以て検証する必要があるため、PMDAとの薬事戦略相談は欠かせない。③前項において、投与細胞数から勘案した全体の細胞製剤のスケール感を本事業での動物実験等からも推測されるとよいと考える(評価スコア 23点/25点満点)。

<研究期間終了後の展望>

DFATによる血管再生細胞治療の臨床研究に関しては、平成30年度より採択を受けているAMED再生医療実用化研究事業の支援を受け、「重症下肢虚血に対する自家DFAT移植

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

による細胞治療の First-in-Human 臨床研究」の実施を目指していく。これが実現すれば、世界初の DFAT を用いた血管再生細胞治療の試みとなる予定である。また同時に治験への円滑な移行を図るため、PMDA 薬事戦略相談を実施し、臨床に用いる DFAT の品質や安全性の確認、治験プロトコルの策定などを進める。将来的に重症下肢虚血を対象とした臨床研究にて安全性と有効性が確認されれば、より患者数の多い脳梗塞や難治性皮膚潰瘍などへ適応を拡大したいと考えている。また歯科領域、獣医科領域の細胞治療開発といった学部横断的研究に関しては、平成 30 年度より採択を受けている日本大学理事長特別研究の研究費などを用いて、継続発展させていく予定である。本プロジェクトにより整備した機器・備品は継続してこれらの研究に活用していく。

<研究成果の副次的効果>

本プロジェクト研究成果の副次的効果として以下の企業連携、特許申請を行った。

【企業との連携実績】

1. 株式会社細胞科学研究所:DFAT 調製用培地の開発を行った(2015-2018 年)。
2. 360ip ジャパン株式会社:DFAT 細胞治療に関するベンチャー創出に向けた研究を行った(2014. 9-2017. 3 JST 大学発新産業創出プログラム START プロジェクト支援型)。
3. 日水製薬株式会社: DFAT 調製用培地の開発を行った(2018 年-現在)。
4. 一般社団法人体性幹細胞臨床研究会:DFAT 培養上清を用いた再生医療開発を行った(2016-現在)。
5. 協和発酵キリン株式会社:DFAT 及び MSC の大量調製法の開発を行った(2017 年)。
6. サンプラテック株式会社: DFAT 培養フラスコの委託開発を行った(2016 年-現在)。
7. 株式会社ジェイテック・コーポレーション:DFAT 及び MSC の三次元培養に関する研究を行った(2015-2016 年)。

【特許申請】

1. * 出願番号:PCT/JP2015/068658 特願 2014-149676
発明者: 本田雅規, 鶴町仁奈, 秋田大輔, 外木守男, 加野浩一郎, 松本太郎
発明の名称:「脱分化脂肪細胞の取得方法」
出願人: 日本大学
出願日: 2015 年 6 月 29 日
2. * 出願番号: 特願 2014-226599
発明者: 副島一孝, 松本太郎, 風間智彦
発明の名称:「真皮再建用プレート」
出願人: 日本大学
出願日: 2014 年 11 月 7 日
3. * 出願番号: 特願 2015-065598
発明者: 松本太郎, 風間智彦, 加野浩一郎
発明の名称:「脱分化脂肪細胞を有効成分とする血管再生療法用組成物」
出願人: 日本大学
出願日: 2015 年 3 月 27 日
4. * 出願番号: PCT/JP2016/082413 特願 2015-218569
発明者: 松本太郎, 風間智彦, 萩倉一博
発明の名称:「培養容器」

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

出願人: 日本大学
出願日: 2015 年 11 月 6 日

5. *出願番号: 特願 2017-237231
発明者: 杉谷博士, 中野令, 松本太郎, 加野浩一郎
発明の名称: 「哺乳動物由来脱分化脂肪細胞から神経細胞を製造する方法及び哺乳動物由来の脱分化脂肪細胞から神経細胞への分化誘導用キット」
出願人: 日本大学
出願日: 2017 年 12 月 11 日
6. *出願番号: 意願 2018-015323
発明者: 桑原順一, 松本太郎, 風間智彦
発明の名称: 「培養容器」
出願人: 日本大学・株式会社サンプラテック
出願日: 2018 年 7 月 11 日
7. *出願番号: 特願 2018-196820
発明者: 松本太郎, 風間智彦, 佐藤義朗, 見松はるか
発明の名称: 「壊死性腸炎治療用組成物」
出願人: 日本大学・名古屋大学
出願日: 2018 年 10 月 18 日

12 キーワード

- (1) 再生医学 (2) 細胞治療 (3) 間葉系幹細胞
(4) 血管新生 (5) 脂肪細胞 (6) 脱分化脂肪細胞
(7) 創傷治癒 (8) 脂肪組織由来幹細胞

13 研究発表の状況

<雑誌論文>

【本事業に直接関連するもの】

- *Soejima K, Kashimura T, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H. Effect of mature adipocyte-derived fat (DFAT) cells on formation of basement membrane after cultured epithelial autograft on artificial dermis. Plast Reconstr Surg 2019 In press (査読有)
- *Tateno A, Asano M, Akita D, Toriumi T, Tsurumachi-Iwasaki N, Kazama T, Arai Y, Matsumoto T, Kano K, Honda M. Transplantation of dedifferentiated fat cells combined with a biodegradable type I collagen-recombinant peptide scaffold for critical-size bone defects in rats. J Oral Sci 2019 In press (査読有)
- *Shimizu M, Matsumine H, Osaki H, Ueta Y, Tsunoda S, Kamei W, Hashimoto K, Niimi Y, Watanabe Y, Miyata M, Sakurai H. Adipose-derived stem cells and the stromal vascular fraction in polyglycolic-acid (PGA)-collagen nerve conduits promote rat facial nerve regeneration. Wound Repair Regen 26(6): 446-455, 2018 (査読有)
- *Tsurumachi N, Akita D, Kano K, Matsumoto T, Toriumi T, Kazama T, Oki Y, Tamura Y, Tonogi N, Shimizu N, Honda M. Effect of collagenase concentration to isolate small adipocytes from human buccal fat pad. J Oral Sci 60(1): 14-23, 2018 (査読有)
- *Shimizu M, Matsumoto T, Kikuta S, Ohtaki M, Kano K, Taniguchi H, Saito S, Nagaoka M, Tokuhashi Y. Transplantation of dedifferentiated fat cell-derived micromass pellets

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- contributed to cartilage repair in the rat osteochondral defect model. *J Orthop Sci* 23(4): 688-696, 2018 (査読有)
6. *Mikrogeorgiou A, Kondo T, Hattori T, Sugiyama Y, Nakanishi K, Tsuji M, Kazama T, Kano K, Matsumoto T, Hayakawa M, Sato Y. Dedifferentiated fat cells, as a novel source for cell therapy to target neonatal hypoxic ischemic encephalopathy. *Dev Neurosci* 34(1-4): 273-286, 2017 (査読有)
 7. *Murai T, Matsumoto T, Ishige M, Kazama T, Kano K, Mugishima H. Effect of dedifferentiated fat cell transplantation in a mouse model of acute graft-versus-host disease. *J Nihon Univ Med* 76(4-5): 187-194, 2017 (査読有)
 8. *Toyama K, Kano K, Matsumoto T, Hirayama A. Study of cardiac muscle differentiation potential in epicardial adipose-derived dedifferentiated fat cells (DFAT). *J Nihon Univ Med* 76(4-5): 175-185, 2017 (査読有)
 9. *Nakayama E, Matsumoto T, Kazama T, Kano K, Tokuhashi Y. Transplantation of dedifferentiated fat cells promotes intervertebral disc regeneration in a rat intervertebral disc degeneration model. *Biochem Biophys Res Commun* 493(2):1004-1009, 2017 (査読有)
 10. *Suzuki D, Akita D, Tsurumachi N, Kano K, Yamanaka K, Kaneko T, Kawano E, Iguchi S, Toriumi T, Arai Y, Matsumoto T, Isokawa K, Sato S, Honda M. Transplantation of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells into three-wall defects in the rat periodontium induces tissue regeneration. *J Oral Sci* 59(4): 611-620, 2017 (査読有)
 11. *Ikado Y, Obinata D, Matsumoto T, Murata Y, Kano K, Fukuda N, Yamaguchi K, Takahashi S. Transplantation of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells for treatment of vesicoureteral reflux in a rat model. *Int Urol Nephrol* 48(12): 1951-1960, 2016 (査読有)
 12. *Akita D, Kano K, Saito-Tamura Y, Mashimo T, Sato-Shionome M, Tsurumachi N, Yamanaka K, Kaneko T, Toriumi T, Arai Y, Tsukimura N, Matsumoto T, Ishigami T, Isokawa K, Honda M. Use of rat mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells as a cell source for periodontal tissue regeneration. *Front Physiol* 7: 50, 2016 (査読有)
 13. *Taniguchi H, Kazama T, Hagikura K, Yamamoto C, Kazama M, Nagaoka Y, Matsumoto T. An efficient method to obtain dedifferentiated fat cells. *J Vis Exp* Jul 15;(133), 2016 (査読有)
 14. *Tsurumachi N, Akita D, Kano K, Matsumoto T, Toriumi T, Kazama T, Oki Y, Tamura Y, Tonogi M, Isokawa K, Shimizu N, Honda M. Small buccal fat pad cells have high osteogenic differentiation potential. *Tissue Eng Part C*, 22(3): 250-259, 2016 (査読有)
 15. *Kashimura T, Soejima K, Asamai T, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H. The effect of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on a dorsal skin flap model. *J Invest Surg* 29(1): 6-12, 2016 (査読有)
 16. *Nakamura T, Kazama T, Nagaoka Y, Inamo Y, Mugishima H, Takahashi S, Matsumoto T. Influence of donor age and passage number on angiogenic activity in human adipose-derived stem cell-conditioned media. *J Stem Cell Res Ther* 5: 307, 2015 (査読有)
 17. *渡邊拓史, 松本太郎, 萩倉一博, 風間智彦, 高橋昌里. 脱分化脂肪細胞(DFAT)における血管新生効果の検討. *日大医学雑誌* 74(5): 238-245, 2015 (査読有)
 18. *大瀧宗典, 松本太郎, 加野浩一郎, 徳橋泰明. ヒト脱分化脂肪細胞の軟骨分化能の検討. *日大医学雑誌* 74(5): 246-252, 2015 (査読有)
 19. *Asami T, Soejima K, Kashimura T, Kazama T, Matsumoto T, Morioka K, Nakazawa H. Effects of combination therapy using basic fibroblast growth factor and mature

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on skin graft revascularization. *J Plast Surg Hand Surg* 49(4): 229-233, 2015 (査読有)
20. *Hsiao AY, Okitsu T, Onoe H, Kiyosawa M, Teramae H, Iwanaga S, Kazama T, Matsumoto T, Takeuchi S. Smooth muscle-like tissue constructs with circumferentially oriented cells formed by the cell fiber technology. *PLoS One* 10(3): e0119010, 2015 (査読有)
 21. *Maruyama T, Fukuda N, Matsumoto T, Kano K, Endo M, Kazama M, Kazama T, Ikeda J, Matsuda H, Ueno T, Abe M, Okada K, Soma M, Matsumoto K, Kawachi H. Systematic implantation of dedifferentiated fat cells ameliorated monoclonal antibody 1-22-3-induced glomerulonephritis by immunosuppression with increasing in TNF-stimulated gene 6. *Stem Cell Res Ther* 6(1): 80, 2015 (査読有)
 22. *Soejima K, Kashimura T, Asami T, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H. Effects of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on generation and vascularization of dermis like tissue after artificial dermis grafting. *J Plast Surg Hand Surg* 49(1): 25-31, 2015 (査読有)
 23. *Matsumine H, Takeuchi Y, Sakaki R, Kazama T, Kano K, Matsumoto T, Sakurai H, Miyata M, Yamato M. Adipocyte-derived and dedifferentiated fat cells promoting facial nerve regeneration in a rat model. *Plast Reconstr Surg* 134(4): 686-697, 2014 (査読有)
 24. *Yamada H, Ito D, Oki Y, Kitagawa M, Matsumoto T, Watari T, Kano K. Transplantation of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells promotes locomotor functional recovery by remyelination and glial scar reduction after spinal cord injury in mice. *Biochem Biophys Res Commun* 454(2): 341-346, 2014 (査読有)
- 【その他】
25. Fujii R, Osaka E, Sato K, Tokuhashi Y. MiR-1 suppresses proliferation of osteosarcoma cells by up-regulating p21 via PAX3. *Cancer Genomics Proteomics* 2019 In press (査読有)
 26. Matsumaru T, Sakamaki K, Oki Y, Kano K. Mice liver after 70% partial hepatectomy completes regeneration by restructure of central vein networks. *Hematol Commun* 2019 In press (査読有)
 27. Matsumine H, Sasaki R, Fujii K, Sakurai H. Intramasseteric schwannoma derived from the masseteric nerve. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2019 In press (査読有)
 28. Niimi Y, Matsumine H, Fukuda S, Salisbury J, Niimi Y, Herndon D, Prough D, Enkhbaatar P. Surgical anatomy of ovine facial and hypoglossal nerves for facial nerve reconstruction and regeneration research: An experimental study in sheep. *Microsurgery* 2019 In press (査読有)
 29. Uno S, Shimizu T, Tanaka T, Ashiba H, Fujimaki M, Tanaka M, Awazu K, Makishima M. Application of a waveguide-mode sensor to blood testing for hepatitis B virus, hepatitis C virus, human immunodeficiency virus and Treponema pallidum infection. *Sensors* 2019 In press (査読有)
 30. Nanjyo S, Ohgane K, Yoshioka H, Makishima M, Hashimoto Y, Noguchi-Yachide M. Structure-activity relationship study of estrogen receptor down-regulators with a diphenylmethane skeleton. *Bioorg Med Chem* 2019 In press (査読有)
 31. Fouache A, Zabaïou N, de Joussineau C, Morel L, Silvente-Poirot S, Namsi A, Lizard G, Poirot M, Makishima M, Baron S, Lobaccaro JA, Trousson A. Flavonoids differentially modulate liver X receptors activity. Structure-function relationship analysis. *J Steroid Biochem Mol Biol* 2019 In press (査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

32. Chuma M, Makishima M, Imai T, Tochikura N, Suzuki S, Kuwana T, Sawada N, Iwabuchi S, Sekimoto M, Nakayama T, Sakaue T, Kikuchi N, Yoshida Y, Kinoshita K. Relationship between hemoglobin levels and vancomycin clearance in patients with sepsis. *Eur J Clin Pharmacol* 2019 In press(査読有)
33. Onuki M, Watanabe M, Ishihara N, Suzuki K, Takizawa K, Hirota M, Yamada T, Egawa A, Shibahara O, Nishii M, Fujihara M, Makishima M, Takahashi D, Furusawa Y, Kakuta H, Hase K. A partial agonist for retinoid X receptor mitigates experimental colitis. *Int Immunol* 2019 In press(査読有)
34. Miura W, Nagano N, Kato R, Okahashi A, Yoshikawa K, Ohashi K, Koshinaga T, Morioka I. Intestinal Failure-associated liver disease and eicosapentaenoic acid/arachidonic acid ratio. *Indian J Pediatr* 2019 In press (査読有)
35. Koshinaga T, Takimoto T, Okita H, Tanaka Y, Inoue E, Oue T, Nozaki M, Tsuchiya K, Haruta M, Kaneko Y, Fukuzawa M. Blastemal predominant type Wilms tumors in Japan: Japan Children's Cancer Group. *Pediatr Int* 2019 In press(査読有)
36. Hoshi R, Uehara S, Ono K, Ohashi K, Koshinaga T. Management for H-type anorectal malformation with rectourethral and rectoscrotal fistula. *Pediatr Int* 2019 In press(査読有)
37. Suzuki S, Sotomi Y, Kobayashi T, Hamanaka Y, Nakatani S, Shiojima I, Sakata Y, Hirayama A, Higuchi Y. Early vessel healing after implantation of biodegradable-polymer and durable-polymer drug-eluting stent: 3-month angioscopic evaluation of the RESTORE registry. *Int J Cardiovasc Imaging* 2019 In press (査読有)
38. Sato K, Takahashi J, Odaka Y, Suda A, Sueda S, Teragawa H, Ishii K, Kiyooka T, Hirayama A, Sumiyoshi T, Tanabe Y, Kimura K, Kaikita K, Ong P, Sechtem U, Camici PG, Kaski JC, Crea F, Beltrame JF, Shimokawa H. Japanese Coronary Spasm Association. Clinical characteristics and long-term prognosis of contemporary patients with vasospastic angina: Ethnic differences detected in an international comparative study. *Int J Cardiol* 2019 In press (査読有)
39. Nakamura M, Ako J, Arai H, Hirayama A, Murakami Y, Nohara A, Uno K, Ozaki A, Harada-Shiba M. Investigation into lipid management in acute coronary syndrome patients from the EXPLORE-J Study. *J Atheroscler Thromb* 2019 In press (査読有)
40. Misawa N, Fujii S, Kamiya K, Osaki T, Takaku T, Takahashi Y, Takeuchi S. Construction of a biohybrid odorant sensor using biological olfactory receptors embedded into bilayer lipid membrane on a chip. *ACS Sens* 2019 In press (査読有)
41. Larramendy F, Yoshida S, Maier D, Fekete Z, Takeuchi S, Paul O. 3D arrays of microcages by two-photon lithography for spatial organization of living cells. *Lab Chip* 2019 In press (査読有)
42. Morimoto Y, Onoe H, Takeuchi S. Biohybrid device with antagonistic skeletal muscle tissue for measurement of contractile force. *Advanced Robotics* 2019 In press (査読有)
43. Ikeda K, Takeuchi S. Anchorage-dependent cell expansion in fiber-shaped microcarrier aggregates. *Biotechnol Prog* 2019 In press (査読有)
44. Nakai T, Sakurada A, Endo T, Kobayashi H, Masuda S, Makishima M, Esumi M. Caution for simple sequence repeat number variation in the mitochondrial DNA D-loop to determine cancer-specific variants. *Oncol Lett* 17(2): 1883-1888, 2019(査読有)
45. Mori N, Morimoto Y, Takeuchi S. Perfusable and stretchable 3D culture system for skin-equivalent. *Biofabrication* 11(1): 011001, 2019 (査読有)
46. Groll J, Burdick J, Cho D, Derby B, Gelinsky M, Heilshorn S, Juengst T, Malda J, Mironov

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- V, Nakayama K, Ovsianikov A, Sun W, Takeuchi S, Yoo J, Woodfield T. A definition of bioinks and their distinction from biomaterial inks. *Biofabrication* 11(1): 013001, 2019 (査読有)
47. Kato S, Wada Y, Katayama M, Noro C, Yoshimune K, Hiaki T, Matsumoto M. Promotion of cyanobacteria growth induced by fine bubble injection. *Bull Soc Sea Water Sci Jpn* 73, 30–34. 2019 (査読有)
48. Inagaki Y, Tokunaga T, Yanai M, Wu D, Huang J, Nagase H, Fukuda N, Ozaki T, Soma M, Fujiwara K. Silencing of *EPHB2* promotes the epithelial-mesenchymal transition of skin squamous cell carcinoma-derived A431 cells. *Oncol Lett* 17(4): 3735–3742, 2019 (査読有)
49. Tanaka S, Ueno T, Tsunemi A, Nagura C, Tahira K, Fukuda N, Soma M, Abe M. The adrenal gland circadian clock exhibits a distinct phase advance in spontaneously hypertensive rats. *Hypertens Res* 42(2): 165–173, 2019 (査読有)
50. Murata N, Okumura Y, Yokoyama K, Matsumoto N, Tachibana E, Kuronuma K, Oiwa K, Matsumoto M, Kojima T, Hanada S, Nomoto K, Arima K, Takahashi F, Kotani T, Ikeya Y, Fukushima S, Itoh S, Kondo K, Chiku M, Ohno Y, Onikura M, Hirayama A. SAKURA AF Registry Investigators. Clinical outcomes of off-label dosing of direct oral anticoagulant therapy among Japanese patients with atrial fibrillation identified from the SAKURA AF registry. *Circ J* 83(4): 727–735, 2019 (査読有)
51. Sotomi Y, Hirata A, Amiya R, Kobayashi T, Hirayama A, Sakata Y, Higuchi Y. Bleeding risk of add-on anti-platelet agents to direct oral anticoagulants in patients with nonvalvular atrial fibrillation (from 2216 patients in the DIRECT registry). *Am J Cardiol* 123(8): 1293–1300, 2019 (査読有)
52. Kuronuma K, Okumura Y, Yokoyama K, Matsumoto N, Tachibana E, Oiwa K, Matsumoto M, Kojima T, Hanada S, Nomoto K, Arima K, Takahashi F, Kotani T, Ikeya Y, Fukushima S, Itou S, Kondo K, Chiku M, Ohno Y, Onikura M, Hirayama A; SAKURA AF Registry Investigators. Different determinants of vascular and nonvascular deaths in patients with atrial fibrillation: A SAKURA AF registry substudy. *J Cardiol* 73(3): 210–217, 2019 (査読有)
53. Tanaka S, Ueno T, Tsunemi A, Nakamura Y, Kobayashi H, Hatanaka Y, Haketa A, Fukuda N, Soma M, Abe M. Lipoprotein lipase deficiency arising in type V dyslipidemia. *Int Med* 58(2): 251–257, 2019 (査読有)
54. Tani S, Matsuo R, Hirayama A. Does administration of eicosapentaenoic acid increase soluble thrombomodulin level in statin-treated patients with stable coronary artery disease? *Heart Vessels* 34(2): 368–374, 2019 (査読有)
55. Moriguchi K, Jogahara T, Oda S, Honda M. Scanning transmission electron microscopic analysis of nitrogen generated by 3, 3'-diaminobenzidine-based peroxidase reaction with resin ultrathin sections of rhinoceros parotid gland acinar cells. *Microscopy* 68(2): 111–121, 2019 (査読有)
56. Takayama KI, Suzuki Y, Yamamoto S, Obinata D, Takahashi S, Inoue S. Integrative genomic analysis of OCT1 reveals coordinated regulation of androgen receptor in advanced prostate cancer. *Endocrinology* 160(2): 463–472, 2019 (査読有).
57. Hashimoto S, Obinata D, Yamaguchi K, Sakurai F, Yoshida T, Yoshizawa T, Matsui T, Mochida J, Masuda S, Takahashi S. Case of caval lobular capillary hemangioma mimicking tumor thrombus. *IJU Case Report* 2: 80–82, 2019 (査読有).
58. Obata S, Yoshimaru K, Kirino K, Izaki T, Ieiri S, Yamataka A, Koshinaga T, Iwai J, Ikeda H,

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- Matsufuji H, Oda Y, Taguchi T. Acquired isolated hypoganglionosis as a distinct entity: results from a nationwide survey. *Pediatr Surg Int* 35: 215–220, 2019 (査読有)
59. Haruta M, Arai Y, Okita H, Tanaka Y, Takimoto T, Sugino RP, Yamada Y, Kamiyo T, Oue T, Fukuzawa M, Koshinaga T, Kaneko Y. Combined genetic and chromosomal characterization of Wilms tumors identifies chromosome 12 gain as a potential new marker predicting a favorable outcome. *Neoplasia* 21: 117–131, 2019 (査読有)
60. Giatsidis G, Succar J, Haddad A, Lago G, Schaffer C, Wang W, Schilling B, Chnari E, Matsumine H, Orgill D. Preclinical optimization of a shelf-ready, human-derived, decellularized allograft adipose Matrix. *Tissue Eng Part A* 25(3–4): 271–287, 2019 (査読有)
61. Niim Y, Matsumine H, Takeuchi Y, Osaki H, Tsunoda S, Miyata M, Yamato M, Sakurai H. A collagen-coated PGA conduit for interpositional-jump graft with end-to-side neuroorrhaphy fortreating facial nerve paralysis in rat. *Microsurgery* 39(1): 70–80, 2019 (査読有)
62. Kato M, Ayusawa M, Watanabe H, Komori A, Abe Y, Nakamura T, Kamiyama H, Takahashi S. Cardiac function on 3-D speckle tracking imaging and cytokines in Kawasaki disease. *Pediatr Int* 60(4): 342–348, 2018
63. Abe Y, Ayusawa M, Kato M, Watanabe H, Cho A, Komori A, Okuma H, Ichikawa R, Kamiyama H, Sumitomo N, Ito S, Takahashi S. Sudden death in schoolchildren: A retrospective study on hypertrophic cardiomyopathy and cardiac events occurring under school supervision. *J Pediatr Cardiol Cardiac Surg* 2(1): 60–67, 2018
64. Noto N, Komori A, Ayusawa M, Takahashi S. Recent updates on echocardiography and ultrasound for Kawasaki disease: beyond the coronary artery. *Cardiovasc Diag Ther* 8(1): 80–89, 2018
65. Miyakawa Y, Fuchigami T, Aoki M, Mine Y, Suzuki J, Urakami T, Takahashi S. Agraphia with reversible splenial corpus callosum lesion caused by hypoglycemia. *Brain Dev* 40(7): 592–595, 2018
66. Takano C, Sekia M, Shiihara H, Komine-Aizawa S, Kuroda K, Takahashi S, Ushijima H, Hayakawa S. Frequent isolation of extended-spectrum beta-lactamase-producing bacteria from fecal samples of individuals with severe motor and intellectual disabilities. *J Infect Chemother* 182e187, 2018
67. Ichikawa R, Maeda Y, Shibuya A, Umesato Y, Kondo Y, Maeda T, Yoshino A, Takahashi S. Prediction of Poor Prognosis After Severe Head Injury in Children Using Logistic Regression. *Pediatric Emergency Care* 34(12):825–831, 2018
68. Yamada K, Shiraishi H, Oki E, Ishige M, Fukao T, Hamada Y, Sakai N, Ochi F, Watanabe A, Kawakami S, Kuzume K, Watanabe K, Sameshima K, Nakamagoe K, Tamaoka A, Asahina N, Yokoshiki S, Miyakoshi T, Ono K, Oba K, Isoe T, Hayashi H, Yamaguchi S, Sato N. Open-label clinical trial of bezafibrate treatment in patients with fatty acid oxidation disorders in Japan. *Mol Genet Metab Rep* 15: 55–63, 2018 (査読有)
69. Nakazaki K, Ogawa E, Ishige M, Ishige N, Fuchigami T, Takahashi S. Hypocarnitinemia observed in an infant treated with short-term administration of antibiotic containing pivalic acid. *Tohoku J Exp Med* 244(4): 279–282, 2018 (査読有)
70. 五十嵐都志子, 市川保和, 真柴新一, 江副純, 久川聡, 志方えりさ, 高野智圭, 小川えりか, 石毛美夏, 中山智祥. 登録衛生検査所でのフェニルケトン尿症の遺伝学的検査体制構築. *日本染色体遺伝子検査学会雑誌* 36(1): 62–68, 2018 (査読有)
71. Wada Y, Kikuchi A, Arai-Ichinoi N, Sakamoto O, Takezawa Y, Iwasawa S, Niihori T,

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- Nyuzuki H, Nakajima Y, Ogawa E, Ishige M, Hirai H, Sasai H, Fujiki R, Shiota M, Funayama R, Yamamoto M, Ito T, Ohara O, Nakayama K, Aoki Y, Koshiba S, Fukao T, Kure S. Biallelic GALM pathogenic variants cause a novel type of galactosemia. *Genet Med*. doi: 10.1038/s41436-018-0340-x, 2018 (査読有)
72. 石毛信之, 渡辺和宏, 長谷川智美, 小西薫, 間下充子, 世良保美, 村山圭, 菅原秀典, 金城健一, 堀川玲子, 石毛美夏, 大和田操. LC/MS/MS 法によるイソ吉草酸血症の 2 次検査法の有用性 ろ紙血 C5 アシルカルニチン異性体とイソバレリルグリシン同時分析法. *日本マス・スクリーニング学会誌* 28(3): 305-314, 2018 (査読有)
73. Matsumoto K, Tokuhashi Y. Durability and biological response of a new posterior dynamic stabilization system using polyethylene with vitamin E. *BioMed Res Int* 2018: 5785708, 2018 (査読有)
74. Uei H, Tokuhashi Y. Prognostic factors in patients with metastatic spine tumors derived from lung cancer—a novel scoring system for predicting life expectancy. *World J Surg Oncol* 16(1): 131, 2018 (査読有)
75. Uei H, Tokuhashi Y, Oshima M, Maseda M, Nakahashi M, Nakayama E. Efficacy of posterior decompression and fixation based on ossification–kyphosis angle criteria for multilevel ossification of the posterior longitudinal ligament in the thoracic spine. *J Neurosurg Spine* 29(2): 150–156, 2018 (査読有)
76. Uei H, Tokuhashi Y, Maseda M, Nakahashi M, Sawada H, Nakayama E, Soma H. Coparison between minimally invasive spine stabilization with and without posterior decompression for the management of spinal metastases: a retrospective cohort study. *J Orthop Surg Res* 13(1): 87, 2018 (査読有)
77. Uei H, Tokuhashi Y, Maseda M. Treatment outcomes of patients with spinal metastases derived from hepatocellular carcinoma. *Int J Clin Oncol* 23(5): 886–893, 2018 (査読有)
78. Uei H, Tokuhashi Y, Maseda M, Nakahashi M, Sawada H, Nakayama E, Soma H. Clinical results of multidisciplinary therapy including palliative posterior spinal stabilization surgery and postoperative adjuvant therapy for metastatic spinal tumor. *J Orthop Surg Res* 13(1): 30, 2018 (査読有)
79. Matsumine H, Kamei W, Fujii K, Shimizu M, Osada A, Sakurai H. One-stage reconstruction by dual-innervated double muscle flap transplantation with the neural interconnection between the ipsilateral masseter and contralateral facial nerve for reanimating established facial paralysis: A report of 2 cases. *Microsurgery* doi: 10.1002/micr.30397. 2018 (査読有)
80. Kamei W, Matsumine H, Osaki H, Ueta Y, Tsunoda S, Shimizu M, Hashimoto K, Niimi Y, Miyata M, Sakurai H. Axonal supercharged interpositional jump-graft with a hybrid artificial nerve conduit containing adipose-derived stem cells in facial nerve paresis rat model. *Microsurgery* 38(8): 889–898, 2018 (査読有)
81. Rhodius P, Haddad A, Matsumine H, Sakhivel D, Ackermann M, Sinha I, Orgill DP, Giatsidis G. Non-invasive flap preconditioning by foam-mediated external suction improves the survival of fascio-cutaneous axial-pattern flaps in a type-2 diabetic murine model. *Plast Reconstr Surg* 142(6): 872e–883e, 2018 (査読有)
82. Sasaki Y, Matsumine H. Modified medical tattooing techniques in nipple–areola complex reconstruction. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 14;6(9):e1926, 2018 (査読有)
83. Takeuchi Y, Osaki H, Matsumine H, Niimi Y, Sasaki R, Miyata M. A method package for electrophysiological evaluation of reconstructed or regenerated facial nerves in rodents. *MethodsX* 30(5):283–298, 2018 (査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

84. Giatsidis G, Cheng L, Haddad A, Ji K, Succar J, Lancerotto L, Lujan-Hernandez J, Fiorina P, Matsumine H, Orgill DP. Noninvasive induction of angiogenesis in tissues by external suction: Sequential optimization for use in reconstructive surgery. *Angiogenesis* 21(1): 61-78, 2018 (査読有)
85. Shibasaki Y, Yoshida-Noro C, Saito M. A Size-dependent multiple-loop negative feedback system describes biological segment formation based on the clock and wavefront mechanism. *Biophys Rev Lett* 13(4): 217-228, 2018 (査読有)
86. Iso K, Watanabe I, Okumura Y, Nagashima K, Takahashi K, Kurokawa S, Arai M, Watanabe R, Wakamatsu Y, Ohkubo K, Nakai T, Hirayama A, Sonoda K, Tosaka T. No association between dormant conduction sites and pulmonary vein reconnection sites in late atrial fibrillation recurrence after catheter ablation. *J Cardiol* 72(6): 488-493, 2018 (査読有)
87. Okumura Y, Yokoyama K, Matsumoto N, Tachibana E, Kuronuma K, Oiwa K, Matsumoto M, Kojima T, Arima K, Kotani T, Nomoto K, Ikeya Y, Fukushima S, Onikura M, Suzuki Y, Fujita M, Ando H, Ishikawa N, Hirayama A; SAKURA AF Registry Investigators. Patient satisfaction with direct oral anticoagulants and warfarin. *Int Heart J* 59(6): 1266-1274, 2018 (査読有)
88. 中原健, 大日方大亮, 吉田利之, 橋本翔, 山本慎一郎, 桜井文紀, 高田将吾, 堀祐太郎, 大野将, 村田保貴, 吉澤剛, 松井強, 佐藤克彦, 持田淳一, 山口健哉, 高橋悟. 水腎症を契機に発見された尿管線維性上皮性ポリープの 1 例. *泌尿器外科* 31(11): 1543-1546, 2018 (査読有).
89. Monno K, Okumura Y, Saito Y, Aizawa Y, Nagashima K, Arai M, Watanabe R, Wakamatsu Y, Otsuka N, Yoda S, Hiro T, Watanabe I, Hirayama A. Effect of epicardial fat and metabolic syndrome on reverse atrial remodeling after ablation for atrial fibrillation. *J Arrhythm* 34(6): 607-616, 2018 (査読有)
90. Suzuki S, Sotomi Y, Nakatani S, Hirata A, Hao H, Tsujimoto M, Tsuji H, Shiojima I, Sakata Y, Hirayama A, Higuchi Y. Histopathologic insights into the honeycomb-like structure in the coronary artery: In vivo multimodality imaging assessment with directional coronary atherectomy. *JACC Cardiovasc Interv* 11(19): e157-e159, 2018 (査読有)
91. Harada-Shiba M, Ako J, Arai H, Hirayama A, Murakami Y, Nohara A, Ozaki A, Uno K, Nakamura M. Prevalence of familial hypercholesterolemia in patients with acute coronary syndrome in Japan: Results of the EXPLORE-J study. *Atherosclerosis* 277: 362-368, 2018 (査読有)
92. Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Akishita M, Hasebe N, Kario K, Mizokami Y, Nagata K, Nakamura M, Terauchi Y, Yamamoto T, Teramukai S, Kimura T, Kaburagi J, Takita A. Prospective observational study in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: Rationale and design of the All Nippon AF In the Elderly (ANAFIE) Registry. *J Cardiol* 72(4): 300-306, 2018 (査読有)
93. Watanabe R, Okumura Y, Nagashima K, Iso K, Takahashi K, Arai M, Wakamatsu Y, Kurokawa S, Ohkubo K, Nakai T, Yoda S, Watanabe I, Hirayama A, Sonoda K, Tosaka T. Influence of balloon temperature and time to pulmonary vein isolation on acute pulmonary vein reconnection and clinical outcomes after cryoballoon ablation of atrial fibrillation. *J Arrhythm* 34(5): 511-519, 2018 (査読有)
94. Okumura Y, Yokoyama K, Matsumoto N, Tachibana E, Kuronuma K, Oiwa K, Matsumoto M, Kojima T, Hanada S, Nomoto K, Arima K, Takahashi F, Kotani T, Ikeya Y, Fukushima S, Ito S, Kondo K, Chiku M, Ohno Y, Onikura M, Hirayama A. SAKURA AF Registry

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- Investigators. Three-year clinical outcomes associated with warfarin vs. direct oral anticoagulant use among Japanese patients with atrial fibrillation – Findings from the SAKURA AF registry. *Circ J* 82(10): 2500–2509, 2018 (査読有)
95. Nanasato M, Matsumoto N, Nakajima K, Chikamori T, Moroi M, Takehana K, Momose M, Nishina H, Kasai T, Yoda S, Kiso K, Yamamoto H, Nishimura S, Yamashina A, Kusuoka H, Hirayama A, Nishimura T. Prognostic impact of reducing myocardial ischemia identified using ECG-gated myocardial perfusion SPECT in Japanese patients with coronary artery disease: J-ACCESS 4 study. *Int J Cardiol* 267: 202–207, 2018 (査読有)
96. Sumitomo N, Baba R, Doi S, Higaki T, Horigome H, Ichida F, Ishikawa H, Iwamoto M, Izumida N, Kasamaki Y, Kuga K, Mitani Y, Musha H, Nakanishi T, Yoshinaga M, Abe K, Ayusawa M, Hokosaki T, Kato T, Kato Y, Ohta K, Sawada H, Ushinohama H, Yoshiba S, Atarashi H, Hirayama A, Horie M, Nagashima M, Niwa K, Ogawa S, Okumura K, Tsutsui H. Japanese Circulation Society and the Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery of joint working. Guidelines for heart disease screening in schools (JCS 2016/JSPCCS 2016) – Digest version. *Circ J* 82(9): 2385–2444, 2018 (査読有)
97. Yasuda S, Kaikita K, Ogawa H, Akao M, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Miyauchi K, Hagiwara N, Kimura K, Hirayama A, Matsui K. Atrial fibrillation and ischemic events with rivaroxaban in patients with stable coronary artery disease (AFIRE): Protocol for a multicenter, prospective, randomized, open-label, parallel group study. *Int J Cardiol* 265: 108–112, 2018 (査読有)
98. Fukamachi D, Hirayama A, Miyauchi K, Yasuda S, Ogawa H, Ito H, Daida H. Antithrombotic therapy trends in non-valvular atrial fibrillation patients undergoing percutaneous coronary stent implantation: Results from a survey among fellows at the Japanese College of Cardiology. *J Cardiol* 72(2): 113–119, 2018 (査読有)
99. Atsumi W, Tani S, Tachibana E, Hirayama A. Combined evaluation of the plasma arginine vasopressin and noradrenaline levels may be a useful predictor of the prognosis of patients with acute decompensated heart failure. *Int Heart J* 59(4): 791–801, 2018 (査読有)
100. Okumura Y, Fukuda I, Nakamura M, Yamada N, Takayama M, Maeda H, Yamashita T, Ikeda T, Mo M, Yamazaki T, Hirayama A; J'xactly Investigators. Design and rationale for the Japanese registry of rivaroxaban effectiveness & safety for the prevention of recurrence in patients with deep vein thrombosis and pulmonary embolism (J'xactly) study. *BMJ Open* 8(6): e020286, 2018 (査読有)
101. Komatsu S, Yutani C, Ohara T, Takahashi S, Takewa M, Hirayama A, Kodama K. Angioscopic evaluation of spontaneously ruptured aortic plaques. *J Am Coll Cardiol* 71(25): 2893–2902, 2018.6 (査読有)
102. Saito Y, Kato M, Nagashima K, Monno K, Aizawa Y, Okumura Y, Matsumoto N, Moriyama M, Hirayama A. Prognostic relevance of liver stiffness assessed by transient elastography in patients with acute decompensated heart failure. *Circ J* 82(7): 1822–1829, 2018 (査読有)
103. Shiba M, Kitano D, Kunimoto S, Hirayama A. Identification of left ventricular chamber-like aneurysm related to cardiac sarcoidosis. *BMJ Case Rep* 2018. pii: bcr-2017-223910, 2018 (査読有)
104. Takayama T, Hiro T, Yoda S, Fukamachi D, Haruta H, Kogo T, Mineki T, Murata H, Oshima T, Hirayama A. Effect of aggressive lipid-lowering treatment with rosuvastatin on vascular endothelium function: evaluation of vascular endothelium function (EARTH

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- study). *Heart Vessels* 33(6): 590–594, 2018 (査読有)
105. Murata N, Takayama T, Hiro T, Hirayama A. Balloon pin-hole rupture during percutaneous coronary intervention for recurrent, calcified in-stent restenosis: A case report. *Catheter Cardiovasc Interv* 91(7): 1287–1290, 2018 (査読有)
106. Tani S, Matsuo R, Kawauchi K, Yagi T, Atsumi W, Hirayama A. A cross-sectional and longitudinal study between association of n-3 polyunsaturated fatty acids derived from fish consumption and high-density lipoprotein heterogeneity. *Heart Vessels* 33(5): 470–480, 2018 (査読有)
107. Yamaguchi N, Okumura Y, Watanabe I, Nagashima K, Takahashi K, Iso K, Watanabe R, Arai M, Mano H, Kogawa R, Kurokawa S, Ohkubo K, Nakai T, Hirayama A, Sonoda K, Tosaka T. Impact of sinus node recovery time after long-standing atrial fibrillation termination on the long-term outcome of catheter ablation. *Int Heart J* 59(3): 497–502, 2018 (査読有)
108. Taguchi I, Iimuro S, Iwata H, Takashima H, Abe M, Amiya E, Ogawa T, Ozaki Y, Sakuma I, Nakagawa Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Hokimoto S, Miyauchi K, Yamazaki T, Ito H, Otsuji Y, Kimura K, Takahashi J, Hirayama A, Yokoi H, Kitagawa K, Urabe T, Okada Y, Terayama Y, Toyoda K, Nagao T, Matsumoto M, Ohashi Y, Kaneko T, Fujita R, Ohtsu H, Ogawa H, Daida H, Shimokawa H, Saito Y, Kimura T, Inoue T, Matsuzaki M, Nagai R. High-dose versus low-dose pitavastatin in Japanese patients with stable coronary artery disease (REAL-CAD): A Randomized superiority trial. *Circulation* 137(19): 1997–2009, 2018 (査読有)
109. Nagashima K, Okumura Y, Watanabe I, Nakahara S, Hori Y, Iso K, Watanabe R, Arai M, Wakamatsu Y, Kurokawa S, Mano H, Nakai T, Ohkubo K, Hirayama A. Hot balloon versus cryoballoon ablation for atrial fibrillation: Lesion characteristics and middle-term outcomes. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 11(5): e005861, 2018 (査読有)
110. Aizawa Y, Nakai T, Saito Y, Monno K, Morikawa T, Kogawa R, Hatta T, Tamaki T, Kato M, Arimoto M, Osaka S, Sunagawa K, Tang XY, Tanaka M, Hao H, Hirayama A. Calcified amorphous tumor-induced acute cerebral infarction. *Int Heart J* 59(1): 240–242, 2018 (査読有)
111. Yoda S, Hori Y, Hayase M, Mineki T, Hatta T, Suzuki Y, Matsumoto N, Hirayama A. Correlation between early revascularization and major cardiac events demonstrated by ischemic myocardium in Japanese patients with stable coronary artery disease. *J Cardiol* 71(1): 44–51, 2018 (査読有)
112. Wada T, Ichihashi Y, Suzuki E, Kosuge Y, Ishige K, Uchiyama T, Makishima M, Nakao R, Oishi K, Shimba S. Deletion of Bmal1 prevents diet-induced ectopic fat accumulation by controlling oxidative capacity in the skeletal muscle. *Int J Mol Sci* 19(9): E2813, 2018 (査読有)
113. Nishiyama Y, Fujii S, Makishima M, Hashimoto Y, Ishikawa M. Efficient lead finding, activity enhancement and preliminary selectivity control of nuclear receptor ligands bearing a phenanthridinone skeleton. *Int J Mol Sci* 19(7): E2090, 2018 (査読有)
114. Otero R, Ishizawa M, Numoto N, Ikura T, Ito N, Tokiwa H, Mourino A, Makishima M, Yamada S. 25S-Adamantyl-23-yne-26,27-dinor-1 α ,25-dihydroxyvitamin D₃: Synthesis, tissue selective biological activities and X-ray crystal structural analysis of its vitamin D receptor complex. *J Med Chem* 61(15): 6658–6673, 2018 (査読有)
115. Ishizawa M, Akagi D, Makishima M. Lithocholic acid is a vitamin D receptor ligand that acts preferentially in the ileum. *Int J Mol Sci* 19(7): E1975, 2018 (査読有)
116. Kainuma M, Takada I, Makishima M, Sano K. Farnesoid X receptor activation enhances

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- transforming growth factor β -induced epithelial-mesenchymal transition in hepatocellular carcinoma cells. *Int J Mol Sci* 19(7): E1898, 2018(査読有)
117. Nishiyama Y, Mori S, Makishima M, Fujii S, Kagechika H, Hashimoto Y, Ishikawa M. Novel non-steroidal progesterone receptor (PR) antagonists with a phenanthridinone skeleton. *ACS Med Chem Lett* 9(7): 641-645, 2018(査読有)
118. Endo-Umeda K, Nakashima H, Komine-Aizawa S, Umeda N, Seki S, Makishima M. Liver X receptors regulate hepatic F4/80⁺CD11b⁺ Kupffer cells/macrophages and innate immune responses in mice. *Sci Rep* 18(1): 9281, 2018(査読有)
119. Shioi R, Toyota Y, Noguchi-Yachide T, Ishikawa M, Yamaguchi T, Makishima M, Hashimoto Y, Ohgane K. Unexpected emergence of luciferase-inhibitory activity during structural development study of phenyloxadiazole-based PPAR ligands. *Heterocycles* 97(2): 854-864, 2018(査読有)
120. Nakagawa M, Uno S, Iriyama N, Matsunawa M, Makishima M, Takeuchi J, Tsuboi I, Hatta Y, Takei M. Combined treatment with benzo[a]pyrene and 1 α ,25-dihydroxyvitamin D3 induces expression of plasminogen activator inhibitor 1 in monocyte/macrophage-derived cells. *Toxicol Appl Pharmacol* 345: 48-56, 2018(査読有)
121. Takada I, Tsuchiya M, Yanaka K, Hidano S, Takahashi S, Kobayashi T, Ogawa H, Nakagawa S, Makishima M. Ess2 bridges transcriptional regulators and spliceosomal complexes via distinct interacting domains. *Biochem Biophys Res Commun* 497(2): 597-604, 2018(査読有)
122. Uno S, Tanaka T, Ashiba H, Fujimaki M, Tanaka M, Hatta Y, Takei M, Awazu K, Makishima M. Sensitive typing of reverse ABO blood groups with a waveguide-mode sensor. *J Biosci Bioeng* 126(1): 131-137, 2018(査読有)
123. Endo-Umeda K, Nakashima H, Umeda N, Seki S, Makishima M. Dysregulation of kupffer cells/ macrophages and natural killer T cells in steatohepatitis in LXR α knockout male mice. *Endocrinology* 159(3): 1419-1432, 2018(査読有)
124. Uno S, Nebert DW, Makishima M. Cytochrome P450 1A1 (CYP1A1) protects against nonalcoholic fatty liver disease caused by Western diet containing benzo[a]pyrene in mice. *Food Chem Toxicol* 113: 73-82, 2018(査読有)
125. Nomura S, Endo-Umeda K, Fujii S, Makishima M, Hashimoto Y, Ishikawa M. Structural development of tetrachlorophthalimides as liver X receptor β (LXR β)-selective agonists with improved aqueous solubility. *Bioorg Med Chem Lett* 28(4): 796-801, 2018(査読有)
126. Ishibashi M, Yamaguchi H, Hirotani Y, Sakurada A, Endo T, Sugitani M, Takayama T, Makishima M, Esumi M. Contradictory intrahepatic immune responses activated in high-load hepatitis C virus livers compared with low-load livers. *Arch Virol* 163(4): 855-865, 2018(査読有)
127. 竹内紘子, 池田太郎, 力山敏樹. 異なる発育形態を呈した小児小腸腸間膜リンパ管腫の2例. *小児外科* 50(6): 545-549, 2018(査読有)
128. 八木実, 河野美幸, 浅桐公男, 池田太郎, 岡田忠男, 金田 聡, 川島章子, 後藤由紀子, 高野周一, 安福正男, 和田 基. わが国における新生児外科の動向 日本小児外科学会学術・先進医療検討委員会アンケート集計からみた 20 年の変遷. *小児外科* 50(6): 545-549, 2018(査読無)
129. 大崎雅則, 杉山洋平, 野中航仁, 平久保由香, 市橋 光, 益子貴行, 池田太郎. 排尿時膀胱尿道造影で膀胱外への外翻像を呈した単純性尿管瘤の 1 例. *小児科臨床* 71(6): 1133-1137, 2018(査読有)
130. 樫村勉, 仲沢弘明. 手指部熱傷の急性期治療. *PEPARS* 134: 49-56, 2018(査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 131.竹田昌平, 副島一孝, 櫻村勉, 屋形有美, 吉田光徳, 堀米迪生, 菊池雄二, 仲沢弘明, 山口順子, 木下浩作. 練炭を用いた自殺未遂による遠赤外線熱傷(仮称)の治療経験. 熱傷 44(1): 29-37, 2018 (査読有)
- 132.Kamiya K, Osaki T, Nakao K, Kawano R, Fujii S, Misawa N, Hayakawa M, and Takeuchi S. Electrophysiological measurement of ion channels on plasma/organelle membranes using an on-chip lipid bilayer system. *Sci Rep* 8: 17498, 2018 (査読有)
- 133.Kamm R, Bashir R, Arora N, Dar R, Gillette M, Griffith L, Kemp M, Kinlaw K, Levin M, Martin A, McDevitt T, Nerem R, Powers M, Saif T, Sharpe J, Takayama S, Takeuchi S, Kaiming Ye, Yevick H, Zaman M. The promise of multi-cellular engineered living systems. *APL Bioeng* 2: 040901, 2018 (査読有)
- 134.Nie M, Takeuchi S. Bottom-up biofabrication using microfluidic techniques. *Biofabrication* 10(4): 044103, 2018 (査読有)
- 135.El-faramawy M, Fujii S, Uyeda A, Osaki T, Takeuchi S, Kato Y, Watanabe H, Matsuura T. Quantitative analysis of cell-free synthesized membrane proteins at the stabilized droplet interface bilayer. *Chem Commun* 54: 12226-12229, 2018 (査読有)
- 136.Fujii S, Kamiya K, Osaki T, Misawa N, Hayakawa M and Takeuchi S. Purification-free microRNA detection by using magnetically immobilized nanopores on liposome membrane. *Anal Chem* 90(17): 10217-10222, 2018 (査読有)
- 137.Morimoto Y, Kiyosawa M, Takeuchi S. Three-dimensional printed microfluidic modules for design changeable coaxial microfluidic devices. *Sens Actuators B Chem* 274(20): 491-500, 2018 (査読有)
- 138.Shima A, Morimoto Y, Sweeney H, Takeuchi S. Three-dimensional contractile muscle tissue consisting of human skeletal myocyte cell line. *Exp Cell Res* 370(1): 168-173, 2018 (査読有)
- 139.Yoshida S, Morimoto Y, Zheng L, Onoe H, Takeuchi S. Multipoint bending and shape retention of a pneumatic bending actuator by a variable stiffness endoskeleton. *Soft Robot* 5(6): 718-725, 2018 (査読有)
- 140.Morimoto Y, Onoe H, Takeuchi S. Biohybrid robot powered by an antagonistic pair of skeletal muscle tissues. *Sci Robot* 3: eaat4440, 2018 (査読有)
- 141.Nishimura K, Morimoto Y, Mori N, Takeuchi S. Formation of branched and chained alginate microfibers using theta-glass capillaries. *Micromachines* 9: 303, 2018 (査読有)
- 142.Yoshida S, Kato-Negishi M, Takeuchi S. Assembly and connection of micropatterned single neurons for neuronal network formation. *Micromachine* 9(5): 235, 2018 (査読有)
- 143.Moroni L, Burdick J, Highley C, Lee S, Morimoto Y, Takeuchi S, Yoo J. Biofabrication strategies for 3D in vitro models and regenerative medicine. *Nat Rev Mater* 3(5): 21-37, 2018 (査読有)
- 144.Misawa N, Osaki T, Takeuchi S. Membrane protein-based biosensors. *J R Soc Interface* 15: 20170952, 2018 (査読有)
- 145.Yasuga H, Kamiya K, Takeuchi S, Miki N. Self-generation of two-dimensional droplet array using oil/water immiscibility and replacement. *Lab Chip* 18(7): 1130-1137, 2018 (査読有)
- 146.Gotanda M, Kamiya K, Osaki T, Fujii S, Misawa N, Miki N, Takeuchi S. Sequential generation of asymmetric lipid vesicles using a pulsed-jetting method in rotational wells. *Sens Actuators B Chem* 261(15): 392-397, 2018 (査読有)
- 147.Kamiya K, Abe Y, Inoue K, Osaki T, Kawano R, Miki N, Takeuchi S. Well-controlled cell-trapping systems for investigating heterogeneous cell-cell interactions. *Adv Healthc*

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- Mater 7: 1701208, 2018 (査読有)
148. Izawa Y, Osaki T, Kamiya K, Fujii S, Misawa N, Takeuchi S, Miki N. Suppression of sloshing by utilizing surface energy and geometry in microliter cylindrical well. *Sens Actuators B Chem* 258: 1036–1041, 2018 (査読有)
149. Gutierrez M, Yoshida S, Malmstadt N, Takeuchi S. Rehydration on a photolithographic patterned surface forms size-controlled lipid vesicle. *APL Bioeng* 2: 016104, 2018 (査読有)
150. Matsumine H, Mogami M, Fujiwara O, Hasegawa M, Ito H, Sakurai H. Improvement of the salvage-rate of flap after venous thrombosis with Intraparenchymatous venous pressure monitoring. *Microsurgery* 38(5): 498–503, 2018 (査読有)
151. Negishi E, Fukuda N, Otsuki T, Katakawa M, Komatsu K, Chen L, Tanaka S, Kobayashi H, Hatanaka Y, Ueno T, Endo M, Mashimo T, Nishiyama A, Abe M. Involvement of complement 3 in the salt-sensitive hypertension by activation of renal renin-angiotensin system in spontaneously hypertensive rats. *Am J Physiol Renal Physiol* 315(6): F1747–F1758, 2018 (査読有)
152. Higuchi T, Moriyama M, Fukushima A, Matsumura H, Matsuoka S, Kanda T, Sugitani M, Tsunemi A, Ueno T, Fukuda N. Association of mRNA expression of iron metabolism-associated genes and progression of non-alcoholic steatohepatitis in rats. *Oncotarget* 9(40): 26183–26194. 2018 (査読有)
153. Ishizuka Y, Koshinaga T, Hirano T, Nagasaki-Maeoka E, Watanabe Y, Hoshi R, Yoshizawa S, Sugito K, Kawashima H, Uekusa S, Fukuda N, Soma M, Fujiwara K. NRP1 knockdown promotes the migration and invasion of human neuroblastoma-derived SK-N-AS cells via the activation of $\beta 1$ integrin expression. *Int J Oncol* 53(1): 159–166, 2018 (査読有)
154. Miyamae J, Suzuki S, Katakura F, Uno S, Tanaka M, Okano M, Matsumoto T, Kulski JK, Moritomo T, Shiina T. Identification of novel polymorphisms and two distinct haplotype structures in dog leukocyte antigen class I genes: DLA-88, DLA-12 and DLA-64. *Immunogenetics* 70(4): 237–255, 2018 (査読有)
155. Tanaka S, Haketa A, Yamamuro S, Suzuki T, Kobayashi H, Hatanaka Y, Ueno T, Fukuda N, Abe M, Yoshino A, Soma M. Marked alteration of glycemic profile surrounding lanreotide administration in acromegaly: a case report. *J Diabetes Investig* 9(1): 223–225. 2018 (査読有)
156. Okano T, Imai K, Tsujita Y, Mitsui N, Yoshida K, Kamae C, Honma K, Mitsui-Sekinaka K, Sekinaka Y, Kato T, Hanabusa K, Endo E, Takashima T, Hiroki H, Yeh TW, Tanaka K, Nagahori M, Tsuge I, Bando Y, Iwasaki F, Shikama Y, Inoue M, Kimoto T, Moriguchi N, Yuza Y, Kaneko T, Suzuki K, Matsubara T, Maruo Y, Kunitsu T, Waragai T, Sano H, Hashimoto Y, Tasaki K, Suzuki O, Shirakawa T, Kato M, Uchiyama T, Ishimura M, Tauchi T, Yagasaki H, Jou ST, Yu HH, Kanegane H, Kracker S, Durandy A, Kojima D, Muramatsu H, Wada T, Inoue Y, Takada H, Kojima S, Ogawa S, Ohara O, Nonoyama S, Morio. Hematopoietic stem cell transplantation for progressive combined immunodeficiency and lymphoproliferation in activated PI3K δ syndrome type 1. *J Allergy Clin Immunol* 43(1): 266–275, 2018 (査読有)
157. Shijo K, Moro N, Sasano M, Watanabe M, Yagasaki H, Takahashi S, Homma T, Yoshino A. Unusual presentation of a skull base mass lesion in sarcoidosis mimicking malignant neoplasm: a case report. *BMC Neurol* 18(1): 77, 2018 (査読有)
158. Hirai M, Yagasaki H, Fujimura J, Inoue M, Shimosawa K, Okuma H, Chin M, Takahashi S. Successful preemptive donor lymphocyte infusions from a haploidentical donor in a boy

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- with E2A-HLF positive ALL. *Leuk Lymphoma* 59(3): 746-748, 2018 (査読有)
159. Okubo T, Tsukimura N, Taniyama T, Ishijima M, Nakhaei K, Rezaei NM, Hirota M, Park W, Akita D, Tateno A, Ishigami T, Ogawa T. Ultraviolet treatment restores bioactivity of titanium mesh plate degraded by contact with medical gloves. *J Oral Sci* 60(4): 567-573. 2018 (査読有)
160. Okuwa Y, Toriumi T, Nakayama H, Ito T, Otake K, Kurita K, Nakashima M, Honda M. Transplantation effects of dental pulp-derived cells on peripheral nerve regeneration in crushed sciatic nerve injury. *J Oral Sci* 60(4): 526-535, 2018 (査読有)
161. Mori H, Hamamura K, Yo S, Hamajima K, Ootani K, Honda M, Ishizuka K, Kondo H, Tanaka K, Kodama D, Hirai T, Miyazawa K, Goto S, Togari A. Conditioned medium from rat dental pulp reduces the number of osteoclasts via attenuation of adhesiveness in osteoclast precursors. *J Oral Sci* 60(3): 352-359, 2018. (査読有)
162. Yoshizawa T, Hayashi Y, Yoshida A, Yoshida S, Ito Y, Yamaguchi K, Yamada S, Takahashi S. Concomitant alteration in number and affinity of P2X and muscarinic receptors are associated with bladder dysfunction in early stage of diabetic rats. *Int Urol Nephrol* 50: 451-458, 2018 (査読有).
163. Lawrence MG, Obinata D, Sandhu S, Selth LA, Wong SQ, Porter LH, Lister N, Pook D, Pezaro CJ, Goode DL, Rebello RJ, Clark AK, Papargiris M, Van Gramberg J, Hanson AR, Banks P, Wang H, Niranjana B, Keerthikumar S, Hedwards S, Huglo A, Yang R, Henzler C, Li Y, Lopez-Campos F, Castro E, Toivanen R, Azad A, Bolton D, Goad J, Grummet J, Harewood L, Kourambas J, Lawrentschuk N, Moon D, Murphy DG, Sengupta S, Snow R, Thorne H, Mitchell C, Pedersen J, Clouston D, Norden S, Ryan A, Dehm SM, Tilley WD, Pearson RB, Hannan RD, Frydenberg M, Furic L, Taylor RA, Risbridger GP. Patient-derived models of abiraterone- and enzalutamide-resistant prostate cancer reveal sensitivity to ribosome-directed therapy. *Eur Urol* 74(5): 562-572, 2018 (査読有).
164. Obinata D, Sugihara T, Yasunaga H, Mochida J, Yamaguchi K, Murata Y, Yoshizawa T, Matsui T, Matsui H, Sasabuchi Y, Fujimura T, Homma Y, Takahashi S. Tension-free vaginal mesh surgery versus laparoscopic sacrocolpopexy for pelvic organ prolapse: Analysis of perioperative outcomes using a Japanese national inpatient database. *Int J Urol* 25(7): 655-659, 2018 (査読有).
165. Koshinaga T, Takimoto T, Oue T, Okita H, Tanaka Y, Nozaki M, Tsuchiya K, Inoue E, Haruta M, Kaneko Y, Fukuzawa M. Outcome of renal tumors registered in Japan Wilms Tumor Study-2 (JWiTS-2): A report from the Japan Children's Cancer Group (JCCG). *Pediatr Blood Cancer* 65: e27056, 2018 (査読有)
166. Koshinaga T, Ohashi K, Ono K, Kaneda H, Furuya T. Obliterative cholangiopathy in acquired cystic biliary atresia type III after cyst perforation: A case report. *BMC Pediatr* 18: 158, 2018 (査読有)
167. Yoda M, Hosono S, Nagano N, Yoshikawa K, Takahashi S. Hemolytic disease of the newborn due to anti-E and anti-c antibody following maternal transfusion. *Pediatr Int* 59(10): 1093-1094, 2017 (査読有)
168. Odajima H, Hosono S, Kayama K, Yoshikawa K, Takahashi S. Congenital adrenal hyperplasia and violation of newborn screening procedures. *Pediatr Int* 59(10): 1107-1108, 2017 (査読有)
169. Komori A, Ayusawa M, Kato M, Nakamura T, Takahashi S. Congenital complete atrioventricular block with pulmonary hypertension. *Pediatr Int* 59(10): 1095-1096, 2017 (査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

170. Taguchi Y, Hosono S, Kayama K, Kato R, Hine K, Nagano N, Yoshikawa K, Takahashi S, Takahashi S. Target value of oxygen saturation during the first 10 min after birth. *Pediatr Int* 59(10): 1064–1068, 2017 (査読有)
171. Takano C, Ishige M, Ogawa E, Usui H, Kagawa R, Tajima G, Fujiki R, Fukao T, Mizuta K, Fuchigami T, Takahashi S. A case of classical maple syrup urine disease that was successfully managed by living donor liver transplantation. *Ediatr Transplant* 21(5), 2017 (査読有)
172. Kamei K, Ishikura K, Sako M, Aya K, Tanaka R, Nozu K, Kaito H, Nakanishi K, Ohtomo Y, Miura K, Takahashi S, Morimoto T, Kubota W, Ito S, Nakamura H, Iijima K; Rituximab for Childhood–Onset Refractory Nephrotic Syndrome (RCRNS) Study Group. Long-term outcome of childhood-onset complicated nephrotic syndrome after a multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial of rituximab. *Pediatr Nephrol* 32(11): 2071–2078, 2017 (査読有)
173. Fuchigami T, Fujita Y, Oyama M, Inamo Y, Takahashi S, Yamaguchi T, Miyazaki O, Nishimura G. Familial unilateral carpal bone dysplasia in mother and daughter. *Clin Dymorphol* 26(3): 167–169, 2017 (査読有)
174. Yagasaki H, Watanabe N, Hirai M, Shimozawa K, Mugishima H, Takahashi S. A Japanese infant with systemic juvenile xanthogranuloma mimicking severe microangiopathy. *Ann Hematol* 96(7): 1233–1235, 2017 (査読有)
175. Saito H, Takahashi Y, Takahashi S. Measurement of blood pressure to detect elusive kidney disease. *Pediatr Int* 59(5): 638–639, 2017 (査読有)
176. Fuwa K, Hosono S, Nagano N, Takahashi S, Nakashima M. Retinopathy of prematurity after sildenafil treatment. *Pediatr Int* 59(3): 360–361, 2017 (査読有)
177. Ishige M, Fuchigami T, Ogawa E, Usui H, Kohira R, Watanabe Y, Takahashi S. Severe acute subdural hemorrhages in a patient with glutaric acidemia type 1 under recommended treatment. *Pediatr Neurosurg* 52(1): 46–50, 2017 (査読有)
178. Tajima G, Hara K, Tsumura M, Kagawa R, Okada S, Sakura N, Maruyama S, Noguchi A, Awaya T, Ishige M, Ishige N, Musha I, Ajihara S, Ohtake A, Naito E, Hamada Y, Kono T, Asada T, Sasai H, Fukao T, Fujiki R, Ohara O, Bo R, Yamada K, Kobayashi H, Hasegawa Y, Yamaguchi S, Takayanagi M, Hata I, Shigematsu Y, Kobayashi M. Newborn screening for carnitine palmitoyltransferase II deficiency using (C16+C18:1)/C2: Evaluation of additional indices for adequate sensitivity and lower false-positivity. *Mol Genet Metab* 122(3): 67–75, 2017 (査読有)
179. Ogawa E, Shimura M, Fushimi T, Tajika M, Ichimoto K, Matsunaga A, Tsuruoka T, Ishige M, Fuchigami T, Yamazaki T, Mori M, Kohda M, Kishita Y, Okazaki Y, Takahashi S, Ohtake A, Murayama K. Clinical validity of biochemical and molecular analysis in diagnosing Leigh syndrome: a study of 106 Japanese patients. *J Inherit Metab Dis* 40(5): 685–693, 2017 (査読有)
180. Takano C, Ishige M, Ogawa E, Usui H, Kagawa R, Tajima G, Fujiki R, Fukao T, Mizuta K, Fuchigami T, Takahashi S. A case of classical maple syrup urine disease that was successfully managed by living donor liver transplantation. *Pediatr Transplant* 21(5): e12948, 2017 (査読有)
181. Okamura Y, Mishima S, Kashiwakura J, Sasaki–Sakamoto T, Toyoshima S, Kuroda K, Saito S, Tokuhashi Y, Okayama Y. The dual regulation of substance P-mediated inflammation via human synovial mast cells in rheumatoid arthritis. *Allergol Int Sep*;66S: S9–S20, 2017 (査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

182. Uei H, Tokuhashi Y, Oshima M, Maseda M, Matsumoto K, Soma H, Nakayama E, Tachikawa Y. Clinical results of minimally invasive spine stabilization for spinal metastasis. *Orthopedics* 40(4): e693–e698, 2017 (査読有)
183. Uei H, Tokuhashi Y, Maseda M. Analysis of the relationship between the epidural spinal cord compression (ESCC) scale and paralysis caused by metastatic spine tumors. *Spine* 43(8): E448–E455, 2018 (査読有)
184. Ohshima Y, Takata N, Suzuki–Karasaki M, Yoshida Y, Tokuhashi Y, Suzuki–Karasaki Y. Disruptin mitochondrial Ca^{2+} homeostasis causes tumorselective TRAIL sensitization through mitochondrial network abnormalities. *Int J Oncol* 51: 1146–1158, 2017 (査読有)
185. Uei H, Tokuhashi Y, Maseda M. Treatment outcome of metastatic spine tumor in lung cancer patients: Did the treatments improve their outcomes? *Spine* 42(24): E1446–E1451, 2017 (査読有)
186. Takata N, Ohshima Y, Suzuki–Karasaki M, Yoshida Y, Tokuhashi Y, Suzuki–Karasaki Y. Mitochondrial Ca^{2+} removal amplifies TRAIL cytotoxicity toward apoptosis–resistant tumor cells via promotion of multiple cell death modalities. *Int J Oncol* 51: 193–203, 2017 (査読有)
187. Amelot A, Balabaud L, Choi D, Fox Z, Crockard HA, Albert T, Arts CM, Buchowski JM, Bunker C, Chung CK, Coppes MH, Depreitere B, Fehlings MG, Harrop J, Kawahara N, Kim ES, Lee CS, Leung Y, Liu ZJ, Martin–Benloch JA, Massicotte EM, Meyer B, Oner FC, Peul W, Quraishi N, Tokuhashi Y, Tomita K, Ulbricht C, Verlaan JJ, Wang M, Mazel C. Surgery for metastatic spine tumors in the elderly. Advanced age is not a contraindication to surgery! *Spine J* 17(6): 759–767, 2017 (査読有)
188. Hosaka K, Saito S, Oyama T, Fujimaki H, Cho E, Ishigaki K, Tokuhashi Y. Union, knee alignment, and clinical outcomes of patients treated with autologous bone grafting for medial tibial defects in primary total knee arthroplasty. *Orthopaedics* 40(4): e604–e608, 2017 (査読有)
189. Suruga M, Horaguchi T, Iriuchishima T, Yahag Y, Iwama G, Tokuhashi Y, Aizawa S. Morphological size evaluation of the mid–substance insertion areas and the fan–like extension fibers in the femoral ACL footprint. *Arch Orthop Trauma Surg* 137(8): 1107–1113, 2017 (査読有)
190. Kato M, Komamura K, Kitakaze M, Hirayama A. The impact of bronchodilator therapy on systolic heart failure with concomitant mild to moderate COPD. *Diseases* 6(1). pii: E4, 2017 (査読有)
191. Yamaguchi N, Okumura Y, Watanabe I, Nagashima K, Takahashi K, Iso K, Watanabe R, Arai M, Kurokawa S, Ohkubo K, Nakai T, Hirayama A. Clinical implications of serum adiponectin on progression of atrial fibrillation. *J Arrhythm* 33(6): 608–612, 2017 (査読有)
192. Nakai T, Sato T, Soejima K, Takamine Y, Watanabe M, Kobayashi K, Oshima H, Fukaya C, Okumura Y, Ohkubo K, Kunimoto S, Watanabe I, Yoshino A, Hirayama A. Brain magnetic resonance imaging examination in a patient with non–magnetic resonance conditional pacemaker. *J Arrhythm* 33(5): 518–520, 2017 (査読有)
193. Kogawa R, Okumura Y, Watanabe I, Nagashima K, Takahashi K, Iso K, Watanabe R, Arai M, Kurokawa S, Ohkubo K, Nakai T, Hirayama A, Sonoda K, Tosaka T. Left atrial remodeling: regional differences between paroxysmal and persistent atrial fibrillation. *J Arrhythm* 33(5): 483–487, 2017 (査読有)
194. Sonoda K, Okumura Y, Watanabe I, Nagashima K, Mano H, Kogawa R, Yamaguchi N, Takahashi K, Iso K, Ohkubo K, Nakai T, Kunimoto S, Hirayama A. Scar characteristics

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- derived from two- and three-dimensional reconstructions of cardiac contrast-enhanced magnetic resonance images: Relationship to ventricular tachycardia inducibility and ablation success. *J Arrhythm* 33(5): 447-454, 2017 (査読有)
195. Tani S, Yagi T, Atsumi W, Kawauchi K, Matsuo R, Hirayama A. Relation between low-density lipoprotein cholesterol/apolipoprotein B ratio and triglyceride-rich lipoproteins in patients with coronary artery disease and type 2 diabetes mellitus: A cross-sectional study. *Cardiovasc Diabetol* 16(1): 123, 2017 (査読有)
196. Ando Y, Saito M, Machida M, Yoshida-Noro C, Takahashi M, Toyoda M and Umezawa A. Can human embryonic stem cell-derived stromal cells serve a starting material for myoblasts? *Stem Cell Int* 2017:7541734, 2017 (査読有)
197. Maebayashi T, Ishibashi N, Aizawa T, Sakaguchi M, Sato H, Matsui T, Yamaguchi K, Takahashi S: Factors predicting late rectal disorders after radiation therapy for prostate cancer. *Chin Med J* 130: 2441-2446, 2017 (査読有)
198. 山本慎一郎, 吉田利之, 橋本翔, 高田将吾, 桜井文紀, 堀祐太郎, 村田保貴, 大野将, 吉澤剛, 松井強, 佐藤克彦, 持田淳一, 山口健哉, 高橋悟. 帝王切開術後に発生した尿管子宮瘻の1例. *日本泌尿器科学会雑誌* 108(4): 234-237, 2017 (査読有)
199. Okumura Y, Yokoyama K, Matsumoto N, Tachibana E, Kuronuma K, Oiwa K, Matsumoto M, Kojima T, Hanada S, Nomoto K, Arima K, Takahashi F, Kotani T, Ikeya Y, Fukushima S, Itoh S, Kondo K, Chiku M, Ohno Y, Onikura M, Hirayama A, The Sakura Af Registry Investigators. Current use of direct oral anticoagulants for atrial fibrillation in Japan: Findings from the SAKURA AF Registry. *J Arrhythm* 33(4): 289-296, 2017 (査読有)
200. Iso K, Watanabe I, Kogawa R, Okumura Y, Nagashima K, Takahashi K, Watanabe R, Arai M, Ohkubo K, Nakai T, Hirayama A, Nikaido M. Wavefront direction and cycle length affect left atrial electrogram amplitude. *J Arrhythm* 33(4): 269-274, 2017 (査読有)
201. Sudo M, Li Y, Hiro T, Takayama T, Mitsumata M, Shiomi M, Sugitani M, Matsumoto T, Hao H, Hirayama A. Inhibition of plaque progression and promotion of plaque stability by glucagon-like peptide-1 receptor agonist: Serial in vivo findings from iMap-IVUS in Watanabe heritable hyperlipidemic rabbits. *Atherosclerosis*. 265: 283-291, 2017 (査読有)
202. Iida K, Tani S, Atsumi W, Yagi T, Kawauchi K, Matsumoto N, Hirayama A. Association of plasminogen activator inhibitor-1 and low-density lipoprotein heterogeneity as a risk factor of atherosclerotic cardiovascular disease with triglyceride metabolic disorder: a pilot cross-sectional study. *Coron Artery Dis* 28(7): 577-587, 2017 (査読有)
203. Saito Y, Ohtani T, Kioka H, Onishi T, Tsukamoto Y, Nakamoto K, Taniguchi T, Nakatani S, Hirayama A, Sakata Y. Clinical significance of pulmonary arterial capacitance calculated by echocardiography in patients with advanced heart failure. *Circ J* 81(12): 1871-1878, 2017 (査読有)
204. Tani S, Nagao K, Kawauchi K, Yagi T, Atsumi W, Matsuo R, Hirayama A. The ratio of eicosapentaenoic acid (EPA) to arachidonic acid may be a residual risk marker in stable coronary artery disease patients receiving treatment with statin following EPA therapy. *Am J Cardiovasc Drugs* 17(5): 409-420, 2017 (査読有)
205. Ueda Y, Hiro T, Hirayama A, Komatsu S, Matsuoka H, Takayama T, Ishihara M, Hayashi T, Saito S, Kodama K; ZIPANGU Investigators. Effect of ezetimibe on stabilization and regression of intracoronary plaque - The ZIPANGU Study. *Circ J* 81(11): 1611-1619, 2017 (査読有)
206. Tani S, Asayama K, Oiwa K, Harasawa S, Okubo K, Takahashi A, Tanabe A, Ohkubo T, Hirayama A, Kushiro T. The effects of increasing calcium channel blocker dose vs. adding

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- a diuretic to treatment regimens for patients with uncontrolled hypertension. *Hypertens Res.* 40(10):892–898, 2017 (査読有)
207. Osada A, Sekine H, Soejima K, Sakurai H, Shimizu T. Harvesting epithelial keratinocyte sheets from temperature-responsive dishes preserves basement membrane proteins and improves cell survival in a skin defect model. *J Tissue Eng Regen Med* 11(9): 2516–2524, 2017 (査読有)
208. Nagashima K, Watanabe I, Okumura Y, Iso K, Takahashi K, Watanabe R, Arai M, Kurokawa S, Nakai T, Ohkubo K, Yoda S, Hirayama A. High-voltage zones within the pulmonary vein antra: Major determinants of acute pulmonary vein reconnections after atrial fibrillation ablation. *J Interv Card Electrophysiol* 49(2): 137–145, 2017 (査読有)
209. Nakamura M, Uno K, Hirayama A, Ako J, Nohara A, Arai H, Harada-Shiba M. Exploration into lipid management and persistent risk in patients hospitalised for acute coronary syndrome in Japan (EXPLORE-J): protocol for a prospective observational study. *BMJ Open* 7(6): e014427, 2017 (査読有)
210. Sasaki N, Watanabe I, Okumura Y, Nagashima K, Kogawa R, Sonoda K, Iso K, Takahashi K, Arai M, Watanabe R, Kurokawa S, Ohkubo K, Nakai T, Hirayama A, Nikaido M. Complex fractionated atrial electrograms, high dominant frequency regions, and left atrial voltages during sinus rhythm and atrial fibrillation. *J Arrhythm* 33(3): 185–191, 2017 (査読有)
211. Hirayama A, Yamashita S, Inomata H, Kassahun H, Cyrille M, Ruzza A, Yoshida M, Kiyosue A, Ma Y, Teramoto T. One-year efficacy and safety of evolocumab in Japanese patients – A pooled analysis from the open-label extension OSLER studies. *Circ J* 81(7): 1029–1035, 2017 (査読有)
212. Saito Y, Aizawa Y, Monno K, Nagashima K, Kurokawa S, Osaka S, Akimoto T, Kamei S, Tanaka M, Hirayama A. Small, smooth, nonmobile cardiac myxoma detected by transesophageal echocardiography following recurrent cerebral infarction: a case report. *J Med Case Rep* 11(1): 131, 2017 (査読有)
213. Okumura Y, Watanabe I, Iso K, Takahashi K, Nagashima K, Sonoda K, Mano H, Yamaguchi N, Kogawa R, Watanabe R, Arai M, Ohkubo K, Kurokawa S, Nakai T, Hirayama A. Mechanistic insights into durable pulmonary vein isolation achieved by second-generation cryoballoon ablation. *J Atr Fibrillation* 9(6): 1538, 2017 (査読有)
214. Nishina A, Itagaki M, Sato D, Kimura H, Hirai Y, Phay N, Makishima M. Rosiglitazone-like effect of vitexilactone, a constituent from *Vitex trifolia* L. in 3T3-L1 preadipocytes. *Molecules* 22(11): E2030, 2017 (査読有)
215. Chuma M, Makishima M, Imai T, Tochikura N, Suzuki S, Kuwana T, Sawada N, Komatsu T, Sakaue T, Kikuchi N, Yoshida Y, Kinoshita K. Relationship between initial vancomycin trough levels and early-onset vancomycin-associated nephrotoxicity in critically ill patients. *Ther Drug Monit* 40(1): 109–114, 2018 (査読有)
216. Sakane R, Kimura K, Hirota Y, Ishizawa M, Takagi Y, Wada A, Kuwahara S, Makishima M, Sahara Y. Synthesis of novel vitamin K derivatives with alkylated phenyl groups introduced at the ω -terminal side chain and evaluation of their neural differentiation activities. *Bioorg Med Chem Lett* 27(21): 4881–4884, 2017 (査読有)
217. Neelankal John A, Iqbal Z, Colley S, Morahan G, Makishima M, Jiang FX. Vitamin D receptor-targeted treatment to prevent pathological dedifferentiation of pancreatic β cells under hyperglycaemic stress. *Diabetes Metab* 44(3): 269–280, 2018 (査読有)
218. Endo-Umeda K, Aoyama A, Shimizu M, Ishikawa M, Hashimoto Y, Yamada S, Makishima M. 1α -Hydroxy derivatives of 7-dehydrocholesterol are selective liver X receptor

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- modulators. *J Steroid Biochem Mol Biol* 172: 136–148, 2017(査読有)
219. Arichi N, Fujiwara S, Ishizawa M, Makishima M, Hua HD, Yamada K, Yamaoka Y, Takasu K. Synthesis and biological evaluation of steroidal derivatives bearing a small ring as vitamin D receptor agonists. *Bioorg Med Chem Lett* 27(15): 3408–3411, 2017(査読有)
220. Ishizawa M, Akagi D, Yamamoto J, Makishima M. $1\alpha,25$ -Dihydroxyvitamin D₃ enhances TRPV6 transcription through p38 MAPK activation and GADD45 expression. *J Steroid Biochem Mol Biol* 172: 55–61, 2017(査読有)
221. Tamura M, Ishizawa M, Isojima T, Ozen S, Oka A, Makishima M, Kitanaka S. Functional analyses of a novel missense and other mutations of the vitamin D receptor in association with alopecia. *Sci Rep* 7(1): 5102, 2017(査読有)
222. Shioi R, Okazaki S, Noguchi-Yachide T, Ishikawa M, Makishima M, Hashimoto Y, Yamaguchi T. Switching subtype-selectivity: Fragment replacement strategy affords novel class of peroxisome proliferator-activated receptor α/δ (PPAR α/δ) dual agonists. *Bioorg Med Chem Lett* 27(14): 3131–3134, 2017(査読有)
223. Toyota Y, Nomura S, Makishima M, Hashimoto Y, Ishikawa M. Structure-activity relationships of rosiglitazone for peroxisome proliferator-activated receptor gamma transrepression. *Bioorg Med Chem Lett* 27(12): 2776–2780, 2017(査読有)
224. Shimizu T, Tanaka T, Uno S, Ashiba H, Fujimaki M, Tanaka M, Awazu K, Makishima M. Detection of antibodies against hepatitis B virus surface antigen and hepatitis C virus core antigen in plasma with a waveguide-mode sensor. *J Biosci Bioeng* 123(6): 760–764, 2017(査読有)
225. Takada I, Makishima M. Control of inflammatory bowel disease and colorectal cancer by synthetic vitamin D receptor ligands. *Current Medicinal Chemistry* 24(9): 868–875, 2017(査読有)
226. Ohashi K, Koshinaga T, Uehara S, Furuya T, Kaneda H, Kawashima H, Ikeda T. Sutureless enterostomy for extremely low birth weight infants. *J Pediatr Surg* 52(11): 1873–1877, 2017(査読有)
227. 永井康平, 佐藤洋明, 益子貴行, 池田太郎, 丸山麻美, 佐藤有子, 市橋光, 高木健次郎. Hirschsprung 病, 神経芽腫を合併した先天性中枢性低換気症候群の 1 例. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 53(3): 853–856, 2017(査読有)
228. 前岡瑛里, 益子貴行, 花田学, 古屋武史, 杉藤公信, 池田太郎, 越永従道. 腎動脈本幹に仮性動脈瘤を形成した小児鈍的腎外傷の 1 例 経カテーテル動脈塞栓術と腎摘除術の組み合わせ治療. *日本小児外科学会雑誌* 53(2): 266–271, 2017(査読有)
229. 織田恭子, 大河内知久, 松浦克彦, 赤羽佳子, 濱本耕平, 千葉英美子, 田中修, 池田太郎, 山田盛久, 磯貝純. Abdominoscrotal hydrocele の 1 例. *埼玉県医学会雑誌* 51(1): 409–411, 2017(査読有)
230. Matsumine H, Kubo K, Hamahata A, Sakurai H. Deltopectoral and pectoralis musculocutaneous flap technique for cervical esophageal reconstruction after free-jejunal-flap necrosis. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 5(8): e1444, 2017(査読有)
231. Chin MS, Chappell AG, Giatsidis G, Perry DJ, Lujan-Hernandez J, Haddad A, Matsumine H, Orgill DP. Hyperspectral imaging provides early prediction of random axial flap necrosis in a preclinical model. *Plast Reconstr Surg* 139(6): 1285e–1290e, 2017(査読有)
232. Matsumine H, Numakura K, Tsunoda S, Wang K, Matsumine R, Klimov M, Giatsidis G, Sukhatme V, Orgill D. Adipose-derived aldehyde-dehydrogenase-expressing cells promote dermal regenerative potential with collagen-glycosaminoglycan scaffold. *Wound Repair Regen* 25(1): 882–890, 2017(査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

233. Giatsidis G, Cheng L, Facchin F, Haddad A, Hernandez J, Lancerotto L, Gunther C, Nabzdyk S, Matsumine H, Orgill D. Moderate-intensity intermittent external volume expansion optimizes the soft tissue response in a murine model. *Plast Reconstr Surg* 139(4): 882-890, 2017 (査読有)
234. Matsumine H, Numakura K, Klimov M, Watanabe Y, Giatsidis G, Orgill D. Facial-nerve regeneration ability of a hybrid artificial nerve conduit containing uncultured adipose-derived stromal vascular fraction: An experimental study. *Microsurgery* 37(7): 808-818, 2017 (査読有)
235. Nirei K, Nakamura H, Matsuoka S, Yamana Y, Yoda S, Hirayama A, Moriyama M. Ventricular tachycardia as a complication of ledipasvir and sofosbuvir treatment for HCV infection. *Intern Med* 56(7): 787-790, 2017. (査読有)
236. Moroni L, Boland T, Burdick J, Maria C, Derby B, Forgacs G, Groll J, Li Q, Malda J, Mironov V, Mota C, Nakamura M, Shu W, Takeuchi S, Woodfield T, Xu T, Yoo J, Vozzi G. Biofabrication: A guide to technology and terminology. *Trends Biotechnol* 36(4): 384-402, 2017 (査読有)
237. Daniela S, Takeuchi S. Two-photon direct laser writing for proteinaceous microstructures with additional sensitizer. *J Laser Micro Nanoen* 12(2): 80-85, 2017 (査読有)
238. Kamiya K, Takeuchi S. Giant liposome formation toward synthesis of well-defined artificial cells. *J Mater Chem B* 5: 5911-5923, 2017 (査読有)
239. Yasuga H, Inoue K, Kawano R, Takinoue M, Osaki T, Kamiya K, Miki N, Takeuchi S. Serial DNA relay in DNA logic gates by electrical fusion and mechanical splitting of droplets. *PLoS One* 12(7): e0180876, 2017 (査読有)
240. Nie M, Takeuchi S. Microfluidics based synthesis of coiled hydrogel microfibers with flexible shape and dimension control. *Sens Actuators B Chem* 246: 358-362, 2017 (査読有)
241. Fujii S, Nobukawa A, Osaki T, Morimoto Y, Kamiya K, Misawaa N, Takeuchi S. Pesticide vapor sensing using an aptamer, nanopore, and agarose gel on a chip. *Lab Chip*. 17: 2421-2425, 2017 (査読有)
242. Ikeda K, Nagata S, Okitsu T, Takeuchi S. Cell fiber-based three-dimensional culture system for highly efficient expansion of human induced pluripotent stem cells. *Sci Rep* 7: 2850, 2017 (査読有)
243. Ueno N, Banno T, Asami A, Kazayama Y, Morimoto Y, Osaki T, Takeuchi S, Kitahata H, Toyota T. Self-propelled motion of monodisperse underwater oil droplets formed by a microfluidic device. *Langmuir* 33(22): 5393-5397, 2017 (査読有)
244. Morimoto Y, Onuki M, Takeuchi S. Mass production of cell-laden calcium alginate particles with centrifugal force. *Adv Healthc Mater* 6: 1601375, 2017 (査読有)
245. Negishi M, Onoe H, Takeuchi S. Rod-shaped neural units for aligned 3D neural network connection. *Adv Healthc Mater* 6: 1700143, 2017 (査読有)
246. Tsuchiya M, Karim MR, Matsumoto T, Ogawa H, Taniguchi H. A protein preparation method for the high-throughput identification of proteins interacting with a nuclear cofactor using LC-MS/MS analysis. *J Vis Exp* 24(119), e55077, 2017 (査読有)
247. Watanabe Y, Ishizuka Y, Hirano T, Nagasaki-Maeoka E, Hoshi R, Yoshizawa S, Uekusa S, Kawashima H, Sugito K, Shinohara K, Fukuda N, Nagase H, Soma M, Koshinaga T, Fujiwara K. ZAR1 knockdown promotes the differentiation of human neuroblastoma cells by suppression of MYCN expression. *Med Oncol* 34(9): 158-175. 2017 (査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

248. Matsuda H, Campion CG, Fujiwara K, Ikeda J, Cossette S, Verissimo T, Ogasawara M, Gaboury L, Saito K, Yamaguchi K, Takahashi S, Endo M, Fukuda N, Soma M, Hamet P, Tremblay J. HCaRG/COMMD5 inhibits ErbB receptor-driven renal cell carcinoma. *Oncotarget* 8(41): 69559–69576, 2017. (査読有)
249. Kitai M, Fukuda N, Ueno T, Endo M, Maruyama T, Abe M, Okada K, Soma M, Matsumoto K. The effects of a spleen tyrosine kinase inhibitor on the progression of lupus nephritis in mice. *J Pharmacol Sci* 134(1): 29–36, 2017 (査読有)
250. Kobayashi H, Haketa A, Ueno T, Ikeda Y, Hatanaka Y, Tanaka S, Otsuka H, Abe M, Fukuda N, Soma M. Scoring system for the diagnosis of bilateral primary aldosteronism in the outpatient setting before adrenal venous sampling. *Clin Endocrinol* 86(4): 467–472, 2017 (査読有)
251. Okumura H, Noto N, Tanikawa S, Kanezawa K, Hirai M, Shimosawa K, Yagasaki H, Shichino H, Takahashi S. Impact of persistent left ventricular regional wall motion abnormalities in childhood cancer survivors after anthracycline therapy: Assessment of global left ventricular myocardial performance by 3D speckle-tracking echocardiography. *J Cardiol* 70(4): 396–401, 2017 (査読有)
252. Nishikawa E, Yagasaki H, Hama A, Yabe H, Ohara A, Kosaka Y, Kudo K, Kobayashi R, Ohga S, Morimoto A, Watanabe KI, Yoshida N, Muramatsu H, Takahashi Y, Kojima S. Long-term outcomes of 95 children with moderate aplastic anemia treated with horse antithymocyte globulin and cyclosporine. *Pediatr Blood Cancer* 64(5). doi: 10.1002/pbc.26305, 2017 (査読有)
253. Kobayashi H, Haketa A, Ueno T, Ikeda Y, Hatanaka Y, Tanaka S, Otsuka H, Abe M, Fukuda N, Soma M. Scoring system for the diagnosis of bilateral primary aldosteronism in the outpatient setting before adrenal venous sampling. *Clin Endocrinol* 86(4): 467–472, 2017 (査読有)
254. Kobayashi H, Haketa A, Ueno T, Otsuka H, Tanaka S, Hatanaka Y, Ikeda Y, Abe M, Fukuda N, Soma M. Plasma adrenocorticotrophic hormone but not aldosterone is correlated with blood pressure in patients with aldosterone-producing adenomas. *J Clin Hypertens* 19(3): 280–286, 2017 (査読有)
255. Obinata D, Takayama K, Takahashi S, Inoue S. Crosstalk of the androgen receptor with transcriptional collaborators: Potential therapeutic targets for castration-resistant prostate cancer. *Cancers* 9(3): E22, 2017 (査読有)
256. Hoshi R, Watanabe Y, Ishizuka Y, Hirano T, Nagasaki-Maeoka E, Yoshizawa S, Uekusa S, Kawashima H, Ohashi K, Sugito K, Fukuda N, Nagase H, Soma M, Ozaki T, Koshinaga T, Fujiwara K. Depletion of TFAP2E attenuates adriamycin-mediated apoptosis in human neuroblastoma cells. *Oncol Rep* 37(4): 2459–2464, 2017 (査読有)
257. Yamada Y, Takayama KI, Fujimura T, Ashikari D, Obinata D, Takahashi S, Ikeda K, Kakutani S, Urano T, Fukuhara H, Homma Y, Inoue S. A novel prognostic factor TRIM44 promotes cell proliferation and migration, and inhibits apoptosis in testicular germ cell tumor. *Cancer Sci* 108(1): 32–41, 2017 (査読有)
258. Kashimura T, Soejima K, Kikuchi Y, Nakazawa H. Stability of orbital floor fracture fixation after endoscope-assisted balloon placement. *J Craniofac Surg* 28(7): 669–672, 2017 (査読有)
259. Soejima K, Kashimura T, Yamaki T, Sakurai H, Nakazawa H. Endoscopic endonasal repair of isolated medial orbital wall fracture with balloon technique. *J Craniofac Surg* 28(4): 1013–1016, 2017 (査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 260.屋形有美, 仲沢弘明, 副島一孝, 菊池雄二, 榎村勉, 吉田光徳, 堀米迪生, 竹田昌平. フラクショナル Q スイッチルビーレーザーの展望. 日大医学雑誌 76(6):317-318, 2017 (査読有)
- 261.吉田光徳, 榎村勉, 堀米迪生, 屋形有美, 副島一孝, 菊池雄二, 森岡康祐, 仲沢弘明. 重傷熱傷に合併した眼球熱傷の治療経験. 熱傷 43 (3):145-150, 2017 (査読有)
- 262.中林晋也, 眞田淳太郎, 永井栄一, 齋藤五月, 加瀬武士, 秋田大輔, 大山哲生, 大谷賢二, 月村直樹, 石上友彦. レジン床義歯への磁石構造体に光重合レジンを用いた合着方法に検討 床用レジンの表面処理の違いによる比較検討, 日磁歯誌 26 (1):35-40, 2017 (査読無)
- 263.月村直樹, 好士理恵子, 蕭敬意, 秋田大輔, 加瀬武士, 大久保貴久, 大林美穂, 齋藤五月, 舘野敦. 口腔機能の回復が全身機能に及ぼす影響, 日補綴会誌 9(4):279-284, 2017 (査読無)
- 264.Lloyd JD, Nakamura WS, Maeda Y, Takeda T, Leesungbok R, Lazarchik D, Dorney B, Gonda T, Nakajima K, Yasui T, Iwata Y, Suzuki H, Tsukimura N, Churei H, Kwon KR, Choy MMH, Rock JB. Mouthguards and their use in sports: Report of the 1st International Sports Dentistry Workshop, 2016. Dent Traumatol 33(6): 421-426, 2017 (査読有)
- 265.Moriguchi K, Hasegawa Y, Higuchi N, Murakami Y, Yoshimura F, Nakata K, Honda M. Energy dispersive spectroscopy-scanning transmission electron microscope observations of free radical production in human polymorphonuclear leukocytes phagocytosing non-opsonized Tannerella forsythia. Microsc Res Tech 80(6):555-562, 2017 (査読有)
- 266.Kawano E, Toriumi T, Iguchi S, Suzuki D, Sato S, Honda M. Induction of neural crest cells from human dental pulp-derived induced pluripotent stem cells. Biomed Res 38(2): 135-147, 2017 (査読有)
- 267.Honda M, Sato M, Toriumi T. Characterization of coronal pulp cells and radicular pulp cells in human teeth. J Endod 43(9S) :S35-S39. 2017 (査読有)
- 268.Iguchi S, Suzuki D, Kawano E, Mashimo T, Kajiya M, Toriumi T, Kawai T, Kurihara H, Isokawa K, Sato S, Honda M. Effect of local bone marrow stromal cell administration on ligature-induced periodontitis in mice. J Oral Sci 59(4): 629-637, 2017 (査読有)
- 269.Yamada Y, Takayama KI, Fujimura T, Ashikari D, Obinata D, Takahashi S, Ikeda K, Kakutani S, Urano T, Fukuhara H, Homma Y, Inoue S. A novel prognostic factor TRIM44 promotes cell proliferation and migration, and inhibits apoptosis in testicular germ cell tumor. Cancer Sci 108(1): 32-41, 2017 (査読有).
- 270.Ashikari D, Takayama KI, Obinata D, Takahashi S, Inoue S. CLDN8, an androgen-regulated gene, promotes prostate cancer cell proliferation and migration. Cancer Sci 108(7): 1386-1393, 2017 (査読有)
- 271.Ashikari D, Takayama K, Tanaka T, Suzuki Y, Obinata D, Fujimura T, Urano T, Takahashi S, Inoue S. Androgen induces G3BP2 and SUMO-mediated p53 nuclear export in prostate cancer. Oncogene 36(45): 6272-6281, 2017 (査読有)
- 272.Migita T, Takayama KI, Urano T, Obinata D, Ikeda K, Soga T, Takahashi S, Inoue S. ACSL3 promotes intratumoral steroidogenesis in prostate cancer cells. Cancer Sci 108(10): 2011-2021, 2017 (査読有)
- 273.Obinata D, Takayama K, Takahashi S, Inoue S. Crosstalk of the androgen receptor with transcriptional collaborators: Potential therapeutic targets for castration-resistant prostate cancer. Cancers 9(3), E22, 2017 (査読有)
- 274.Takahashi K, Nagashima K, Okumura Y, Watanabe I, Iso K, Hirayama A. Resolution of the

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- functional retrograde right bundle branch block during antidromic atrioventricular reciprocating tachycardia. *Heart Rhythm Case Rep* 3(11): 519–522, 2017 (査読有)
275. Watanabe Y, Ishizuka Y, Hirano T, Nagasaki–Maeoka E, Hoshi R, Yoshizawa S, Uekusa S, Kawashima H, Sugito K, Shinohara K, Fukuda N, Nagase H, Soma M, Koshinaga T, Fujiwara K. ZAR1 knockdown promotes the differentiation of human neuroblastoma cells by suppression of MYCN expression. *Med Oncol* 34: 158, 2017 (査読有)
276. Urushihara N, Hamada Y, Kamisawa T, Fujii H, Koshinaga T, Morotomi Y, Saito T, Itoi T, Kaneko K, Fukuzawa H, Ando H. Classification of pancreaticobiliary maljunction and clinical features in children. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 24: 449–55, 2017 (査読有)
277. Ohashi K, Koshinaga T, Uehara S, Furuya T, Kaneda H, Kawashima H, Ikeda T. Sutureless enterostomy for extremely low birth weight infants. *J Pediatr Surg* 52: 1873–1877, 2017 (査読有)
278. Hoshi R, Watanabe Y, Ishizuka Y, Hirano T, Nagasaki–Maeoka E, Yoshizawa S, Uekusa S, Kawashima H, Ohashi K, Sugito K, Fukuda N, Nagase H, Soma M, Ozaki T, Koshinaga T, Fujiwara K. Depletion of TFAP2E attenuates adriamycin–mediated apoptosis in human neuroblastoma cells. *Oncol Rep* 37(4): 2459–2464, 2017 (査読有)
279. Karim MR, Haruta T, Matsumoto T, Oda H, Taniguchi H. Imaging of cell shape alteration and cell movement in drosophila gastrulation using DE–cadherin reporter transgenic flies. *J Vis Exp* Dec 29; (118), 2016 (査読有)
280. Nakahara E, Yagasaki H, Shimozawa K, Hirai M, Takahashi S. Severe thrombocytopenia as initial signs of primary sjögren syndrome in a 9–year–old female. *Pediatr Blood Cancer* 63(7): 1312–1313, 2016 (査読有)
281. Katakawa M, Fukuda N, Tsunemi A, Mori M, Maruyama T, Matsumoto T, Abe M, Yamori Y. Taurine and magnesium supplement enhances the function of endothelial progenitor cells through antioxidation in healthy men and spontaneously hypertensive rats. *Hypertens Res* 39(12): 848–856, 2016 (査読有)
282. Obinata D, Takayama K, Fujiwara K, Suzuki T, Tsutsumi S, Fukuda N, Nagase H, Fujimura T, Urano T, Homma Y, Aburatani H, Takahashi S, Inoue S. Targeting Oct1 genomic function inhibits androgen receptor signaling and castration–resistant prostate cancer growth. *Oncogene* 35(49): 6350–6358, 2016 (査読有)
283. Ishige–Wada M, Kwon AM, Eguchi M, Hozumi K, Iwaguro H, Matsumoto T, Fukuda N, Mughishima H, Masuda H, Asahara T. Jagged–1 signaling in the bone marrow microenvironment promotes endothelial progenitor cell expansion and commitment of CD133+ human cord blood cells for postnatal vasculogenesis. *PLoS One* 11(11): e016660, 2016 (査読有)
284. Maebayashi T, Ishibashi N, Aizawa T, Sakaguchi M, Sato K, Matsui T, Yamaguchi K, Takahashi S. Radiotherapy for muscle–invasive bladder cancer in very elderly patients. *Anticancer Res* 36(9): 4763–4769, 2016 (査読有)
285. Kobayashi H, Haketa A, Ueno T, Suzuki R, Aoi N, Ikeda Y, Tahira K, Hatanaka Y, Tanaka S, Otsuka H, Abe M, Fukuda N, Soma M. Subtype prediction in primary aldosteronism: Measurement of circadian variation of adrenocortical hormones and 24–h urinary aldosterone. *Clin Endocrinol* 84(6): 814–821, 2016 (査読有)
286. Fujimura T, Inoue S, Urano T, Takayama K, Yamada Y, Ikeda K, Obinata D, Ashikari D, Takahashi S, Homma Y. Increased expression of tripartite motif (TRIM) 47 is a negative prognostic predictor in human prostate cancer. *Clin Genitourin Cancer* 14(4): 298–303, 2016 (査読有)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

287. Obinata D, Takada S, Takayama KI, Urano T, Ito A, Ashikari D, Fujiwara K, Yamada Y, Murata T, Kumagai J, Fujimura T, Ikeda K, Horie-Inoue K, Homma Y, Takahashi S, Inoue S. Abhydrolase domain containing 2, an androgen target gene, promotes prostate cancer cell proliferation and migration. *Eur J Cancer* 57: 39–49, 2016 (査読有)
288. Saito K, Asai T, Fujiwara K, Sahara J, Koguchi H, Fukuda N, Suzuki-Karasaki M, Soma M, Suzuki-Karasaki Y. Tumor-selective mitochondrial network collapse induced by atmospheric gas plasma-activated medium. *Oncotarget* 7(15): 19910–19927, 2016 (査読有)
289. Kawata N, Yamaguchi K, Igarashi T, Takahashi S. TIMP-1 as well as microvessel invasion and high nuclear grade is a significant determinant factor for extension of tumor diameter in localized RCC. *J Oncol* 2016:5035127, 2016 (査読有)
290. Sato K, Obinata D, Funakoshi D, Saito F, Takada S, Ito A, Murata, Y, Ashikari, D, Ikado, Y, Igarashi, T, Matsui, T, Mochida, J, Yamanaka, Y, Yamaguchi, K, Takahashi S. Efficacies of transurethral prostate enucleation by bipolar system for patients with benign prostatic hyperplasia. *Minerva Urol Nefrol* 68(4): 337–341, 2016 (査読有)
291. Nishikawa E, Matsumoto T, Ishige M, Tsuji T, Mugishima H, Takahashi S. Comparison of capacities to maintain hematopoietic stem cells among different types of stem cells derived from the placenta and umbilical cord. *Regenerative Therapy* 4: 48–61, 2016 (査読有)
292. Li Y, Fuchimoto D, Sudo M, Haruta H, Lin QF, Takayama T, Morita S, Nochi T, Suzuki S, Sembon S, Nakai M, Kojima M, Iwamoto M, Hashimoto M, Yoda S, Kunimoto S, Hiro T, Matsumoto T, Mitumata M, Sugitani M, Saito S, Hirayama A, Onishi A. Development of human-like unstable coronary plaques in low-density lipoprotein receptor knockout pigs and justification for statin treatment before formation of atherosclerotic plaques. *J Am Heart Assoc*, 5(4): e002779, 2016 (査読有)
293. Inami M, Fukushima A, Ueno T, Yamada T, Tsunemi A, Matsumoto Y, Fukuda N, Soma M, Moriyama M. Reduction of dimethylnitrosamine-induced liver fibrosis by the novel gene regulator PI polyamide targeting transforming growth factor β 1 gene. *Biol Pharm Bull* 38(12): 1836–1842, 2015 (査読有)
294. Hosokawa T, Konuma N, Ikeda T, Hashimoto M, Kaneda H, Ohashi K, Matsumoto T, Koshinaga T. Establishment of new anal sphincter injury model in rats based on cardiotoxin. *J Pediatr Surg* 50(8): 1352–1358, 2015 (査読有)
295. Saito K, Fukuda N, Shinohara K, Masuhiro Y, Hanazawa S, Matsuda H, Fujiwara K, Ueno T, Soma M. Modulation of EMT/MET process by pyrrole-imidazole polyamide targeting human transforming growth factor- β 1. *Int J Biochem Cell Biol* 66: 112–120, 2015 (査読有)
296. Hasegawa R, Fujiwara K, Obinata D, Kawashima H, Shinojima Y, Igarashi J, Wang X, Ghosh S, Nagase, H, Takahashi S. Identification of frequent differentially methylated region in sporadic bladder cancers. *Urol Int* 94: 479–84, 2015 (査読有)
297. Yoshizawa S, Fujiwara K, Sugito K, Uekusa S, Kawashima H, Hoshi R, Watanabe Y, Hirano T, Furuya T, Masuko T, Ueno T, Fukuda N, Soma M, Ozaki T, Koshinaga T, Nagase H. Pyrrole-imidazole polyamide-mediated silencing of KCNQ10T1 expression induces cell death in Wilms' tumor cells. *International Journal of Oncology* 47(1): 115–121, 2015 (査読有)
298. Yagasaki H, Shichino H, Shimizu N, Ohye T, Kurahashi H, Yoshikawa T, Takahashi S. Nine-year follow-up in a child with chromosomal integration of human herpesvirus 6

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- transmitted from an unrelated donor through the Japan Marrow Donor Program. *Transpl Infect Dis* 17(1): 160–161, 2015 (査読有)
299. Igarashi J, Fukuda N, Inoue T, Nakai S, Saito K, Fujiwara K, Matsuda H, Ueno T, Matsumoto Y, Watanabe T, Nagase H, Bando T, Sugiyama H, Itoh T, Soma M. Preclinical study of novel gene silencer pyrrole-imidazole polyamide targeting human TGF- β promoter for hypertrophic scars in a common marmoset primate model. *PLoS One* 10(5):e0125295. 2015. (査読有)
300. 風間美奈子, 石毛美夏, 辻孝, 松本太郎, 麦島秀雄, 高橋昌里. 骨髄破壊的処置相当の放射線照射によるマウス骨髄ストローマ細胞における SDF-1 発現低下. *日大医学雑誌* 74 (2): 50–56, 2015(査読有)
301. Kaku M, Akiba Y, Akiyama K, Akita D, Nishimura M. Cell-based bone regeneration for alveolar ridge augmentation – Cell source, endogenous cell recruitment and immunomodulatory function. *J Prosthodont Res* 59(2): 96–112, 2015 (査読有)
302. Watarai Y, Ishizawa M, Ikura T, Zacconi FCM, Uno S, Ito N, Mouriño A, Tokiwa H, Makishima M, Yamada S. Synthesis, biological activities and X-ray crystal structural analysis of 25-hydroxy-25(or 26)-adamantyl-17-[20(22),23-diynyl]-21-norvitamin D compounds. *J Med Chem* 58(24): 9510–9521, 2015(査読有)
303. Mishra R, Watanabe T, Kimura M, Koshikawa N, Ikeda M, Uekusa S, Kawashima H, Wang X, Igarashi J, Choudhury D, Grandori C, Kemp C, Ohira M, Verma N, Kobayashi Y, Takeuchi J, Koshinaga T, Nemoto N, Fukuda N, Soma M, Kusafuka T, Fujiwara K, Nagase H. Identification of a novel E-box binding PI polyamide inhibiting MYC-driven cell-proliferation. *Cancer Sci* 106(4): 421–429, 2015 (査読有)
304. Obinata D, Ito A, Fujiwara K, Takayama K, Ashikari D, Murata Y, Yamaguchi K, Urano T, Fujimura T, Fukuda N, Soma M, Watanabe T, Nagase H, Inoue S, Takahashi S. Pyrrole-imidazole polyamide targeted to break fusion sites in TMPRSS2 and ERG gene fusion represses prostate tumor growth. *Cancer Sci* 105(10): 1272–1278, 2014 (査読有)
305. Yoshida N, Kobayashi R, Yabe H, Kosaka Y, Yagasaki H, Watanabe K, Kudo K, Morimoto A, Ohga S, Muramatsu H, Takahashi Y, Kato K, Suzuki R, Ohara A, Kojima S. First-line treatment for severe aplastic anemia in children: bone marrow transplantation from a matched family donor versus immunosuppressive therapy. *Haematologica* 99(12): 1784–1791, 2014 (査読有)
306. Fujimura T, Takahashi S, Urano T, Takayama K, Sugihara T, Obinata D, Yamada Y, Kumagai J, Kume H, Ouchi Y, Inoue S, Homma Y. Expression of androgen and estrogen signaling components and stem cell markers to predict cancer progression and cancer-specific survival in patients with metastatic prostate cancer. *Clin Cancer Res* 20(17): 4625–4635, 2014. (査読有)
307. Hirano D, Hasegawa R, Satoh K, Mochida J, Yamanaka Y, Hirakata H, Yamaguchi K, Sugimoto S, Kawata N, Takahashi S. Prospective study on the relationship between clinical efficacy of secondary hormone therapy with flutamide and neuroendocrine differentiation in patients with relapsed prostate cancer after first line hormone therapy. *Scand J Urol* 48(5): 436–444, 2014(査読有)

<図書>

【本事業に直接関連するもの】

- *秋田大輔, 伊藤智加, 月村直樹, 松本太郎. 脱分化脂肪細胞の臨床応用化に向けた取り組み. *日歯医師会誌* 71(10): 829–839, 2019
- *福田昇, 丸山高史, 松本太郎. 慢性腎不全に対する体性幹細胞療法. *最新医学(特*

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 集号 腎代替療法・機械工学と再生医療), 72(12), p93-97, 最新医学社, 大阪, 2017. 12
3. *細川崇, 池田太郎. 肛門括約筋機能障害に対する再生治療. 小児外科 49(6): 599-602, 2017
 4. *小沼憲祥, 松本太郎. 脱分化脂肪細胞(DFAT)を細胞源とする再生医療. 小児外科 (特集 小児外科領域の先端的医療の展開(I)) 49(5), 445-448, 東京医学社, 東京, 2017. 5
 5. *丸山高史, 松本太郎. 腎疾患に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療. 臨床免疫・アレルギー科, 65(6): 593-598, 科学評論社, 東京, 2016. 6
 6. *風間智彦. 間葉系幹細胞の基礎と臨床 (特集 再生医療:基礎と臨床). 日大医学雑誌, 75(2): 61-66, 日本大学医学会, 東京, 2016. 4
 7. *松本太郎. 再生医療:基礎と臨床 (特集 再生医療:基礎と臨床). 日大医学雑誌 75(2) 55, 日本大学医学会, 東京, 2016. 4
 8. *副島一孝, 櫻村勉, 地家豊治, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明. 皮膚再建の再生医療 (特集 再生医療:基礎と臨床). 日大医学雑誌 75(2):74-80, 日本大学医学会, 東京, 2016. 4
 9. *村田保貴, 井門祐一郎, 大日方大亮, 咲間隆裕, 山口健哉, 松本太郎, 高橋悟. 脱分化脂肪細胞を用いた下部尿路の再生医療について. 泌尿器外科 (特集 下部尿路機能再生医療の現況), 29(1): 9-13, 医学図書出版株式会社, 埼玉, 2016. 1

【その他】

10. 池田太郎. 第1章「救急医療」四肢外傷(止血法), 今日の小児治療指針(第17版) 医学書院 2019 In press
11. Tsugumichi Koshinaga. Standard surgical procedure for CBD. Pancreaticobiliary Maljunction and Congenital Biliary Dilatation, Springer, Singapore, 2018.
12. 山本新吾, 荒井陽一, 高橋悟, 土谷順彦. Urologic Surgery Next No.3 エンドウロロジー. 株式会社メジカルビュー社, 2018.10
13. 副島一孝. 特集 私はこうしている-鼻科手術編【各種疾患に対する手術】眼窩壁骨折外切開による整復術 JOHNS 34(9):1291-1295, 東京医学社 2018.9.
14. 副島一孝, 仲沢弘明. 特集創傷被覆材-私の選択- われわれが選択している創傷被覆材とその理由 形成外科 61(8):980-990, 克誠堂出版 2018.8.
15. 副島一孝, 櫻村 勉, 仲沢弘明. 形成外科珠玉のオペ 2 -次世代に継承したい秘伝のテクニック- 10. 経上顎洞バルーン法による眼窩底骨折手術 形成外科 61,増刊: S125-S130, 克誠堂出版, 2018
16. 副島一孝, 櫻村 勉, 仲沢弘明. 経上顎洞バルーン法による眼窩底骨折手術. 形成外科 61(増刊):125-130, 2018
17. 高橋悟. 特集 風雲! 膀胱がんの診断・治療(特集・企画). 泌尿器外科 31(9).医学図書出版株式会社. 2018.
18. 高橋悟. 第1章腎臓の働きと病気.17,尿のチェック表.18,尿は健康のバロメーター.19,尿のチェックのポイント. 腎臓病が自分で治せる 101 のワザ pp44-50,主婦の友インフォス, 2018. 7
19. 高橋悟, 斎藤忠則, 他. 精巣腫瘍取扱い規約(作成委員会).金原出版株式会社. 2018. 8
20. 吉澤剛, 高橋悟. VIII.高齢者の症候,頻尿・尿失禁.pp674-680.日本臨床 76 増刊号 5,老年医学(上),株式会社日本臨床社, 2018. 6
21. 吉澤剛, 高橋悟. 第4章腎・排尿機能検査,6,排尿機能検査,1) 排尿記録,2) 残尿測定,3) 尿流動態検査.腎と透析(84)増刊号: 158-164, 2018. 5
22. 吉澤剛, 高橋悟. オープンサージェリー 21 骨盤臓器脱の手術(TVM). 後期研修医がお

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- さえておきたい泌尿器手術 TOP30 適応判定と周術期管理. 泌尿器外科第 31 巻特別号 pp262-272, 医学図書出版株式会社.東京,2018.4 (編集委員長)
23. 持田淳一, 高橋悟. エンドウロロジー 4 TURP/TUEB. 後期研修医がおさえておきたい泌尿器手術 TOP30 適応判定と周術期管理. 泌尿器外科第 31 巻特別号 pp76-84, 医学図書出版株式会社.東京,2018.4
 24. 高橋悟, 武中篤, 外森直哉, 藤井靖久(特別号編集委員長). 後期研修医がおさえておきたい泌尿器手術 TOP30 適応判定と周術期管理. 泌尿器外科第 31 巻特別号, 医学図書出版株式会社.東京,2018.4
 25. 持田淳一, 高橋悟. 骨盤臓器脱.pp103-111, レジデント Vol.11(4),医学出版,2018.4
 26. 高橋悟, 吉澤剛. 尿失禁.pp11-22, レジデント Vol.11(4),医学出版,2018.4.1.
 27. 荒井陽一, 高橋悟, 山本新吾, 土谷順彦(編集委員). ロボット支援手術. Urologic Surgery Next 2. 株式会社メジカルビュー社, 東京, 2018.4
 28. 持田淳一, 高橋悟. 腹腔鏡下腎嚢胞切除術. II. 腎・副腎の手術. 腹腔鏡手術. Urologic Surgery Next 1, pp78-81, 株式会社メジカルビュー社, 東京, 2018.4.1
 29. 荒井陽一, 高橋悟, 山本新吾, 土谷順彦(編集委員). 腹腔鏡手術. Urologic Surgery Next 1. 株式会社メジカルビュー社, 東京, 2018.4
 30. 吉澤剛, 高橋悟. 特集 高齢者の腎泌尿器疾患治療. 治療各論:尿閉,排尿障害. 腎と透析 84(3):412-414, 2018.3
 31. 高橋悟, 飯野靖彦, 佐中孜. 特集 高齢者の腎泌尿器疾患治療. 座談会:高齢者の腎泌尿器疾患治療をどう考える. 腎と透析 84(3):357-368, 2018.3
 32. 高橋悟. 前立腺肥大症の代替療法:怪しいのか確かなのか? 特集:前立腺肥大症:あれかこれか. 泌尿器外科 31(3):259-262,2018.3
 33. 吉澤剛, 高橋悟. 脳卒中患者の下部尿路機能障害—過活動膀胱を中心に. 特集:下部尿路機能障害に対する支援—その理解から具体的介入まで. 作業療法ジャーナル 52(2):121-128, 2018.2.15.
 34. 谷ヶ崎博. 小児の治療指針(小児科臨床 2018 年増刊号) 小児の再生不良性貧血 81: 446-449、診断と治療社, 東京, 2018
 35. 谷ヶ崎博. 適切な貧血診療のポイント 小児・思春期の貧血, 日本医師会雑誌, 147: 731-733, 2018
 36. 徳橋泰明. 執刀医の心得. 新執刀医のための脊椎サージカルテクニック, pp2-5, メジカルビュー社, 東京, 2018
 37. 榎島誠. がんとビタミン D. Clinical Calcium 28(11): 1465-1472, 2018
 38. 榎島誠. ビタミン D の作用. Clinical Calcium 28(10): 1319-1326, 2018
 39. 榎島誠. ビタミン D の作用. Clinical Calcium 28(10): 1319-1326, 2018
 40. 榎島誠. ビタミン D の生理作用と作用メカニズム. 食と医療 5: 20-27, 2018
 41. 榎島誠. ビタミン D 受容体と核内受容体. Clinical Calcium 27(11): 1533-1541, 2017
 42. 持田淳一, 高橋悟. 腹腔鏡仙骨腔固定術:手術手技のポイント. 実践マニュアル. Urology Today24(4):35-38, 2017.12
 43. 高橋悟. 特集:男性下部尿路症状・前立腺肥大症の特徴と病態. 改訂 男性下部尿路症状・前立腺肥大症診療ガイドライン. 排尿障害プラクティス 25(2), pp21-28, 株式会社メディカルレビュー社, 東京, 2017.12
 44. 高橋悟. 1. 排尿自立指導料算定の経緯と意義. 排尿自立指導料. 特集:スペシャリストに学ぶ高齢者排尿ケア. 内科系総合雑誌 Modern Physician 37(12):1309-1310, 新興医学出版社, 東京, 2017. 12
 45. 大日方大亮, 高橋悟. 【骨盤臓器脱に対する治療の up-to-date】骨盤臓器脱に対する外科的治療の現状.泌尿器外科 31(6). 881-883, 2018

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

46. 高橋悟. 5. 前立腺肥大症診療ガイドライン・ナビ. 第 1 章 臨床に役立つガイドライン. 泌尿器 Care&Cure Uro-Lo 別冊 泌尿器科診療に役立つガイドライン・ナビー臨床のエッセンスが身につく! チーム医療・在宅医療にも役立つ! pp60-71, 株式会社メディカ出版, 大阪, 2017. 11
47. 高橋悟. CQ109. 過活動膀胱(OAB)に対し HRT は有効か? I. 症状・疾患. Clinical Question(CQ)編. ホルモン補充療法ガイドライン 2017 年度版:108-109, 2017. 10
48. 山口健哉, 高橋悟. 1. 検査・診断の進歩:概論. VII. 膀胱癌の検査・診断. 新腎・泌尿器癌(下)-基礎・臨床研究の進歩-. 日本臨床第 75 巻増刊号 7:109-112, 2017. 10
49. 山口健哉, 高橋悟. 腎後性 AKI. 11. 各種 AKI の特徴と治療. 特集:AKI 診療の進歩 2017.腎と透析 83(3):478-481, 2017. 9
50. 高橋悟. Q5:薬剤で前立腺癌の予防はできますか? I. 疫学・予防. Q&A でスッキリわかる前立腺癌, pp22-23, 株式会社メジカルビュー社, 東京, 2017. 8
51. 高橋悟. これで解決!「頻尿」「尿もれ」の悩み. 早めに解決! からだのトラブル. Health&Life 平成 29 年(2017)年 8 月号:6-11, 2017. 8
52. 徳橋泰明. 仙腸関節仙骨前面へのアプローチ, 第一人者のコメント(菊地臣一編) 脊椎手術解剖アトラス, pp112, 医学書院, 東京, 2017. 5
53. 高橋悟. 前立腺肥大症で尿道が圧迫される. 第 4 章:人に聞きにくい症状. NHK チョイス 病気になったとき 体の中で起きてることが見える本, pp92-93, 株式会社主婦の友社, 東京, 2017. 5
54. 諸橋環, 高橋昌里. 二次性高血圧の病態、診断、治療. 小児腎臓病学. 診断と治療社. 東京, 2017. 5
55. 岡田清己, 一瀬岳人, 蜂矢隆彦, 田中良明, 高橋悟. 第 12 章:古典的泌尿器放射線学の推移. 連載:泌尿器科学を築いたひとびと. 泌尿器外科 30(5):581-588, 2017. 5
56. 大日方大亮, 高山賢一, 高橋悟, 井上聡. 前立腺がんの治療抵抗性のメカニズムと PDX. 細胞 49, (7):333-336, 2017
57. 吉澤剛, 高橋悟. 26.骨盤臓器脱. II 疾患. 後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30. 泌尿器外科第 30 巻特別号. pp389-399, 医学図書出版株式会社, 東京, 2017. 4.
58. 高橋悟, 富田善彦, 羽瀧友則, 小川良雄. 後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30 2107. 泌尿器外科第 30 巻特別号, 医学図書出版株式会社, 東京, 2017. 4
59. 高橋悟. 女性下部尿路症状. 診療の秘訣. 内科系総合雑誌 Modern Physician 37(4):389,2017.4.
60. 吉澤剛, 高橋悟. 尿失禁. III. 高齢者泌尿器良性疾患の病態と治療. 特集:高齢者の泌尿器疾患-病態に基づく診断・治療上の問題-. 日本臨床 75(4):579-583, 2017.4
61. 越永従道. 腎悪性腫瘍. 標準小児外科学 第 7 版 335-341 医学書院, 東京, 2017
62. 池田太郎, 細川崇, 佐藤洋明, 高木健次郎. 腹部膨満. 周産期医学 47(10):1315-1318, 2017
63. 持田淳一, 高橋悟. 腹腔鏡仙骨腔固定術:手術手技のポイント. 実践マニュアル. Urology Today24(4):35-38, 2017. 12
64. 高橋悟. 特集:男性下部尿路症状・前立腺肥大症の特徴と病態. 改訂 男性下部尿路症状・前立腺肥大症診療ガイドライン. 排尿障害プラクティス 25(2), pp21-28, 株式会社メディカルレビュー社, 東京, 2017.12
65. 高橋悟. 1. 排尿自立指導料算定の経緯と意義. 排尿自立指導料. 特集:スペシャリストに学ぶ高齢者排尿ケア. 内科系総合雑誌 Modern Physician 37(12):1309-1310, 新興医学出版社, 東京, 2017. 12
66. 高橋悟. 5. 前立腺肥大症診療ガイドライン・ナビ. 第 1 章 臨床に役立つガイドライン. 泌

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 尿器 Care&Cure Uro-Lo 別冊 泌尿器科診療に役立つガイドライン・ナビ―臨床のエッセンスが身につく！ チーム医療・在宅医療にも役立つ！ pp60-71, 株式会社メディカ出版, 大阪, 2017. 11
67. 山口健哉, 高橋悟. 1. 検査・診断の進歩: 概論. VII. 膀胱癌の検査・診断. 新腎・泌尿器癌(下)―基礎・臨床研究の進歩―. 日本臨床第 75 巻増刊号 7: 109-112, 2017.10
 68. 高橋悟. CQ109. 過活動膀胱(OAB)に対し HRT は有効か? I. 症状・疾患. Clinical Question(CQ)編. ホルモン補充療法ガイドライン 2017 年度版: 108-109, 2017.10
 69. 山口健哉, 高橋悟. 腎後性 AKI. 11. 各種 AKI の特徴と治療. 特集: AKI 診療の進歩 2017. 腎と透析 83(3):478-481, 東京医学社, 東京, 2017. 9
 70. 高橋悟. Q5: 薬剤で前立腺癌の予防はできますか? I. 疫学・予防. Q&A でスッキリわかる前立腺癌, pp22-23, 株式会社メジカルビュー社, 東京, 2017. 8
 71. 高橋悟. これで解決! 「頻尿」「尿もれ」の悩み. 早めに解決! からだのトラブル. Health&Life 平成 29 年(2017)年 8 月号: 6-11, 2017. 8
 72. 高橋悟. 前立腺肥大症で尿道が圧迫される. 第 4 章: 人に聞きにくい症状. NHK チョイス 病気になったとき 体の中で起きていることが見える本, pp92-93, 株式会社主婦の友社, 東京, 2017. 5
 73. 岡田清己, 一瀬岳人, 蜂矢隆彦, 田中良明, 高橋悟. 第 12 章: 古典的泌尿器放射線学の推移. 連載: 泌尿器科学を築いたひとびと. 泌尿器外科 30(5):581-588, 2017. 5
 74. 大日方大亮, 高山賢一, 高橋悟, 井上聡. 前立腺がんの治療抵抗性のメカニズムと PDX. 細胞 49, (7):333-336, 2017
 75. 吉澤剛, 高橋悟. 26. 骨盤臓器脱. II 疾患. 後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30. 泌尿器外科第 30 巻特別号, 389-399, 医学図書出版株式会社, 東京, 2017. 4.
 76. 高橋悟, 富田善彦, 羽瀨友則, 小川良雄. 後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP30 2107. 泌尿器外科第 30 巻特別号, 医学図書出版株式会社, 東京, 2017. 4
 77. 高橋悟. 女性下部尿路症状. 診療の秘訣. 内科系総合雑誌 Modern Physician 37(4):389, 新興医学出版社, 東京, 2017. 4.
 78. 吉澤剛, 高橋悟. 尿失禁. III. 高齢者泌尿器良性疾患の病態と治療. 特集: 高齢者の泌尿器疾患―病態に基づく診断・治療上の問題―. 日本臨床 75(4):579-583, 日本臨床社, 東京, 2017. 4
 79. 副島一孝, 仲沢弘明. 【実践! よくわかる縫合の基本講座】植皮・皮弁術における縫合法 PEPARS 123:117-124, 全日本病院出版会, 東京 2017
 80. 副島一孝, 菊池雄二, 仲沢弘明. 【熱傷診療 up to date】広範囲熱傷患者における人工真皮の使用法 感染への対応 日本外科感染症学会雑誌 14(4):281-286, 2017
 81. 副島一孝. ラグビーにおける外傷・障害-予防・評価・治療・復帰- 顔面の外傷・障害 臨床スポーツ医学 34(2):152-157, 株式会社文光堂 2017.2
 82. 櫻村 勉, 仲沢弘明. 【形成外科の手術看護パーフェクトマニュアル】(第 2 章)実践編 術式別の術中看護マニュアル 腋臭症手術. オペナーシング 2017 増刊号:205-211, 2017
 83. 福田昇. 高血圧病態理解のためのモデル動物. 主治医として診る! 高血圧診療. medicina. 53(11): 1720, 医学書院, 東京, 2016. 10.
 84. 平井麻衣子, 谷ヶ崎博. 白血病学(下) X 白血病治療の副作用・合併症対策と支持療法 3 小児白血病の晩期合併症, 日本臨床(増刊号), 74(10): 414-419, 日本臨床社, 東京, 2016. 10
 85. 平井麻衣子, 谷ヶ崎博. IV. 骨髄疾患による貧血 5. 小児再生不良性貧血(3) 治療と経過・予後 1) 重症度分類による治療指針, 日本臨床(増刊号)75(1): 390-393, 日本臨床社, 東京, 2016. 10
 86. 谷川俊太郎, 谷ヶ崎博. 汎血球減少 鑑別のフローチャート(血球の増加と減少), 小児

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

内科 48(7):1041-1045, 東京医学社, 東京, 2016. 7

87. 山口健哉, 高橋悟. 1. 本邦における前立腺癌の疫学的動向. II. 前立腺癌の疫学. 新前立腺癌学—最新の基礎研究と診断・治療—. 日本臨床 増刊号 74(3):27-33, 日本臨床社, 東京, 2016. 5.

88. 山口健哉, 柴崎真澄. ③尿路ストーマの特徴的な合併症. 第 13 章:ストーマの合併症とその管理. ストーマリハビリテーション基礎と実際(第 3 版)(ストーマリハビリテーション講習会実行委員会編):221-224, 金原出版株式会社, 東京, 2016. 2.

89. 下澤克宜, 谷ヶ崎博. IV. 骨髄疾患による貧血 5. 小児再生不良性貧血(2)検査・診断・鑑別診断. 日本臨床(増刊号), 75(1): 385-389, 日本臨床社, 東京, 2016. 1.

90. 山口健哉, 高橋悟. α 遮断薬は効果や副作用に差 PDE5 阻害薬は排尿症状に推奨. 3 前立腺肥大症. 症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで. 日経 DI クイズ 17:16-19, 日経 BP 社, 東京, 2015. 9.

91. 山口健哉. その他の原因疾患. II LUTS の原因疾患を治す. LUTS 診療ロードマップ: 249-266, 株式会社メジカルビュー社, 東京, 2015.4.

92. 山中弥太郎, 大日方大亮, 五十嵐智博, 佐藤克彦, 高橋悟. 経膈メッシュ手術(TVM)と下部尿路機能障害. 臨床泌尿器科(特集 女性下部尿路機能障害のベストマネジメント.) 69(3): 284-290, 医学書院, 東京, 2015. 3.

93. 大熊啓嗣, 竹谷英之, 谷ヶ崎博. インヒビター保有血友病 B 患者の滑膜切除術・人工膝関節置換術. Frontiers in Haemophilia 2(1): 38-41, メディカルレビュー社, 東京, 2015. 1.

94. 山口健哉, 山中弥太郎, 高橋悟. 頻尿に伴う不眠(特集—精神科医が診る睡眠関連障害). 精神科治療学 29(12):1563-1566, 星和書店, 東京, 2014. 12.

95. 福田昇. ライフステージ・タイプ別の高血圧の治療・管理, 二次性高血圧, 遺伝性高血圧. 日本臨床(特集号 最新臨床高血圧学 -高血圧治療の最前線-), 1064: 550-553, 日本臨床社, 東京, 2014. 8.

<学会発表>

【本事業に直接関連するもの】

1. *丸山高史, 宇都宮慧, 常見明子, 遠藤守人, 松本太郎, 福田昇, 阿部雅紀: 免疫異常に起因する進行性腎障害に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の開発(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場・神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 23
2. *副島一孝, 櫻村勉, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明: 自家培養表皮移植時の脱分化脂肪細胞(DFAT)による基底膜構築促進効果(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場・神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 22
3. *野呂知加子, 山崎春香, 風間智彦, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞からの骨格筋誘導(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場・神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 22
4. *日高綾乃, 植草省太, 加藤礼保納, 土方浩平, 加野浩一郎, 越永従道, 松本太郎: ヒト神経芽腫細胞株におけるヒト脱分化脂肪細胞を用いた分化誘導の検討(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場・神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 22
5. *石川三友紀, 松本太郎, 李予昕, 萩倉一博, 風間智彦: マウス皮下欠損治癒過程における成熟脂肪細胞の形質転換に関する検討(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場・神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 22
6. *見松はるか, 佐藤義朗, 風間智彦, 西島浩二, 下山芳江, 呉尚治, 上田一人, 北瀬悠磨, 松本太郎, 早川昌弘: 新生児壊死性腸炎モデルにおける脱分化脂肪細胞の治療効

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 果についての検証(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場, 神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 21
7. *佐野太一, 李予昕, 風間智彦, 長岡悠紀, 萩倉一博, 山元智衣, 鈴木俊一, 淵本大一郎, 三角浩司, 大西彰, 加野浩一郎, 松本太郎: 免疫不全ブタを用いたヒト脱分化脂肪細胞移植安全性試験(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場・神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 21
 8. *土方浩平, 植草省太, 加藤礼保納, 日高綾乃, 小沼憲祥, 越永従道, 松本太郎: 乳癌進展過程における脂肪細胞の形質変換に関する検討(ポスター発表). 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸国際展示場・神戸国際会議場, 神戸市 2019. 3. 21
 9. *清水颯太, 松本太郎, 秋田大輔, 野呂知加子: 間葉系幹細胞による細胞治療のための細胞キャリアの開発(ポスター発表). 平成 30 年度 生産工学研究所リサーチ・グループ支援事業「バイオ学際研究による生産工学イノベーション」シンポジウム, 日本大学生産工学部スプリングホール, 習志野市, 2019. 2. 27
 10. *野呂 知加子: 野呂研究室における研究～再生医工学(口演発表). 平成 30 年度 生産工学研究所リサーチ・グループ支援事業「バイオ学際研究による生産工学イノベーション」, シンポジウム, 日本大学生産工学部スプリングホール 習志野市, 2019. 2. 27
 11. *Kashimura T, Soejima K, Kikuchi Y, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H: The effect of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on ischemic tissue of normal and diabetic rat. (ポスター発表), International Federation for Adipose Therapeutics and Science Annual Meeting, Cosmopolitan Hotel, Las Vegas, USA, 2018. 12. 13
 12. *松本太郎: 重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療の実用化(ポスター発表). 平成 30 年度 AMED 再生医療公開シンポジウム, TKP ガーデンシティ品川, 東京, 2019. 2. 5
 13. *Chen Lan, 福田 昇, 常見明子, 片川まゆみ, 松本太郎, 阿部雅紀: Complement 3 induces the dedifferentiation and enhances the tissue RA systems in VSMCs from SHR (ポスター発表). 第 54 回高血圧関連疾患モデル学会学術総会, KKR ホテル熊本, 熊本市, 2018.12. 6
 14. *清水颯太 松本太郎 秋田大輔 野呂知加子: 間葉系幹細胞による細胞治療のための細胞キャリアの開発(ポスター発表). 日本大学生産工学部学術講演会, 日本大学生産工学部 39 号館 習志野市, 2018. 12. 1
 15. *Kuboki Y, Song Q, Yagami K, Kuroasaki M, Matsumoto T: Anti-gravity mechano-dynamic culture revealed an on-line 3D formation of box matrix (Oral presentation). 66th Japanese division of International Association of Dental research (JADR), Sapporo, Japan 2018. 11. 17
 16. *日高綾乃, 上原秀一郎, 植草省太, 土方浩平, 小野賀功, 石塚悦昭, 小沼憲祥, 越永従道. ヒト神経芽腫細胞株における脱分化脂肪細胞を用いた分化誘導の検討(ポスター発表). 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, ロームシアター京都, 京都市, 2018.11.14
 17. *佐野太一, 李予昕, 風間智彦, 長岡悠紀, 萩倉一博, 山元智衣, 鈴木俊一, 淵本大一郎, 三角浩司, 大西彰, 松本太郎: 免疫不全ブタを用いたヒト脱分化脂肪細胞移植安全性試験(口頭発表). 第 6 回日本先進医工学ブタ研究会, 東レ総合研修センター, 三島市, 2018. 10. 20
 18. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞による細胞治療の実用化(教育講演), 第 27 回日本形成外科学会基礎学術集会, 京王プラザホテル, 東京, 2018. 10. 18
 19. *松峯元, 亀井航, 新美陽介: 脂肪由来幹細胞を用いた新しい顔面神経不全麻痺手術法の確立(口頭発表). 第 27 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 2018. 10. 19

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

20. *中山瀧志, 小山公行, 風間智彦, 松本太郎, 徳橋泰明: ラット椎間板変性モデルに対する脱分化脂肪細胞(DFAT)移植方法による治療効果の検討. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良春日野国際フォーラム, 奈良市, 2018.10. 4
21. *谷本浩二, 松本太郎, 長岡悠紀, 風間美奈子, 風間智彦, 山元智衣, 長岡正宏, 斉藤修, 徳橋泰明: 膝蓋下脂肪体に由来する脱分化脂肪細胞の形質および機能分析. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良春日野国際フォーラム, 奈良市, 2018. 10. 4
22. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた再生医療(シンポジウム). 第 17 回日本大学医療系同窓・校友会学術集会, 日本大学会館, 東京, 2018. 9. 29
23. *Chen Lan, Fukuda N, Tsunemi A, Matsumoto T, Abe M: Complement 3 induces the dedifferentiation and enhances the tissue RA systems in VSMCs from SHR (Poster presentation). 18th International SHR Symposium. Shanhai, China, 2018. 9. 18
24. *Chen Lan, 福田昇, 根岸英理子, 常見明子, 松本太郎, 阿部雅紀: Role of complement 3 in renin expression during the differentiation of mesenchymal stem cells to vascular smooth muscle cells (ポスター発表). 第 41 回日本高血圧学会, 旭川市民文化会館星野リゾート OMO7 旭川, 旭川市, 2018. 9.15
25. *Chen Lan, 福田昇, 常見明子, 松本太郎, 阿部雅紀: Complement 3 induces the dedifferentiation and enhances the tissue RA systems in VSMCs from SHR(ポスター発表). 第 41 回日本高血圧学会, 旭川市民文化会館星野リゾート OMO7 旭川, 旭川市, 2018. 9.15
26. *松本太郎: 重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療の実用化(ポスター発表). 平成 30 年度 AMED 再生医療研究交流会, TKP ガーデンシティ品川, 東京, 2018. 9. 12
27. *Yoshida-Noro C, Yamazaki H, Inoue K, Shimizu S, Kazama T, Matsumoto T. Skeletal muscle induction from dedifferentiated fat (DFAT) cells (Poster presentation). 5th TERMIS World Congress-2018 Kyoto, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 2018. 9. 6
28. *Shimizu S, Matsumoto T, Akita D, Yoshida-Noro C. Development of carriers for mesenchymal stem cell (MSC) therapy (Poster presentation). 5th TERMIS World Congress-2018 Kyoto, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan, 2018. 9. 6
29. *松本太郎, 渡邊拓史, 後藤俊平, 石川三友紀, 長岡悠紀, 山元智衣, 風間智彦, 萩倉一博: DFAT の血管新生効果と壁細胞分化についての検討(ポスター発表). 第 50 回日本動脈硬化学会・学術集会, 大阪国際会議場, 大阪市, 2018. 7. 13
30. *宇都宮慧, 丸山高史, 深澤みゆき, 常見明子, 遠藤守人, 松本太郎, 福田昇, 阿部雅紀: ANCA 関連腎炎に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)治療の開発(ポスター発表). 第 61 回日本腎臓病学会学術総会, 朱鷺メッセ・ホテル日航新潟, 新潟市, 2018. 6. 9
31. *松峯元, 松峯真理, 亀井航: 間葉系幹細胞を用いたハイブリッド型人工神経による顔面神経再生(口頭発表). 第 41 回顔面神経学会, 山形テルサ, 山形市, 2018. 6. 7
32. *小野賀功, 小沼憲祥, 土方浩平, 日高綾乃, 金田英秀, 古屋武史, 大橋研介, 上原秀一郎, 松本太郎, 越永従道. DFAT(dedifferentiated fat cell)由来 exosome の免疫制御能(ポスター発表). 第 55 回日本小児外科学会学術集会, 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター, 新潟市, 2018. 5. 30
33. *副島一孝, 櫻村勉, 吉田光徳, 堀米迪生, 竹田昌平, 菊池雄二, 松本太郎, 仲沢弘明: 人工真皮上への自家培養表皮生着率向上のための試み(シンポジウム). 第 44 回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京ステーションカンファレンス, 東京, 2018. 5. 18
34. *中山瀧志, 宮方啓行, 風間智彦, 加野浩一郎, 松本太郎, 徳橋泰明: 脱分化脂肪細胞(DFAT)移植による椎間板変性モデルに対する椎間板再生効果(ポスター発表). 第 47

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・国部国際展示場, 神戸市, 2018. 4. 12
35. *副島一孝, 櫻村勉, 風間智彦, 松本太郎, 菊池雄二, 仲沢弘明: 自家培養表皮移植 (CEA)による広範囲熱傷治療の現況と将来展望(シンポジウム). 第 61 回日本形成外科学会総会学術集会, ホテルニューオータニ博多・電気ビル, 福岡市, 2018. 4. 11
 36. *小野賀功, 小沼憲祥, 金澤剛二, 土方 浩, 日高綾乃, 金田英秀, 古屋武史, 大橋研介, 上原秀一郎, 松本太郎, 越永従道: DFAT(dedifferentiated fat cell)由来 exosome の免疫制御能(ポスター発表). 第 118 回日本外科学会定期学術集会, 東京国際フォーラム, 東京, 2018. 4. 6
 37. *福田昇, Chen L, 松本太郎: 間葉系幹細胞の血管平滑筋細胞への分化過程でのレニン発現に於ける補体 C3 の役割 (口頭発表). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2018. 3. 23
 38. *宇都宮慧, 丸山高史, 深澤みゆき, 常見明子, 谷口由樹, 遠藤守人, 松本太郎, 福田昇, 阿部雅紀: 免疫異常に起因する進行性腎障害に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の開発(ポスター発表). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2018. 3. 23
 39. *長岡悠紀, 風間智彦, 風間美奈子, 山元智衣, 萩倉一博, 李予昕, 松本太郎: 同一ドナー由来 DFAT および ASC の血管新生作用の比較検討(口頭発表). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2018. 3. 23
 40. *石川三友紀, 風間智彦, 李予昕, 松本太郎: マウス生体内における成熟脂肪細胞の脱分化現象と組織修復への関与(口頭発表). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2018. 3. 22
 41. *松本太郎: 成熟脂肪細胞の脱分化技術を利用した再生医療(シンポジウム). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市 2018. 3. 22
 42. *舘野敦, 秋田大輔, 鶴町仁奈, 田村瑛子, 鳥海拓, 風間智彦, 月村直樹, 松本太郎, 本田雅規: 脱分化脂肪細胞とリコンビナントペプチドによる顎骨再生能の検討(ポスター発表). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市 2018. 3. 22
 43. *浅居僚平, 風間智彦, 松崎洋海, 大島猛史, 松本太郎: コラーゲンゲル充填シリコンチューブ架橋によるラット反回神経再生モデルの確立(ポスター発表). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市 2018. 3. 21
 44. *中野令, 北中卓, 難波信一, 北中菜菜子, 澁川義幸, 加野浩一郎, 松本太郎, 杉谷博士: イヌ脱分化脂肪細胞のレチノイン酸および塩基性線維芽細胞成長因子による神経分化(ポスター発表). 第 17 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市 2018. 3. 21
 45. *久保木芳徳, Parvin Begum, 蔵崎正明, 戸倉清一, 松本太郎: 反重力培養装置は DFAT 細胞の増殖を促進する(口頭発表). 第 30 回代用臓器・再生医学研究会, 北海道大学大学院歯学研究院講堂, 札幌市, 2018. 2. 24
 46. *Soejima K, Kashimura T, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H: Effects of matured adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on skin reconstruction using artificial dermis in wound management (Poster presentation). Stem Cell 2018 Winter Symposium, Miami, USA, 2018. 1. 28
 47. *清水颯太 三浦大輝 風間智彦 萩倉一博 松本太郎 野呂知加子: DFAT 細胞再生移植治療のための細胞キャリアの検討 (ポスター発表). 日本大学学部連携研究推進シンポジウム「次世代女性研究者のためのキャリアウェイ整備～日本大学女性研究者交流シンポジウム」 日本大学生産工学部スプリングホール, 習志野市, 2017. 11. 10
 48. *小山公行, 中山渕志, 風間智彦, 上井浩, 徳橋泰明, 松本太郎: ラット椎間板変性モデ

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- ルに対する脱分化脂肪細胞(DFAT)静脈内投与による効果の検討(ポスター発表). 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会, 沖縄コンベンションセンター, 宜野湾市, 2017. 10. 27
49. *Kashimura T, Soejima K, Kazama T, Kikuchi Y, Matsumoto T, Nakazawa H: The effect of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on ischemic tissue (Poster presentation). 17th European Burns Association Congress, Barcelona, Spain, 2017. 9
50. *Watanabe H, Matsumoto T, Hagikura K. Dedifferentiated fat cells convert to pericyte phenotype and promote neovascularization in mice. (Poster presentation) International Society for Stem Cell Research 2017, Boston, USA, 2017. 6. 14
51. *副島一孝, 榎村勉, 風間智彦, 松本太郎, 菊池雄二, 仲沢弘明: 熱傷創治療における脱分化脂肪細胞(DFAT)の有用性(シンポジウム). 第 43 回日本熱傷学会総会学術集会, 京王プラザホテル, 東京, 2017. 5. 26
52. *榎村勉, 堀米迪生, 屋形有美, 菊池雄二, 副島一孝, 仲沢弘明: microskingraft による自家培養表皮移植の新しい補助療法の開発(シンポジウム). 第 43 回日本熱傷学会総会・学術集会, 京王プラザホテル, 東京, 2017. 5. 25
53. *小野賀功, 小沼憲祥, 後藤俊平, 橋本 真, 金田英秀, 古屋武史, 大橋研介, 松本太郎, 越永従道. ヒト脱分化脂肪細胞由来 Exosome の免疫抑制能の検討(ポスター発表). 第 54 回日本小児外科学会学術集会, 仙台国際センター, 仙台市, 2017. 5. 12
54. *後藤俊平, 小沼憲祥, 小野賀功, 石塚悦昭, 橋本 真, 星玲奈, 川島弘之, 浅井 陽, 金田英秀, 古屋武史, 加野浩一郎, 松本太郎, 越永従道: 脱分化脂肪細胞のペリサイト分化と TGF- β の関与(ポスター発表). 第 54 回日本小児外科学会学術集会, 仙台国際センター, 仙台市, 2017. 5. 11
55. *石塚悦昭, 日高綾乃, 長崎瑛里, 平野隆幸, 渡辺揚介, 星玲奈, 吉澤信輔, 川島弘之, 金田英秀, 小沼憲祥, 古屋武史, 越永従道, 藤原恭子, 松本太郎: ヒト神経芽腫における脱分化脂肪細胞(Dedifferentiated Fat Cell: DFAT)を用いた神経分化誘導の検討(ポスター発表). 第 117 回日本外科学会定期学術集会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2017. 4. 28
56. *小野賀功, 金澤剛二, 後藤俊平, 橋本 真, 小沼憲祥, 加野浩一郎, 松本太郎, 越永従道: DFAT exosome を用いた炎症性腸疾患に対する新規治療法の開発(ポスター発表). 第 117 回日本外科学会定期学術集会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2017. 4. 27
57. *中山渕志, 風間智彦, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: ラット椎間板障害モデルにおける椎間板の組織学的・免疫組織化学的観察(ポスター発表). 第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, ロイトン札幌, 札幌市 2017. 4. 13
58. *Soejima K, Kashimura T, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H: The effect of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on skin reconstruction in burn wound management (Poster presentation). 11th Asia Pacific Burn Congress, Taipei, Taiwan, 2017. 4. 3
59. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた血管再生細胞治療 (シンポジウム). 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台国際センター, 仙台市 2017. 3. 7
60. *副島一孝, 榎村勉, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明: 皮膚の再生医療における脱分化脂肪細胞(DFAT)の有用性 (シンポジウム). 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台国際センター, 仙台市 2017. 3. 7
61. *松峯元, 佐々木亮, 清水真理, 亀井航, 風間智彦, 松本太郎, 櫻井裕之: 脱分化脂肪細胞(DFAT)含有ハイブリッド型人工神経による顔面神経再建 (シンポジウム). 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台国際センター, 仙台市 2017. 3. 7
62. *丸山高史, 福田昇, 松本太郎, 東龍英, 深澤みゆき, 遠藤守人, 岡田一義, 河内裕,

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 阿部雅紀:免疫性腎炎に対する脱分化成熟脂肪細胞(DFAT)移植による改善効果 (口頭発表). 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台国際センター, 仙台市 2017. 3. 8
63. *風間智彦, 山元智衣, 風間美奈子, 長岡悠紀, 谷口浩章, 萩倉一博, 加野浩一郎, 相川佳之, 松本太郎: ヒト吸引脂肪組織からの脱分化脂肪細胞の調製 (口頭発表). 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台国際センター, 仙台市 2017. 3. 8
64. *野呂知加子, 三浦大輝, 風間智彦, 萩倉一博, 松本太郎: 幹細胞再生移植治療のための細胞キャリアの検討 (ポスター発表). 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台国際センター, 仙台市 2017. 3. 8
65. *小野賀功, 小沼憲祥, 金澤剛二, 後藤俊平, 橋本真, 越永従道, 松本太郎: ヒト脱分化脂肪細胞 (hDFAT) 由来 exosome の免疫抑制能の検討 (口頭発表), 第 16 回日本再生医療学会総会, 仙台国際センター, 仙台市 2017. 3. 7
66. *副島一孝, 櫻村勉, 屋形有美, 堀米迪生, 菊池雄二, 仲沢弘明: 培養表皮による熱傷創治療のこだわり(ワークショップ). 第 25 回日本熱傷学会関東地方会, 慶応大学信濃町キャンパス, 東京, 2017. 2. 11
67. *三浦大輝, 風間智彦, 萩倉一博, 松本太郎, 野呂知加子: 間葉系幹細胞による移植治療のための細胞キャリアの開発 (ポスター発表). 第 39 回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2016.12. 2
68. *加野浩一郎: 成熟脂肪細胞に由来する多能性細胞 DFAT の開発とその特性 ~ 獣医領域における再生医療への応用~ (シンポジウム). 第 159 回日本獣医学会学術集会, 藤沢市, 2016. 9. 8
69. *渡辺真平, 沖 嘉尚, 松本太郎, 加野浩一郎: 成熟脂肪細胞に由来する脱分化脂肪細胞のセロトニン作動性神経細胞様細胞への分化 (ポスター発表). 第 39 回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2016. 12. 1
70. *石澤通康: 脂肪細胞の分化、脱分化におけるビタミン D 受容体の役割 (シンポジウム). 日本レチノイド研究会第 27 回学術集会, 昭和薬科大学, 東京, 2016. 10. 23
71. *金澤剛二, 小野賀功, 谷川俊太郎, 下澤克宜, 小沼憲祥, 谷ヶ崎博, 松本太郎: 胎児付随物由来幹細胞の免疫抑制能の検討 (ポスター発表). 第 78 回日本血液学会学術集会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2016. 10. 13
72. *副島一孝, 櫻村勉, 風間智彦, 松本太郎, 菊池雄二, 仲沢弘明: 自家培養表皮移植時の脱分化脂肪細胞(DFAT)併用療法による基底膜構築促進効果 (シンポジウム). 第 25 回日本形成外科学会基礎学術集会, ナレッジキャピタルコングレ・コンベンションセンター, 大阪市, 2016. 9. 15
73. *石澤 通康, 水島 優介, 風間 智彦, 松本 太郎, 榎島 誠: 脂肪脱分化過程におけるビタミン D の役割 (ポスター発表). 第 2 回 Neo Vitamin D Workshop 学術集会, 東京, 2016. 8. 26
74. *Matsumoto T. Dedifferentiated fat cells as a new cell source for therapeutic angiogenesis and regenerative medicine (Symposium). The 22nd Annual Meeting of Japan Society of gene and Cell Therapy, Toranomon Hills Forum, Tokyo, Japan 2016. 7. 30
75. *加野浩一郎: 終末分化した体細胞から多能性細胞をつくる ~ 自発的な脱分化と多能性獲得~ (招待講演). 第 8 回日本創傷外科学会総会・学術集会, ホテルメトロポリタン東京池袋, 東京, 2016. 7. 21
76. *秋田大輔, 月村直樹, 館野 敦, 大谷賢二, 永井栄一, 石上友彦: DFAT 細胞と乳酸-グリコール酸共重合体 (PLGA) による歯周組織再生能の検討 (口頭発表). 第 125 回日本補綴歯科学会, 石川県立音楽堂, 金沢市, 2016. 7. 10
77. *丸山高史, 福田昇, 阿部雅紀, 上野高浩, 松本太郎, 遠藤守人, 岡田一義, 松本紘一, 相馬正義, 河内裕: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の TSG-6 を介した腎症改善効果. (口頭発

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 表). 第 59 回日本腎臓学会学術総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2016. 6. 18
78. *副島一孝, 榎村勉, 藤原英樹, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明: アログラフトにより再構築した真皮への培養表皮生着促進のための試み(シンポジウム). 第 42 回日本熱傷学会総会・学術集会, シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル, 浦安市, 2016. 6. 2
79. *後藤俊平, 小沼憲祥, 加藤礼保納, 土方浩平, 日高綾乃, 小野賀功, 橋本真, 星玲奈, 植草省太, 浅井陽, 金田英秀, 古屋武史, 越永従道, 加野浩一郎, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の血管壁細胞への分化(ポスター発表). 第 53 回日本小児外科学会学術集会, ヒルトン福岡シーホーク, 福岡市, 2016. 5. 24
80. *後藤俊平, 小沼憲祥, 小野賀功, 橋本真, 渡邊拓史, 萩倉一博, 越永従道, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の血管壁細胞分化. 第 37 回日本炎症・再生医学会(ポスター発表), 京都市勧業館みやこめっせ, 京都市, 2016. 6. 16
81. *中山渕志, 風間智彦, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: ラット椎間板変性モデルに対する脱分化脂肪細胞(DFAT)移植の効果(口頭発表). 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 幕張メッセ国際会議場・国際展示場, 千葉市, 2016. 4. 15
82. *宮方啓行, 松本太郎, 風間智彦, 小山公行, 上井浩, 徳橋泰明: 受動喫煙ラット椎間板変性モデルにおける脱分化脂肪細胞(DFAT)静脈内投与の治療効果. (口頭発表). 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 幕張メッセ国際会議場・国際展示場, 千葉市, 2016. 4. 15
83. *沖嘉尚, 渡辺真平, 松本太郎, 加野浩一郎: 成熟脂肪細胞由来の DFAT 細胞はセロトニンおよびグルタミン酸作動性神経細胞へと分化する(口頭発表). 日本畜産学会第 122 回大会, 神戸大学鶴甲第一キャンパス, 神戸市, 2016. 3. 28
84. *Mikrogeorgiou A, 佐藤義朗, 杉山祐一朗, 鈴木俊彦, 北瀬悠磨, 近藤大貴, 中西圭子, 辻雅弘, 風間智彦, 松本太郎, 加野浩一郎, 早川昌弘: Dedifferentiated fat cell, a novel source for cell therapy to target neonatal hypoxia-ischemia. (ポスター発表). 第 15 回日本再生医療学会総会, 大阪国際会議場, 大阪市, 2016. 3. 18
85. *Kinoshita G, Kikuta S, Kazama T, Matsumoto T: Effect of parathyroid hormone on osteogenic differentiation ability in dedifferentiated fat cells. (Poster presentation). 62th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Florida, USA, 2016. 3. 14
86. *丸山高史, 福田昇, 松本太郎, 渡辺めぐみ, 阿部雅紀, 上野高浩, 遠藤守人, 岡田一義, 松本紘一, 相馬正義, 河内裕: 腎障害モデルに対する DFAT 細胞移植の効果と TSG-6 を介したその機序の考察. (口頭発表). 第 15 回日本再生医療学会総会, 大阪国際会議場, 大阪市, 2016. 3. 17
87. *福田昇, 根岸英里子, 片川まゆみ, 上野高浩, 松本太郎: 補体 C3 は間葉系細胞脱分化および上皮間葉化現象(EMT)により心血管腎リモデリングを起こす(口頭発表). 第 15 回日本再生医療学会総会, 大阪国際会議場, 大阪市, 2016. 3. 17
88. *橋本真, 小沼憲祥, 小野賀功, 後藤俊平, 古屋武史, 越永従道, 加野浩一郎, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞を用いた iPS 細胞への誘導検討(口頭発表). 第 15 回日本再生医療学会総会, 大阪国際会議場, 大阪市, 2016. 3. 17
89. *小山公行, 宮方啓行, 上井浩, 風間智彦, 松本太郎, 徳橋泰明: 受動喫煙ラット椎間板変性への脱分化脂肪細胞(DFAT)静脈内投与の治療効果(ポスター発表). 第 15 回日本再生医療学会総会, 大阪国際会議場, 大阪市, 2016. 3. 17
90. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の血管新生能と臨床応用に向けた開発. (ワークショップ). 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
91. *榎村勉, 副島一孝, 菊池雄二, 仲沢弘明, 風間智彦, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)による血流不全に陥った皮膚南部組織の救済法(口頭発表). 平成 27 年度日本

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
92. *萩倉一博, 渡邊拓史, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の血管新生能の検討 (ポスター発表). 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
93. *小沼憲祥, 石岡茂樹, 橋本真, 後藤俊平, 小野賀功, 加野浩一郎, 松本太郎: マウス炎症性腸疾患モデルに対する脱分化脂肪細胞(DFAT)の治療効果 (ポスター発表). 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
94. *中山渕志, 風間智彦, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: ラット椎間板変性モデルに対する脱分化脂肪細胞(DFAT)移植の効果 (ポスター発表). 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
95. *風間智彦, 副島一孝, 加野浩一郎, 松本太郎: 吸引脂肪組織を用いた脱分化脂肪細胞(DFAT)の調製法の確立. (ポスター発表), 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
96. *橋本真, 小沼憲祥, 小野賀功, 後藤俊平, 古屋武史, 越永従道, 加野浩一郎, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた iPS 細胞の樹立. (ポスター発表), 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
97. *谷口浩章, 山元智衣, 風間美奈子, 長岡悠紀, 風間智彦, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の臨床用細胞製造と細胞治療への応用. (口頭発表), 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
98. *木下豪紀, 風間智彦, 新井嘉則, 長岡正宏, 徳橋泰明, 加野浩一郎, 松本太郎: ラット難治性骨折モデルにおける脱分化脂肪細胞(DFAT)と副甲状腺ホルモン間歇投与による効果. (ポスター発表), 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
99. *三浦大輝, 松本太郎, 野呂知加子: 幹細胞移植治療のための細胞キャリアの開発. (口頭発表), 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
100. *丸山高史, 福田昇, 松本太郎, 渡辺めぐみ, 阿部雅紀, 上野高浩, 遠藤守人, 岡田一義, 松本紘一, 相馬正義, 河内裕: 免疫性腎炎に対する DFAT 細胞移植による TSG-6 を介した免疫抑制作用. (ポスター発表), 平成 27 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 9 回日本大学先端バイオフィォーラム, 日本大学会館, 東京, 2016. 1. 27
101. *松本太郎: 脂肪細胞の脱分化機構と再生医療への応用. (特別講演), 第 21 回美容・アンチエイジング食品研究会, 大阪国際会議場, 大阪市, 2016. 2. 23
102. *鶴町仁奈, 田村瑛子, 磯川桂太郎, 清水典佳, 本田雅規: ヒト頬脂肪体から単離した成熟脂肪細胞の大きさの違いにより獲得した脱分化脂肪細胞の特性の比較解析. (口頭発表), 第 74 回日本矯正歯科学会, 福岡国際会議場, 福岡市, 2015. 11. 20
103. *松本太郎: 脂肪細胞を用いた再生医療 (特別講演), 第 19 回日本内分泌病理学会学術総会, アバンセ佐賀, 佐賀市, 2015. 10. 25
104. *小山公行, 宮方啓行, 風間智彦, 徳橋泰明, 松本太郎: 受動喫煙ラット椎間板モデルにおける脱分化脂肪細胞(DFAT)静脈内投与の治療効果 (口頭発表), 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山国際会議場, 富山市, 2015. 10. 22
105. *副島一孝, 櫻村勉, 藤原英紀, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明: 皮膚再生医療におけ

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- る脱分化脂肪脂肪(DFAT)細胞の有用性に関する検討 (シンポジウム), 第 24 回日本形成外科学会基礎学術集会, 岩手県民会館, 岩手市, 2015. 10. 9
- 106.*丸山高史, 福田昇, 渡辺めぐみ, 上野高浩, 阿部雅紀, 松本太郎, 遠藤守人, 岡田一義, 松本紘一, 相馬正義, 河内裕: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の全身投与は TSG-6 を介して免疫性糸球体腎炎を改善した. (口頭発表), 第 38 回日本高血圧学会総会, ひめぎんホール, 松山市, 2015. 10. 9
- 107.*石澤通康, 水島優介, 風間智彦, 松本太郎, 池田和正, 榎島誠: マウス脱分化脂肪細胞の誘導におけるビタミン D シグナルの影響(口演). 第 348 回脂溶性ビタミン総合委員会, 東京, 2015. 9. 18
- 108.*谷川俊太郎, 大熊啓嗣, 金沢剛二, 西川英里, 下澤克宜, 平井麻衣子, 谷ヶ崎博, 高橋昌里, 風間智彦, 松本太郎: 臍帯血生着不全モデルマウスに対する胎児付属物由来幹細胞移植の生着促進効果の検討. (ポスター発表), 第 36 回日本炎症・再生医学会, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 東京, 2015. 7. 21
- 109.*鶴町仁奈, 秋田大輔, 松本太郎, 加野浩一郎, 外木守雄, 磯川桂太郎, 本田雅規: ヒト類脂肪体から単離した各種成熟脂肪細胞分画から得られた脱分化脂肪細胞の特性の解析. (ポスター発表), 第 36 回日本炎症・再生医学会, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 東京, 2015. 7. 21
- 110.*風間智彦, 副島一孝, 加野浩一郎, 松本太郎: 吸引脂肪組織を利用した脱分化脂肪細胞 DFAT の調製と機能評価. (ポスター発表), 第 36 回日本炎症・再生医学会, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 東京, 2015. 7. 21
- 111.*遠山一人, 風間智彦, 松本太郎, 加野浩一郎, 平山篤志: ブタ脱分化脂肪細胞の心筋分化指向性の検討. (ポスター発表), 第 36 回日本炎症・再生医学会, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 東京, 2015. 7. 21
- 112.*宮方啓行, 松本太郎, 風間智彦, 小山公行, 上井浩, 徳橋泰明: 受動喫煙によるラット椎間板変性モデルに対する脱分化脂肪細胞(DFAT)移植の効果. (ポスター発表), 第 36 回日本炎症・再生医学会, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 東京, 2015. 7. 21
- 113.*秋田大輔, 加野浩一郎, 田村瑛子, 真下貴之, 鶴町仁奈, 新井嘉則, 山中克之, 金子正, 塩野目桃子, 月村直樹, 松本太郎, 磯川桂太郎, 石上友彦, 本田雅規: DFAT 細胞による歯周組織再生. (ポスター発表), 第 36 回日本炎症・再生医学会, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 東京, 2015. 7. 21
- 114.*副島一孝, 櫻村勉, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明: 脱分化脂肪(DFAT)細胞の再建真皮上への自家培養表皮生着促進効果に関する検討 (シンポジウム) 第 41 回日本熱傷学会総会・学術, 名古屋観光ホテル, 名古屋市, 2015. 6. 18
- 115.*石澤通康, 水島優介, 風間智彦, 松本太郎, 池田和正, 榎島誠: 成熟脂肪細胞の脱分化過程及び脱分化後におけるビタミンD受容体の関与(口頭発表). 日本ビタミン学会第 67 回大会, 近畿大学農学部, 奈良市, 2015. 6. 6
- 116.*松本太郎: 脱分化脂肪細胞による再生医療(シンポジウム), 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 海峡メッセ下関, 下関市, 2015. 5. 22
- 117.*副島一孝, 松本太郎, 櫻村勉, 風間智彦, 加野浩一郎, 仲沢弘明: 文科省大学発新産業創出拠点(START)プロジェクト 脱分化脂肪細胞(DFAT)の臨床用細胞製造と細胞治療への応用.(シンポジウム), 第 58 回日本形成外科学会総会・学術集会, ウェスティン都ホテル京都, 京都市, 2015. 4. 10
- 118.*Kinoshita G, Kikuta S, Kazama T, Matsumoto T: Effect of dedifferentiated fat cell transplantation combined with parathyroid hormone administration on bone formation in a rat nonunion model. (Poster presentation), 61th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Las Vegas, USA, 2015. 3. 28

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 119.*風間智彦, 副島一孝, 加野浩一郎, 松本太郎: 吸引脂肪組織を利用した脱分化脂肪細胞の調製法と機能解析. (ポスター発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 21
- 120.*遠山一人, 松本太郎, 風間智彦, 加野浩一郎, 平山篤志: 心膜脂肪由来脱分化脂肪細胞の心筋分化能の検討. (ポスター発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 21
- 121.*丸山高史, 福田昇, 松本太郎, 渡辺めぐみ, 阿部雅紀, 上野高浩, 遠藤守人, 岡田一義, 松本紘一, 相馬正義, 河内裕: TSG-6を介したDFAT細胞移植の免疫性腎炎に対する改善効果. (口頭発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 21
- 122.*鶴町仁奈, 秋田大輔, 松本太郎, 加野浩一郎, 外木守雄, 河野英輔, 鳥海拓, 磯川桂太郎, 清水典佳, 本田雅規: ヒト頬脂肪体から脱分化脂肪細胞を獲得する酵素処理条件の検討. (口頭発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 19
- 123.*下澤克宜, 松本太郎, 大熊啓嗣, 谷川俊太郎, 金沢剛二, 西川英里, 風間智彦, 谷ヶ崎博, 麦島秀雄: ヒト胎児付属物由来幹細胞の免疫制御能の差異とそのメカニズムに関する検討. (口頭発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 19
- 124.*橋本真, 小沼憲祥, 後藤俊平, 風間智彦, 加野浩一郎, 益子貴行, 大橋研介, 越永従道, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞を細胞源とした iPS 細胞誘導の検討. (ポスター発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 19
- 125.*大熊啓嗣, 谷川俊太郎, 金沢剛二, 西川英里, 下澤克宜, 平井麻衣子, 谷ヶ崎博, 高橋昌里, 風間智彦, 松本太郎: 臍帯血生着不全モデルマウスを用いたヒト胎児付属物由来幹細胞の造血幹細胞生着促進効果の検討. (ポスター発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 19
- 126.*副島一孝, 榎村勉, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明: 脱分化脂肪(DFAT)細胞の自家培養表皮生着促進効果に関する検討. (ポスター発表), 第 14 回日本再生医療学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2015. 3. 19
- 127.*篠原千裕, 沖嘉尚, 加野浩一郎: ブタ卵胞顆粒層細胞の体外培養過程における細胞形態および遺伝子発現プロファイルの変化. (口頭発表), 2015 年度農芸化学学会大会, ホテルグランヴィア岡山, 岡山市, 2015. 3. 28
- 128.*酒井智康, 沖嘉尚, 加野浩一郎: 脱分化卵胞顆粒層細胞の脂肪細胞への分化転換. (口頭発表), 日本畜産学会大会第 119 回, 宇都宮大学農学部, 宇都宮市, 2015. 3. 27
- 129.*Tsurumachi N, Akita D, Matsumoto T, Kano K, Tonoki M, Toriumi T, Kawano E, isokawa K, Shimizu N, Honda M. Dedifferentiated fat cells isolated from the human buccal fat pad. (Poster presentation), General Session and Exhibition of the International Association for Dental Research, Boston, USA, 2015. 3. 12
- 130.*松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の臨床用細胞製造と細胞治療への応用. (シンポジウム), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 東京, 2015. 1. 13
- 131.*野呂知加子, 松本太郎: 間葉系幹細胞による細胞治療のための細胞移植カプセル開発. (シンポジウム), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 東京, 2015. 1. 13
- 132.*榎村勉, 副島一孝, 浅見崇, 下田勝巳, 仲沢弘明, 風間智彦, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)皮下注入によるラット背部皮弁の生着域拡大についての検討. (口頭発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォー

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

ーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13

- 133.*山田宏美, 伊藤大介, 沖嘉尚, 北川勝人, 松本太郎, 亘敏広, 加野浩一郎: 外傷性脊髄損傷モデルマウスの運動機能回復に及ぼす脱分化脂肪細胞移植の影響. (口頭発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 134.*木下豪紀, 風間智彦, 新井嘉則, 長岡正宏, 徳橋泰明, 加野浩一郎, 松本太郎: ラット難治性骨折モデルにおける脱分化脂肪細胞と副甲状腺ホルモン投与による治療効果. (口頭発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 135.*鶴町仁奈, 秋田大輔, 松本太郎, 加野浩一郎, 外木守雄, 鳥海拓, 磯川桂太郎, 清水典佳, 本田雅規: ヒト類脂肪体からの脱分化脂肪細胞調製時の酵素濃度至適化について. (口頭発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 136.*下澤克宜, 谷川俊太郎, 金沢剛二, 大熊啓嗣, 石毛美夏, 風間智彦, 麦島秀雄, 松本太郎: ヒト胎児付属物由来幹細胞の免疫制御能の差異とそのメカニズムに関する検討. (口頭発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 137.*副島一孝, 櫻村勉, 風間智彦, 松本太郎, 仲沢弘明: 脱分化脂肪(DFAT)細胞の再建真皮上への自家培養表皮生着促進効果. (口頭発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 138.*中山渕志, 風間智彦, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: ラット椎間板変性モデルにおける脱分化脂肪細胞移植による椎間板再生. (口頭発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 139.*萩倉一博, 渡邊拓史, 松本太郎: Mature adipocyte derived multipotent cells differentiate into mural cells. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 140.*石澤通康, 水島優介, 風間智彦, 松本太郎, 池田和正, 槇島誠: 成熟脂肪細胞の脱分化過程におけるビタミン D 受容体の関与. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 141.*秋田大輔, 加野浩一郎, 田村瑛子, 真下貴之, 鶴町仁奈, 新井嘉則, 山中克之, 金子正, 塩野目桃子, 月村直樹, 松本太郎, 磯川桂太郎, 石上友彦, 本田雅規: 脱分化脂肪細胞(DFAT 細胞)応用した歯周組織再生能の検討. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 142.*大熊啓嗣, 谷川俊太郎, 金沢剛二, 西川英里, 下澤克宜, 平井麻衣子, 谷ヶ崎博, 高橋昌里, 風間智彦, 松本太郎: 臍帯血生着不全モデルマウスを用いたヒト胎児付属物由来幹細胞の造血幹細胞生着促進効果の比較検討. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 143.*風間智彦, 副島一孝, 加野浩一郎, 松本太郎: 吸引脂肪組織を利用した脱分化脂肪細胞の調製法と機能解析. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 144.*風間智彦, 菊田晋祐, 田中伸明, 風間美奈子, 徳橋泰明, 加野浩一郎, 松本太郎: 骨

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

- 欠損および骨粗鬆症に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)自家移植の効果. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 145.*澤田浩克, 風間智彦, 新井嘉則, 本田雅規, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: 免疫不全マウス大腿骨骨折モデルにおけるヒト脱分化脂肪細胞の骨再生効果の検討. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 146.*遠山一人, 風間智彦, 加野浩一郎, 平山篤志, 松本太郎: 心膜脂肪由来脱分化脂肪細胞の心筋分化能の検討. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 147.*丸山高史, 福田昇, 渡辺めぐみ, 阿部雅紀, 上野高浩, 松本太郎, 遠藤守人, 岡田一義, 松本紘一, 相馬正義, 河内裕: DFAT 細胞移植の TSG-6 を介した単クローン抗体 1-22-3 誘発腎炎の改善効果. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 148.*橋本真, 小沼憲祥, 後藤俊平, 益子貴行, 大橋研介, 越永従道, 加野浩一郎, 松本太郎: 脱分化脂肪細胞を用いた iPS 細胞への誘導検討. (ポスター発表), 平成 26 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム 第 3 回日本大学幹細胞研究フォーラム, 日本大学会館, 東京, 2015. 1. 13
- 149.*加野浩一郎: 成熟脂肪細胞から多能性細胞をつくる～自発的な脱分化と多能性獲得～.(招待講演), 第 59 回日本唾液腺学会総会・学術集会, 文京学院大学本郷キャンパス, 東京, 2014. 12. 6
- 150.*加野浩一郎, 松本太郎: 終末分化した体細胞の自発的な脱分化および多能性獲得.(口頭発表), 関東畜産学会第 69 回大会, 東京大学農学部, 東京, 2014.11. 14
- 151.*加野浩一郎: 成熟脂肪細胞から多能性細胞をつくる ～自発的な脱分化と多能性獲得～.(招待講演), 再生医療研究セミナー, 那覇市, 2014. 11. 13
- 152.*加野浩一郎: 終末分化した体細胞から多能性細胞をつくる -自発的な脱分化と多能性獲得-. (招待講演), 第 5 回 SKIP セミナー, 東京, 2014. 10. 29
- 153.*松本太郎: 脱分化脂肪細胞による再生医療. (シンポジウム), 第 35 回日本肥満学会, フェニックスシーガイアリゾートコンベンションセンター, 宮崎市, 2014. 10. 25
- 154.*松本太郎, 風間智彦, 萩倉一博, 渡邊拓史, 小宮山翔吾, 加野浩一郎, 福田昇: 脱分化脂肪細胞の血管新生作用と治療用細胞としての効果評価.(口頭発表), 第 37 回日本高血圧学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2014. 10. 17
- 155.*丸山高史, 福田昇, 渡辺めぐみ, 阿部雅紀, 上野高浩, 松本太郎, 遠藤守人, 岡田一義, 松本紘一, 相馬正義, 河内裕: 脱分化脂肪細胞(DFAT)の全身投与は TSG-6 を介して免疫性糸球体腎炎を改善した. (ポスター発表), 第 37 回日本高血圧学会総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2014. 10. 17
- 156.*石澤通康, 水島優介, 風間智彦, 松本太郎, 池田和正, 榎島誠: 脱分化脂肪細胞の形成におけるビタミン D シグナルの影響.(口頭発表), 日本レチノイド研究会第 25 回学術集会, 秋田市, 2014. 10. 11
- 157.*副島一孝, 櫻村勉, 山本 改, 風間智彦, 松本太郎, 今田正人, 仲沢弘明: 脱分化脂肪(DFAT)細胞の自家培養表皮移植時の生着促進効果に関する実験的検討. (シンポジウム), 第 23 回日本形成外科学会基礎学術集会, キッセイ文化ホール, 松本市, 2014. 10. 10
- 158.*木下豪紀, 風間智彦, 新井嘉則, 長岡正宏, 徳橋泰明, 加野浩一郎, 松本太郎: ラット難治性骨折モデルにおける脱分化脂肪細胞と副甲状腺ホルモン投与による治療効果.(口頭発表), 第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会, 城山観光ホテル, 鹿児島市,

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

2014.10.9

- 159.*澤田浩克, 風間智彦, 新井嘉則, 本田雅規, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: ヒト脱分化脂肪細胞移植による骨折治癒促進効果の検討.(口頭発表), 第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 城山観光ホテル, 鹿児島市, 2014.10.9
- 160.*中山渕志, 風間智彦, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: ラット変性椎間板モデルに対する脱分化脂肪細胞移植および再生医療への展望.(口頭発表), 第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 城山観光ホテル, 鹿児島市, 2014.10.9
- 161.*石澤通康, 高野真史, 橋高敦史, 坂根里枝, 須原義智, 山田幸子, 榎島誠: 細胞選択的及び遺伝子選択的活性を有するビタミン D 誘導体の生物活性評価.(口演発表), 第344回脂溶性ビタミン総合研究委員会, 東京, 2014.9.26
- 162.*信末博行, 沖嘉尚, 佐谷秀行, 加野浩一郎: アクチン細胞骨格動態による脂肪分化を誘導するメカニズムの解明とがん治療への応用.(口頭発表), 第73回日本癌学会学術総会, パシフィコ横浜, 横浜市, 2014.9.25
- 163.*Kashimura T, Soejima K, Asami T, Shimoda K, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H: The effect of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells on a dorsal skin flap model. (Poster presentation) 17th ASEAN Congress of Plastic Surgery, Singapore, 2014.8.1
- 164.*鶴町仁奈, 秋田大輔, 松本太郎, 加野浩一郎, 外木守雄, 齋藤瑛子, 秋山祐子, 鳥海扨, 磯川桂太郎, 清水典佳, 本田雅規: ヒト頬脂肪体の成熟脂肪細胞に由来する脱分化脂肪細胞.(ポスター発表), 第35回日本炎症・再生医学会, 万国津梁館, 名護市, 2014.7.2
- 165.*大熊啓嗣, 西川英里, 谷川俊太郎, 金澤剛二, 下澤克宜, 風間智彦, 松本太郎, 高橋昌里: 臍帯・胎盤羊膜由来 MSC の造血細胞支持能の比較検討.(ポスター発表), 第35回日本炎症・再生医学会, 万国津梁館, 名護市, 2014.7.1
- 166.*下澤克宜, 大熊啓嗣, 谷川俊太郎, 金澤剛二, 西川英里, 風間智彦, 麦島秀雄, 松本太郎: ヒト臍帯・胎盤組織由来幹細胞の免疫原性および免疫制御能の解析.(ポスター発表), 第35回日本炎症・再生医学会, 万国津梁館, 名護市, 2014.7.1
- 167.*澤田浩克, 風間智彦, 新井嘉則, 本田雅規, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎: 免疫不全マウス大腿骨骨折モデルにおけるヒト脱分化脂肪細胞の骨再生効果検討.(ポスター発表), 第35回日本炎症・再生医学会, 万国津梁館, 名護市, 2014.7.1
- 168.*風間智彦, 木下豪紀, 新井嘉則, 長岡正宏, 徳橋泰明, 加野浩一郎, 松本太郎: ラット難治性骨折モデルに対する脱分化脂肪細胞と副甲状腺ホルモン投与による骨折治癒効果の検討.(ポスター発表), 第35回日本炎症・再生医学会, 万国津梁館, 名護市, 2014.7.1.

<研究成果の公開状況>(上記以外)

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

【公開シンポジウム】

1. *文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の臨床応用に向けた橋渡し研究」平成 30 年度研究成果公開シンポジウム, 東京, 2019. 3. 16
2. AMED 平成 30 年度再生医療実用化研究事業「重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた再生医療の実用化」キックオフ公開シンポジウム, 東京, 2018. 7. 19
3. *文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の臨床応用に向けた橋渡し研究」平成 29 年度研究成果公開シンポジウム, 東京, 2018. 3. 3
4. *文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の臨床応用に向けた橋渡し研究」平成 28 年度研究成果公開シンポジウム, 東京, 2017. 3. 11
5. *文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の臨床応用に向けた橋渡し研究」平成 27 年度研究成果公開シンポジウム, 東京, 2016. 3. 5
6. 日本大学医学部細胞再生・移植医学分野公開シンポジウム「幹細胞移植による免疫制御の臨床応用」東京, 2015. 8. 29
7. *文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の臨床応用に向けた橋渡し研究」平成 26 年度研究成果公開シンポジウム, 東京, 2015. 1. 31

【インターネット】

1. *日本大学医学部総合医学研究所紀要「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業報告」. 中山渕志, 風間智彦, 加野浩一郎, 徳橋泰明, 松本太郎. ラット椎間板変性モデルに対する脱分化脂肪細胞移植の効果. 6: 32-34, 2017, URL: www.med.nihon-u.ac.jp/research_institute/bulletin/2018/2018_009
2. *日本再生医療学会ホームページ 第 1 回再生医療産学連携テクノオクシオン. 松本太郎. 「成熟脂肪細胞の脱分化技術を利用した再生医療」 2018. 3. 22, URL: <https://www.jsrm.jp/cms/uploads/2/2018/04/61a49e75b3ca28c9395c122d09071986.pdf>
3. *日本大学医学部総合医学研究所紀要「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業報告」. 村井建美, 石毛美夏, 風間智彦, 加野浩一郎, 高橋昌里, 麦島秀雄, 松本太郎. マウス急性移植片宿主病モデルに対する脱分化脂肪細胞移植の効果. 5: 46-48, 2017, URL: www.med.nihon-u.ac.jp/research_institute/bulletin/2017/2017_013
4. *日本大学医学部総合医学研究所紀要「創立 50 周年記念研究奨励金(共同研究)研究報告」. 風間智彦. 脱分化脂肪細胞 DFAT における新規マーカーの探索. 4: 25-27, 2017, URL: www.med.nihon-u.ac.jp/research_institute/bulletin/2016/2016_007
5. *日本大学医学部総合医学研究所紀要「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業報告」. 遠山一人, 風間智彦, 加野浩一郎, 平山篤志, 松本太郎. ブタ心外膜下脂肪組織に由来する脱分化脂肪細胞の特性解析. 4: 51-53, 2016, URL: www.med.nihon-u.ac.jp/research_institute/bulletin/2016/2016_015
6. *日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)ホームページ. 松本太郎. 脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療. 2016, URL: https://www.nubic.jp/08seeds/pdf/nubic10023_201601.pdf

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

7. *日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)ホームページ. 松本太郎. 実用性の高い治療用細胞 -脱分化脂肪細胞(DFAT)- GLP 製造を目指した DFAT 製造用培養容器の開発 2016, URL: https://www.nubic.jp/08seeds/pdf/nubic10029_201601.pdf
8. *Denwave.com (歯科医師従事者のための総合情報サイト). 本田雅規. 「ヒト類脂肪体からの脱分化脂肪細胞(DFAT)が入手可能に」【後半】 2016, 5. 13 URL: <https://www.dentwave.com/article/honda42-2/>
9. *Denwave.com (歯科医師従事者のための総合情報サイト). 本田雅規. 「ヒト類脂肪体からの脱分化脂肪細胞(DFAT)が入手可能に」【前半】 2016, 4. 28 URL: <https://www.dentwave.com/article/honda42/>
10. *日本大学ホームページ. 加野浩一郎, 松本太郎. 日本大学の研究 インタビュー 「学部を横断して取り組む DFAT=ディーファットの研究が期待の再生医療の発展に貢献」 2016, URL: <https://www.nihon-u.ac.jp/research/about/interview/>
11. *日本大学医学部総合医学研究所紀要 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業報告」. 渡邊拓史, 萩倉一博, 風間智彦, 高橋昌里, 松本太郎. マウス脱分化脂肪細胞の血管新生作用に関する研究 3: 71-76, 2015, URL: www.med.nihon-u.ac.jp/research_institute/bulletin/2015/2015_019
12. *日本大学医学部機能形態学系 細胞再生・移植医学分野ホームページ. 松本太郎, 風間智彦. 「脱分化脂肪細胞(DFAT)を細胞源とする再生医療」 2015, URL: www.med.nihon-u.ac.jp/department/saisei/dfat.html

<これから実施する予定のもの>
なし

14 その他の研究成果等

【新聞・テレビ報道】

1. 福田昇:「遺伝子制御、創薬の潮流に がん・腎臓病で」日本経済新聞 電子版 2019. 2. 3
2. *松本太郎:「再生医療シンポ開く DFAT、臨床応用の道探る」. 日本大学新聞 第 1337 号 2018. 8. 20
3. *加野浩一郎, 松本太郎: NHKスペシャル「人体 神秘の巨大ネットワーク第2集 驚きのパワー！”脂肪と筋肉”が命を守る」. NHK, 2017. 11. 5
4. *松本太郎:「医学部リサーチセンター」. 日本大学広報特別版, NU excellence 研究者だより 第 40 号 2016. 10. 1
5. *松本太郎:「DFAT, iPS 細胞など本学の3研究室が発表」. アカデミックフォーラム. 日本大学広報 第 697 号, 2016. 6. 15
6. *松本太郎:「基盤形成支援事業の研究発表 DFAT など5件実施」. 日本大学広報 第 692 号 2016. 3. 15
7. *松本太郎:「3年後には臨床試験へ 脱分化脂肪細胞(DFAT)」日本大学広報第 676 号 2015. 2. 15
8. *副島一孝:「皮膚再建時の DFAT の有用性を動物実験で確認」 Medical Tribune 2015. 5. 15
9. *松本太郎, 加野浩一郎:「DFAT 研究に熱い視線 バイोजパン 2015」日本大学広報 第 687 号 2015.11.15
10. *松本太郎:「足の血流改善狙い脂肪から細胞育成」. 日本経済新聞 2015. 12. 21

【展示会等】

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

1. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)による再生医療(出展者プレゼンテーション), 再生医療 JAPAN2018, パシフィコ横浜, 横浜市, 2018. 10. 12
2. 福田 昇: 皮膚瘢痕に対するヒト TGF- β に対する PI ポリアミドの創薬開発 (口頭発表とポスター展示) アカデミックフォーラム, 東京, 2018. 1. 24
3. *松本太郎: 日本大学における再生医学研究 (講演), 日本大学医学部オープンキャンパス, 東京, 2015. 7. 23-24
4. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療 (出展者プレゼンテーション), BioJapan2015, 横浜, 2015.10.16
5. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療 (出展者プレゼンテーション), メディカルジャパン 2016 アカデミックフォーラム, 大阪, 2016. 2. 24
6. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)による細胞治療 (出展者プレゼンテーション), ライフサイエンスワールド 2016 第 13 回アカデミックフォーラム, 東京, 2016. 5.13
7. *松本太郎: 日本大学における再生医学研究 (講演), 日本大学医学部オープンキャンパス, 東京, 2016. 7. 28-29
8. *松本太郎: 脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療 (出展者プレゼンテーション), BioJapan2016 再生医療 Japan2016, 東京, 2016.10.14

【本研究プロジェクトに係わる受賞】

1. *萩原玲子, 沖嘉尚, 加野浩一郎: 成熟脂肪細胞に由来する脱分化脂肪細胞 DFAT の肝細胞への分化.(優秀演題賞), 日本畜産学会第 124 回大会, 東京大学弥生キャンパス, 東京, 2018. 3. 28
2. *Soejima K, Kashimura T, Asami T, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H. Effects of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on generation and vascularization of dermis like tissue after artificial dermis grafting. J Plast Surg Hand Surg 49(1): 25-31, 2015 (第 59 回日本形成外科学会学術奨励賞 2016 年)
3. *秋田大輔, 加野浩一郎, 田村瑛子, 真下貴之, 鶴町仁奈, 新井嘉則, 山中克之, 金子正, 塩野目桃子, 月村直樹, 松本太郎, 磯川桂太郎, 石上友彦, 本田雅規: DFAT 細胞による歯周組織再生. (優秀演題賞), 第 36 回日本炎症・再生医学会, 虎ノ門ヒルズフォーラム, 東京, 2015. 7. 21

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

なし

法人番号	131075
プロジェクト番号	S1411018

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 26 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	11,900	4,558	7,342				
	研究費	36,905	19,421	17,484				
平成 27 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	41,824	23,164	18,660				
平成 28 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	44,565	28,580	15,985				
平成 29 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	45,534	29,155	16,379				
平成 30 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	45,662	21,639	24,023				
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	11,900	4,558	7,342	0	0	0	0
	研究費	214,490	121,959	92,531	0	0	0	0
総 計	226,390	126,517	99,873	0	0	0	0	

法人番号

131075

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

施設名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
医学部創設70周年記念館(リサーチセンター)	H12年度	5,722 m ²	8	20	-----	-----	日本大学
実験医学研究所	S41年度	1,331 m ²	4	13	-----	-----	日本大学

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) 該当なし				h h h h h			
(研究設備) FACS Aria II uセルソーター	H26年度	BD, Facs Aria	1	466.5 h	11,900	7,342	私学助成
(情報処理関係設備) 該当なし				h h h h h			

法人番号

131075

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	11,588	研究用消耗品	11,588	試薬、実験動物、プラスチック製品
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	12	研究試料送付	12	研究試料運搬
印 刷 製 本 費	0		0	
旅 費 交 通 費	97	学会旅費	97	学会旅費(仙台、神戸、和歌山)
報 酬・委 託 料	833	業務委託	833	検査委託料
(修 繕 費)	977	機器修繕	977	超低温槽修理
(雑 費)	42	学会参加	42	学会参加費
計	13,549		13,549	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出	896	研究補助	896	時給 950円, 年間時間数 941.5時間, 実人数1人
(兼 務 職 員)	2,079	研究補助	2,079	時給 1,050円, 年間時間数 1,576時間, 実人数1人
	3,817	研究補助	3,817	月給 280,000円, 年間時間数 1,464時間, 実人数 1人 ※所定福利費等を含む
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0	
計	6,792		6,792	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	16,051	研究用機器	16,051	CO2インキュベーター、極微量分光光度計 他
図 書	0		0	
計	16,051		16,051	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	513	リサーチ・アシスタント	513	学内1人
ポスト・ドクター	0		0	
研究支援推進経費	0		0	
計	513		513	学内1人

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	15,190	研究用消耗品	15,190	試薬、実験動物、プラスチック製品
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	0		0	
印 刷 製 本 費	0		0	
旅 費 交 通 費	316	学会旅費	316	学会旅費(福岡、富山、名古屋、大阪)
報 酬・委 託 料	512	業務委託	512	検査委託料
(修 繕 費)	4,348	機器修繕	4,348	X線照射装置修理
(雑 費)	61	学会参加	61	学会参加費
計	20,427		20,427	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出	1,881	研究補助	1,881	時給 950円, 年間時間数 1,526時間, 実人数1人
(兼 務 職 員)	904	研究補助	904	時給 1,000円, 年間時間数 804時間, 実人数1人
	3,650	研究補助	3,650	時給 1,100円, 年間時間数 2,541時間, 実人数 2人 ※所定福利費等を含む
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0	
計	6,435		6,435	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	11,229	研究用機器	11,229	iMarkマイクロプレートリーダー 他
図 書	0		0	
計	11,229		11,229	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	3,733	リサーチ・アシスタント	3,733	学内2人
ポスト・ドクター	0		0	
研究支援推進経費	0		0	
計	3,733		3,733	学内2人

年度		平成 28 年度		法人番号	131075
小科目	支出額	積算内訳			
		主な使途	金額	主な内容	
教育研究経費支出					
消耗品費	20,851	研究用消耗品	20,851	試薬、実験動物、プラスチック製品	
光熱水費	0		0		
通信運搬費	0		0		
印刷製本費	0		0		
旅費交通費	66	学会旅費	66	学会旅費(仙台)	
報酬・委託料	1,634	業務委託	1,634	検査委託料、パラフィンブロック作製	
(修繕費)	1,731	機器修繕	1,731	ビペットマン修理、ディーブリーザー修理	
(雑費)	15	学会参加	15	学会参加費	
計	24,297		24,297		
アルバイト関係支出					
人件費支出 (兼務職員)	4,944	研究補助	969	時給 1,000円, 年間時間数 951時間, 実人数 1人	
		研究補助	2,425	時給 1,250円, 年間時間数 1,605時間, 実人数 1人	
		研究補助	1,550	時給 1,100円, 年間時間数 1,128時間, 実人数 1人	
				※所定福利費等を含む	
教育研究経費支出	0		0		
計	4,944		4,944		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	7,214	研究用機器	7,214	全自動セルカウンター 他	
図書	0		0		
計	7,214		7,214		
研究スタッフ関係支出					
リサーチ・アシスタント	3,478	リサーチ・アシスタント	3,478	学内2人	
ポスト・ドクター	4,632	ポスト・ドクトラル・フェロー	4,632	学内1人	
研究支援推進経費	0		0		
計	8,110		8,110	学内3人	

年度		平成 29 年度			
小科目	支出額	積算内訳			
		主な使途	金額	主な内容	
教育研究経費支出					
消耗品費	13,868	研究用消耗品	13,868	実験動物用飼料, 試薬, 実験動物, プラスチック製品等	
光熱水費	0		0		
通信運搬費	3	輸送	3	サンプル輸送のための宅配代金	
印刷製本費	0		0		
旅費交通費	283	学会旅費	283	学会参加旅費(沖縄等)	
報酬・委託料	5,408	業務委託	5,408	検査委託料	
(修繕費)	1,569	機器修繕	1,569	オートクレープ処理, 遠心機修理, ビペットマン修理等	
(雑費)	27	学会参加費	27	学会参加費等	
計	21,158		21,158		
アルバイト関係支出					
人件費支出 (兼務職員)	3,987	研究補助	938	時給 1,000円, 年間時間数 917時間, 実人数 1人	
		研究補助	2,664	時給 1,400円, 年間時間数 1432時間, 実人数 1人	
		研究補助	385	時給 1,100円, 年間時間数 297時間, 実人数 1人	
				※所定福利費等を含む	
教育研究経費支出	0		0		
計	3,987		3,987		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	9,061	研究用機器	9,061	オールインワン蛍光顕微鏡等	
図書	0		0		
計	9,061		9,061		
研究スタッフ関係支出					
リサーチ・アシスタント	0		0		
ポスト・ドクター	11,328	ポスト・ドクトラル・フェロー	11,328	学内3人	
研究支援推進経費	0		0		
計	11,328		11,328	学内3人	

法人番号

131075

年 度	平成 30 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	16,640	研究用消耗品	16,640
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	152	輸送	152
印 刷 製 本 費	0		0
旅 費 交 通 費	387	学会旅費	387
報 酬 ・ 委 託 料	852	業務委託	852
(修繕費)	3,254	機器修繕	3,254
(雑費)	24	学会参加	24
計	21,309		21,309
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出	3,454	研究補助	831
(兼務職員)		研究補助	2,623
教育研究経費支出			
計	3,454		3,454
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	12,767	研究用機器	12,767
図 書	0		0
計	12,767		12,767
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	8,132	ポスト・ドクトラル・フェロー	8,132
研究支援推進経費	0		0
計	8,132		8,132

時給 1,000円, 年間時間数 827時間, 実人数 1人
 時給 1,550円, 年間時間数 1430時間, 実人数 1人
 ※所定福利費等を含む

マルチ検出モードプレートリーダー等

学内2人
 学内2人